

鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書 (35)

一般国道3号線隈之城バイパス  
建設に伴う発掘調査報告書(2)

# 成岡遺跡 II

1985. 3

鹿児島県教育委員会

## 序 文

この報告書は、一般国道3号線隈之城バイパスの建設に先だって、県教育委員会が実施した成岡遺跡の発掘調査の記録です。

成岡遺跡は、旧石器時代から鎌倉時代にまで及ぶ重層遺跡として注目されます。調査の結果、旧石器時代の細石器やナイフ形石器、縄文時代早期の押型文土器、古墳時代の住居跡、奈良時代から鎌倉時代にかけての多数の陶磁片等、貴重な資料が発見されました。また、この近くには、古代の官衛跡と推定される西之平遺跡もあり、それらと比較検討することにより、さらに豊富な学問的成果が期待されます。

この報告書が、地域の歴史研究や文化財の保護に活用されることを願ってやみません。

終わりに、この発掘調査に終始御尽力御協力くださった建設省鹿児島国道工事事務所、地元の川内市教育委員会並びに関係者の皆さんに心から感謝いたします。

昭和60年3月

鹿児島県教育委員会

教育長 山 田 克 穂

## 例 言

1. この報告書は、一般国道3号線隈之城バイパスの建設に伴って実施した成岡遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、建設省鹿児島国道工事事務所から委託を受け、鹿児島県教育委員会が実施した。
3. 当遺跡の発掘調査は昭和55年度から昭和59年度まで第1次～第3次に亘って実施したもので、本書は昭和59年度第3次発掘調査の報告書である。なお、第1次第2次発掘調査については、すでに鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(28)「成岡・西ノ平・上ノ原遺跡」として刊行を行っている。
4. 本書の執筆及び編集は、牛ノ浜、宮田が行ったが、第6章第2節を文化課職員の弥栄久志が行い、土器トレースに中村耕治の協力を得た。
5. 出土品は、文化課収蔵庫に保管している。
6. 本書で用いたレベル数値は、すべて海拔高である。
7. 本書で用いた挿図中の通し番号は、図版中の番号と同一である。

# 目 次

序 文	
例 言	
第1章 遺跡の位置及び環境	4
第2章 調査の経過	7
第1節 調査に至るまでの経過	7
第2節 調査の組織	7
第3節 調査の経過	8
第3章 調査の概要	9
第4章 層 序	13
第5章 旧石器時代	14
第1節 概 要	14
1. はじめに	14
2. 石材について	14
第2節 Aユニット	16
第3節 Bユニット	20
第4節 Cユニット	25
第5節 小 結	59
第6章 縄文時代	62
第1節 早 期	62
第2節 晩 期	62
第7章 古墳時代	67
第8章 奈良～室町時代	78
第9章 まとめ	89



## 挿 図 目 次

第1図 成岡遺跡と周辺遺跡……………5	第34図 20号住居跡……………67
第2図 成岡遺跡グリッド配置図……………10	第35図 20号住居跡出土土器……………68
第3図 土層断面図……………11～12	第36図 20号住居跡出土須恵器……………69
第4図 ユニット配置図……………15	第37図 21号住居跡……………70
第5図 Aユニット遺物分布図……………17	第38図 21号住居跡出土土器……………71
第6図 Aユニット出土石器(1)……………18	第39図 22号住居跡……………72
第7図 Aユニット出土石器(2)……………19	第40図 22号住居跡出土土器……………73
第8図 Bユニット遺物分布図……………21	第41図 22号住居跡出土紡錘車……………74
第9図 Bユニット出土石器(1)……………22	第42図 土器出土状況……………74
第10図 Bユニット出土石器(2)……………23	第43図 甕形土器……………74
第11図 Cユニット遺物分布……………26	第44図 高坏, 埴……………75
第12図 Cユニット器種別分布……………27	第45図 奈良～鎌倉時代の遺構配置図……………77
第13図 Cユニット遺物投影図……………28	第46図 23号住居跡……………78
第14図 Cユニット出土細石刃(1)……………29	第47図 溝状遺構出土の土器……………79
第15図 Cユニット出土細石刃(2)……………30	第48図 土錘……………79
第16図 Cユニット出土細石刃核(1)……………32	第49図 ピット状遺構……………80
第17図 Cユニット出土細石刃核(2)……………33	第50図 ピット状遺構出土遺物……………80
第18図 Cユニット出土細石刃核(3)……………34	第51図 土師器(皿・坏・埴)……………81
第19図 Cユニット出土細石刃核(4)……………35	第52図 土師器(甕・壺・鉢)……………82
第20図 Cユニット出土細石刃核(5)……………36	第53図 内黒土師器(坏・埴)……………83
第21図 Cユニット出土細石刃核(6)……………37	第54図 燈明皿……………83
第22図 Cユニット出土細石刃核(7)……………38	第55図 須恵器, ふいご口……………84
第23図 Cユニット出土尖頭器(1)……………39	第56図 須恵器(1)……………85
第24図 Cユニット出土尖頭器(2)……………40	第57図 須恵器(2)……………86
第25図 Cユニット出土ナイフ形石器……………41	第58図 青・白磁……………87
第26図 Cユニット出土削器(1)……………42	第59図 石製品(滑石製品)……………88
第27図 Cユニット出土削器(2)……………43	第60図 古銭拓影……………88
第28図 細石刃核分類模式図……………60	
第29図 押型文土器……………62	付図 成岡遺跡全体図
第30図 土埴……………63	
第31図 晩期の土器……………64	
第32図 土埴出土の土器……………65	
第33図 古墳時代の遺構配置図……………66	

## 表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧表	6	第10表	Cユニット石器一覧表(7)	51
第2表	Aユニット石器一覧表	19	第11表	Cユニット石器一覧表(8)	52
第3表	Bユニット石器一覧表	24	第12表	Cユニット石器一覧表(9)	53
第4表	Cユニット石器一覧表(1)	45	第13表	Cユニット石器一覧表(10)	54
第5表	Cユニット石器一覧表(2)	46	第14表	Cユニット石器一覧表(11)	55
第6表	Cユニット石器一覧表(3)	47	第15表	Cユニット石器一覧表(12)	56
第7表	Cユニット石器一覧表(4)	48	第16表	Cユニット石器一覧表(13)	57
第8表	Cユニット石器一覧表(5)	49	第17表	Cユニット石器一覧表(14)	58
第9表	Cユニット石器一覧表(6)	50	第18表	堅穴住居跡一覧表	76

## 図 版 目 次

図版1	1.発掘前 2.成岡遺跡航空図(2次調査)	91
図版2	1.2 土層図	92
図版3	1.ナイフ形石器出土状況 2.尖頭器出土状況	93
図版4	1.発掘風景 2.Cユニット遺物出土状況	94
図版5	1.削器出土状況 2.尖頭器出土状況	95
図版6	1.Aユニット出土石器 2.Bユニット出土石器	96
図版7	1.Bユニット出土石器 2.Cユニット出土石器(細石刃)	97
図版8	1.Cユニット出土石器(細石刃・細石刃核) 2.Cユニット出土石器(細石刃核)	98
図版9	1.Cユニット出土石器(細石刃核) 2.Cユニット出土石器(細石刃核)	99
図版10	1.Cユニット出土石器(ナイフ形石器) 2.Cユニット出土石器(尖頭器)	100
図版11	1.Cユニット出土石器(削器) 2.Cユニット出土石器(削器)	101
図版12	1.押型文土器 2.土壇遺物出土状況	102
図版13	1.土壇遺物出土状況 2.土壇	103
図版14	1.土壇内出土土器	104
図版15	土壇内出土土器	105
図版16	1.20号住居跡 2.21号住居跡	106
図版17	1.22号住居跡 2.21号住居跡出土土器	107
図版18	1.21号住居跡出土土器 2.高坏出土状況	108
図版19	土師器	109
図版20	1.溝状遺構 2.溝状遺構出土土器	110
図版21	1.溝状遺構出土土鍾 2.燈明皿出土状況	111
図版22	1.ピット状遺構 2.出土遺物	112
図版23	1.青磁 2.調査メンバー	113

## 第1章 遺跡の位置及び環境

日本一の大綱引きで知られる川内市は、鹿児島県の北西部に位置する。かつて薩摩国府が置かれ、国分寺等が建立されるなど、古代にあっては薩摩の政治・文化の中心地であった。市の中心部は、熊本県白髪岳に源を発する川内川が、国見山地・出水山地より流出する多数の河川を集め豊富な水量となって、137kmの長旅をして東シナ海へと注いでいる。

成岡遺跡は、鹿児島県川内市中福良町に所在し、川内市街地の南約3km、国鉄鹿児島本線隈之城駅の西約1kmの位置にある。遺跡は、弁財天山（標高519m）・平原山（506m）を中心とする高江山地から、東方向になだらかに連なる丘陵の末端部に位置し、標高約20mの比較的平坦な台地縁辺部である。台地の南側には、木場谷川が東流し、百次川と合流して丘陵をめぐるように北流するため、丘陵の南から東にかけて沖積平野が発達している。丘陵末端に形成された台地の縁辺部は、数ヶ所の湧水点が存在し、最近まで飲料水等に利用されていた。

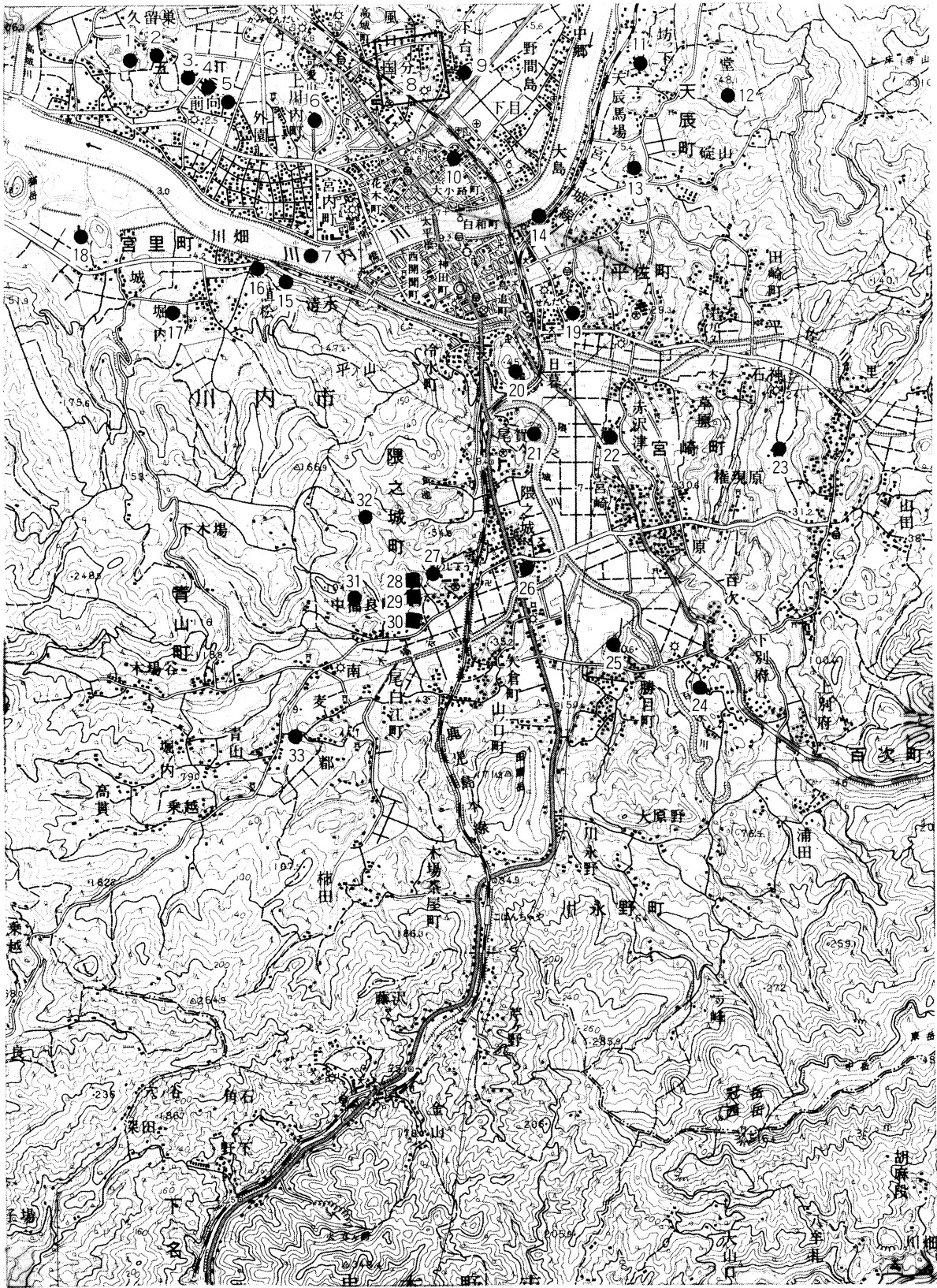
川内市には、鹿児島県内初の旧石器時代遺物（尖頭器）が確認された楠元遺跡や、石包丁・石鎌等弥生時代前期の遺物が出土した若宮遺跡、小形仿製鏡の出土した外川江遺跡、地下式板石積石室の中に蛇行剣が副葬された横岡古墳が知られている。

本遺跡周辺では、縄文時代の遺跡として約1700m程北々東の位置にある尾賀台遺跡、またすぐ近くには川内実業高ランド遺跡などがある。尾賀台遺跡は標高40mを測る狭い台地で、市来式土器を出土する。石斧・敲石等も出ており、台地の東斜面には貝塚もつくられている。また周辺の低地からも石斧などが出土している。川内実業高ランド遺跡からは後期の土器が、ランド造成時に出土している。宮崎町赤沢津遺跡、寄田町寄田遺跡でも市来式土器が出ている。青山町では川底より石斧が出土している。

弥生時代終末から古墳時代にかけては宮里町日吉、同安養寺丘、宮崎町赤沢津、向田町日暮丘などの遺跡に土器の散布がみられる。これらの中には、赤沢津遺跡のように広大な低台地上にあるものもあって、この隈之城平野に生産の基盤を置いた人達の集落が周辺の台地上に形成されたであろうことをうかがわせる。

奈良時代には薩摩国薩摩郡に属しており、当遺跡付近は避石郷ひられいしであろうとされる。川内川対岸の高城郡が国府・国分寺など主要な役所・寺を残すのに対し、こちらにはそうしたものが少ない。現在、山頂付近に公園のつくられている寺山の山麓には平安時代後半の軒丸瓦・軒平瓦などを出土する天辰廃寺があり、礎石と思われる巨石も残っている。宮里町清水寺近くには経塚があり、滑石製の経筒などが出土している。湯の谷の谷頭は永野段あたりからの地下水が湧出し、巨石が累々としているが、この傾斜面の一部に土師器の壺・坏・皿などが集積し、完形品も多く出土している。

鎌倉時代以降では碇山城・百次城・隈之城などの山城がある。また、本遺跡の西方約500mの所には平礼石寺跡があり、現在、雑木林のなかでは仁王像が転がった五輪塔を見つめている。



第1図 成岡遺跡と周辺遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧表

図番	遺跡名	所在地	地形	概要
1	久留巢原	五代町久留巢	台地	弥生時代中期～平安時代の散布地
2	大將軍神社	〃 〃	〃	祭神はタケミカツチノミコト
3	崎原	〃 崎原	微高地	弥生式土器散布地
4	若宮	〃 若宮	〃	弥生式土器・石庖丁・石鎌, 板石積石室
5	戦の原	〃 戦原	〃	弥生式土器散布地
6	新田神社	宮内町可愛山	丘陵	中世以降, 薩摩国一の宮
7	弥勒寺	〃	川底	『弥勒寺』の逆プリント文字のある瓦出土
8	薩摩国府跡	御陵下町	台地	六町四方の庁域
9	薩摩国分寺跡	国分寺町	〃	国指定史跡。史跡公園として整備中
10	泰平寺	大小路町	微高地	2町×1.5町の寺域。鎌倉時代には存在
11	天辰	天辰町坊下	台地	古墳時代土師器散布地
12	天辰廃寺	〃 川原	山麓	平安時代後半の軒丸瓦・軒平瓦が出土
13	碓山城	〃 碓山	丘陵	中世山城
14	白羽火雷神社	平佐町	微高地	
15	清水経塚	宮里町清水	山麓	嘉永3年5月1日銘, 滑石製蓋付経筒
16	志奈尾神社	〃	〃	
17	日吉	〃 堀之内日吉	微高地	古墳時代土師器散布地。鉄刀
18	安養寺丘	〃 安養寺丘	山麓	〃 箱式石室墓
19	平佐城	平佐町藤崎	丘陵端	中世山城
20	日暮丘	向田町日暮丘	独立丘	弥生式土器散布地
21	尾賀台貝塚	隈之城町尾賀古寺	〃	縄文式土器(後期)散布地。石斧。貝塚
22	赤沢津	〃 赤沢津	台地	古墳時代土師器散布地
23	若宮神社	永利町	〃	土師器散布地
24	百次城	百次町	丘陵端	中世山城
25	坪塚	勝目町	〃	条里制施行の基点
26	隈之城	隈之城町	丘陵	中世山城
27	川実高ランド	中福良町	台地	縄文式土器(後期)散布地。消滅
28	上ノ原	〃 上ノ原	〃	縄文時代～室町時代遺物散布
29	西ノ平	〃 西ノ平	〃	旧石器時代～江戸時代 掘立柱建物, 溝
30	成岡	〃 成岡	〃	〃 住居跡, 〃 〃
31	平礼石寺	〃 〃	〃	平安時代古石塔
32	湯之谷奥	〃	山麓	〃 高坏, 壺
33		青山町	川底	磨製石斧採集

〈参考文献〉

『薩摩国府跡・国分寺跡』鹿児島県教育委員会 1975  
 池畑耕一, 川畑昭光他「成岡・西ノ原・上ノ原遺跡」鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(28) 1983  
 青崎和憲, 繁昌正幸「外川江遺跡・横岡古墳群」鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(30) 1983  
 『鹿児島県市町村別遺跡地名表』鹿児島県教育委員会 1977

## 第2章 調査の経過

### 第1節 調査に至るまでの経過

建設省は隈之城駅付近で終日、渋滞を続ける一般国道3号線の緩和を図るために、昭和47年に木場茶屋駅付近から川内駅付近に至るバイパスの建設を計画した。

県文化課では、昭和53年11月に分布調査を実施し、字成岡、西ノ平、上ノ原の台地上に土師器等が散布していることを確認した。分布調査の結果に基づき、建設省と鹿児島県教育委員会は遺跡の処理について協議を重ね、昭和55年12月1日より昭和56年2月5日まで確認調査（第1次調査）を行い、昭和56年10月12日から昭和57年3月31日、5月24日から11月25日まで2次調査を行った。

第2次調査の結果、成岡遺跡について第3次調査が必要となり、建設省鹿児島国道事務所と鹿児島県教育委員会文化課との間で話し合いが続けられた。そして、昭和59年4月16日に委託者分任支出負担行為担当官九州地方建設省鹿児島国道工事事務所長肥田木修と受託者鹿児島県知事鎌田要人との間に委託契約が締結され、4月23日より調査が始まった。

### 第2節 調査の組織

調査主体者	鹿児島県教育委員会教育長	山田 克穂
調査責任者	文化課 課長	桑原 一廣
	課長補佐	本田 武郎（～S.59.6）
	課長補佐	坂口 肇（S.59.7～）
	主幹	中村 文夫
調査企画者	主任文化財研究員	諏訪昭千代（～S.59.9）
	主任文化財研究員	向山 勝貞（S.59.9～）
調査担当者	主事	牛ノ浜 修
	主事	宮田 栄二
事務担当者	係長	寺園 晃
	主査	濱松 巖（S.59.9～）
	主事	畑 征治（～S.59.9）
	主事	田中 孝子
指導助言者	鹿児島県文化財保護審議会委員	河口 貞徳

その他、岡山理科大学 鎌木義昌教授、小林博昭助教授、岡山大学 稲田孝司助教授には旧石器の遺物の指導・助言を得、前回調査者の池畑耕一氏、川畑昭光氏には、再々遺跡にて助言を得た。地層については徳之島高校の成尾英仁氏の指導・助言を得た。

### 第3節 調査の経過

発掘調査は、昭和59年4月23日から昭和59年7月27日まで行ったが、経過は日誌抄により以下略述する。

- 4月23日（月） 午前中 建設省鹿児島工事事務所，北薩教育事務所，川内市教育委員会へあいさつ。発掘用具搬入，テント設営。調査開始。雑草刈り。
- 4月24日（火） 2次調査のトレンチ清掃。
- 4月25日（水） 16区トレンチ4層掘り下げ。
- 4月26日（木） 16I区5層上面ナイフ形石器出土。
- 4月27日（金） 14～16丁，K区（Aユニット）4層黒曜石片出土。
- 5月1日（火） 27～31G～I工区（Bユニット）4層掘り下げ。29G区4層剥片尖頭器出土。
- 5月8日（水） 29～32A～C区表土はぎ開始。表土中に土師器片・青磁片出土する。
- 5月9日（木） 32～36E区3～4層掘り下げ。細石器出土する。
- 5月15日（火） 32～36C～E区（Cユニット）3～4層にかけて細石器出土する。
- 5月21日（月） 26～34A～D区表土はぎ。
- 5月28日（月） 26～34A～D区表土はぎ終了。
- 5月29日（火） 26～34A～D区遺構検出作業。
- 6月4日（月） 25，26B～D区表土はぎ終了。
- 6月5日（火） 25，26B～D区表層下に旧道あり，近代の染付等の集中したチリ溜め検出。
- 6月12日（火） 6～31A～C区溝状遺構検出。内黒土師器が出土する。
- 6月15日（金） Cユニット4層掘り下げ。
- 6月21日（木） 34C区3層落ち込みのピット状遺構（土壇）検出作業。黒川式土器出土。
- 6月25日（月） 成尾英仁氏，地層について指導。
- 6月26日（火） 土壇掘り下げ終了（実測図）。
- 7月2日（月） 28～31区遺構検出作業。
- 7月6日（金） 20号住居跡検出。河口貞徳氏調査指導。
- 7月9日（月） 21号住居跡検出。
- 7月18日（水） 30D区遺構検出作業。30区南側断面図作成。
- 7月19日（木） 22号住居跡検出。
- 7月20日（金） Cユニット掘り下げ。遺構実測。
- 7月23日（月） 23号住居跡検出。
- 7月24日（火） 遺構実測終了。
- 7月26日（木） Cユニット集中部実測図作成。
- 7月27日（金） 発掘終了。道具の清掃，点検。

### 第3章 調査の概要

成岡遺跡は、弁財天山・平原山を中心とする高江山地から、東方向になだらかに連なる丘陵の末端部に位置する、標高約20mの平坦な台地縁辺部にある。

第2次調査によって、区割等は行われていたので、今回は2次調査と同様のグリッド配置を行い、5m間かくの区割を行った。

今回の調査範囲は、24～33区、A～Eの未買収地の区域と旧石器時代の確認及び調査であった。したがって今回の調査面積は2,100㎡であった。次に時代を追って概要を記したい。

旧石器時代の遺構として3ヶ所のユニットを検出した。13～16・I～K区のAユニット、26～32・F～K区のBユニット、32～37・A～F区のCユニットである。Bユニットは2次調査によって確認されていたユニットである。石材も豊富で、石器も細石刃・細石刃核・ナイフ形石器・尖頭器等多種なものが出土した。Bユニットはわりあい石材が単純化し、石器の種類は豊富である。Cユニットは大集中した箇所であり、石材・石器等の出土状況は今後の編年上重要である。

縄文時代の遺構として、30C区に縄文晩期の研磨土器が埋土されている土壇が検出された。浅鉢形土器・深鉢形土器が出土し、同時期のセットとみることが出来、今後の資料に必要なものであった。それに全体に広く散布して押型文土器が出土した。

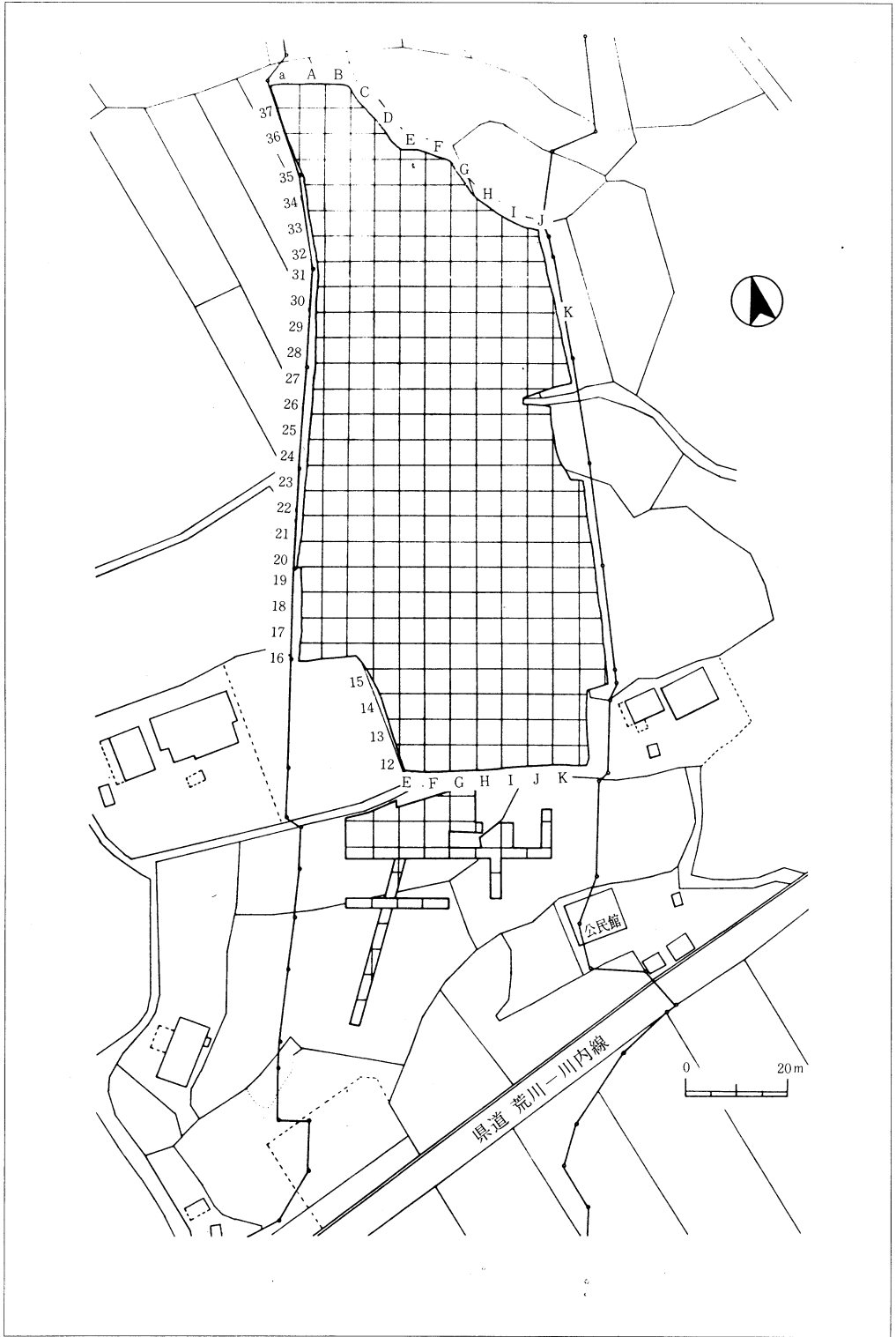
古墳時代の遺構は、前回14区から30区の範囲に16軒の竪穴住居跡が検出されていたが、今回の調査では3基検出し、総計19軒検出されたことになる。すべて方形をしており、中央に炉をもっている点は共通している。今回も主柱穴は検出されなかった。住居内には、甕形土器・壺形土器・鉢形土器・高坏・須恵器・紡錘車等がはいっていた。

奈良・平安時代の遺物は多く出土したが、遺構は検出されなかった。

鎌倉時代の遺構は、前回は溝・竪穴住居跡を検出した。今回も竪穴住居跡を26C区に検出した。南北方向に長い方形住居跡で内部に柱穴は検出出来ず、遺物も出土しなかった。溝状遺構は26～31・B～D区に検出され、前回調査の溝状遺構2の続きとみられる。柱穴も多く検出したが、まとまるものが検出出来なかった。

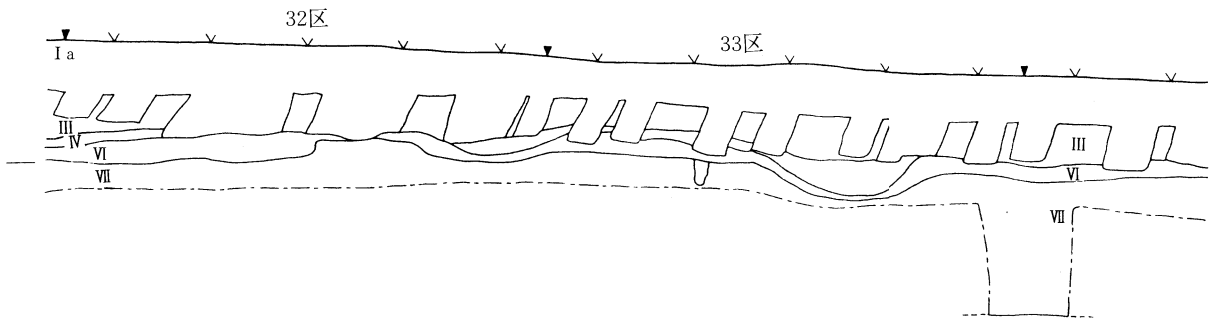
25・26区には江戸時代以降の古道が検出された。古道の中からは、染付等の徳利・碗等が出土した。



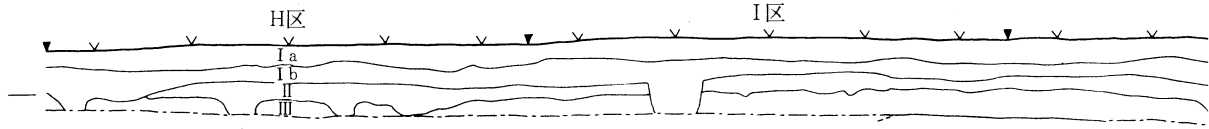


第2図 成岡遺跡グリッド配置図

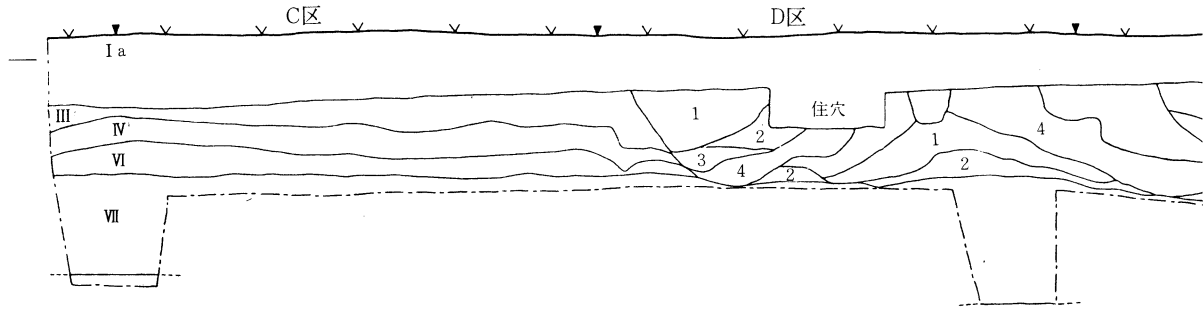
G区西壁

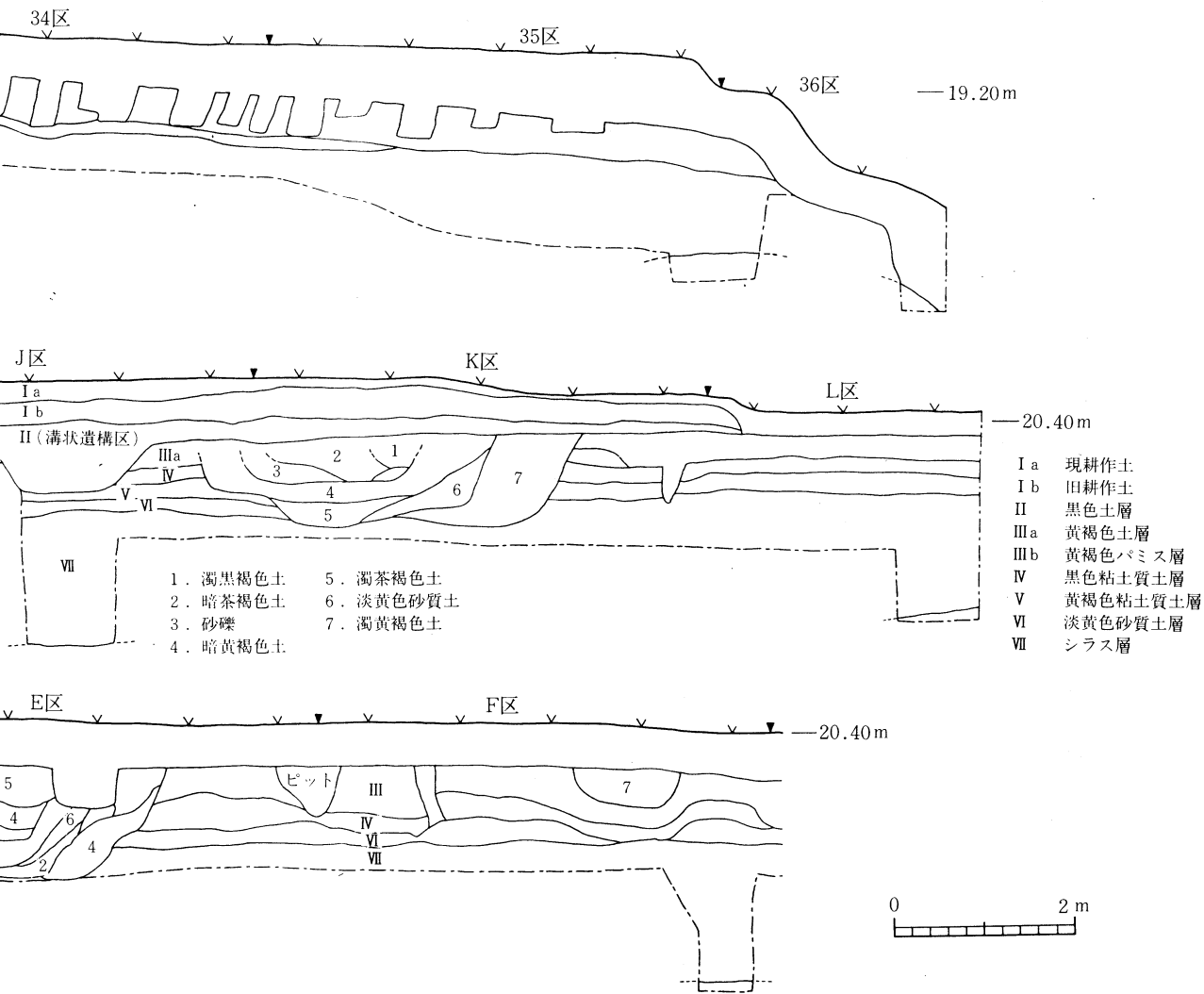


19区北壁



31区北壁





第3図 土層断面図

## 第4章 層 序

遺跡の所在する成岡の台地は、基盤岩の溶結凝灰岩を入戸火砕流（シラス）が厚さ3～5mで覆い、その上に砂礫層や新期火山灰層などが堆積している。基本的な層序は、一部修正したが2次調査の結果に基づいた。

I a	I a 層 表層であり、現在の耕作土である。
I b	I b 層 旧耕作土で、淡茶褐色を呈する。
II	II 層 黒褐色の腐植土で、奈良～中世の遺物を包含する。 耕作等で削平され部分的にしか見られない。
III a	III a 層 黄褐色軟質土層で、通称赤ホヤ、赤ボッコと呼ばれるものである。 台地の平坦部では厚さ30～40cmであるが、傾斜面では、二次堆積的な濁黄褐色を呈するところがある。縄文時代の遺物を包含する。
III b	III b 層 黄褐色バミス層で、連続した堆積はなく、ブロック状になるところもある。無遺物層である。
IV	IV 層 黒色粘質土で40～50cmの厚さを有する。旧石器時代の細石刃・細石刃核等の遺物が包含されている。
V	V 層 黄褐色粘質土で厚さは5～15cmを有する。上層に旧石器時代の遺物がみられる。
VI	VI 層 淡黄褐色砂質土で、シラスの二次堆積的性格をもつ。
VII	VII 層 シラス層（入戸火砕流）である。

### 局部断層

桑ノ丸遺跡の調査によって認識された局部断層は、その後の調査によって霧島山地西方の溝辺町、横川町、栗野町に集中していることが報告されていたが、本遺跡でも34～37区に集中的に見られ13ヶ所発見された。層の横転が多く、III層より下層が水平方向に並び、各層がビット状の外観を呈する。

⑩ 鹿児島県教育委員会「石峰遺跡」鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（12）1980

## 第5章 旧石器時代

### 第1節 概要

#### 1. はじめに

2次調査の結果、27～30区、I～K区付近に、剥片尖頭器・細石刃・細石刃核・剥片などの石器の出土がみられた。この結果、本遺跡は、旧石器時代より近世までの遺跡であることが確認された。遺物の出土は、第4図に見られるように、3ヶ所のまとまりをもって構成されている。それをユニットと呼称し、台地南部から検出順に、Aユニット、Bユニット、Cユニットと名称した。層位は第Ⅳ層（黒色粘質土層）に限られ、Ⅲ層下部、Ⅴ層上部にも若干認められる。約40～50cmの中に包含され出土遺物の多いところではレンズ状に検出された。

#### 2. 石材について

石材については、黒曜石、チャート、頁岩、砂岩、鉄石英、メノウ、凝灰岩質頁岩、安山岩等多くの石材が検出された。その中で黒曜石は肉眼的観察によって大きく5つに大別される。

##### 黒曜石

A類……灰色を呈する黒曜石で一見ハリ質安山岩に類似するものである。

B類……黒色もしくはアメ色を呈する良質の黒曜石であり、稀に白色の気泡が入ることもある。

鹿児島県内では原産地が不明であるが、川内川流域ではよくみられ、熊本県人吉市大塚桑ノ木津留の林道脇に円礫として断面中（二次シラス）に包含されているのが見られる。

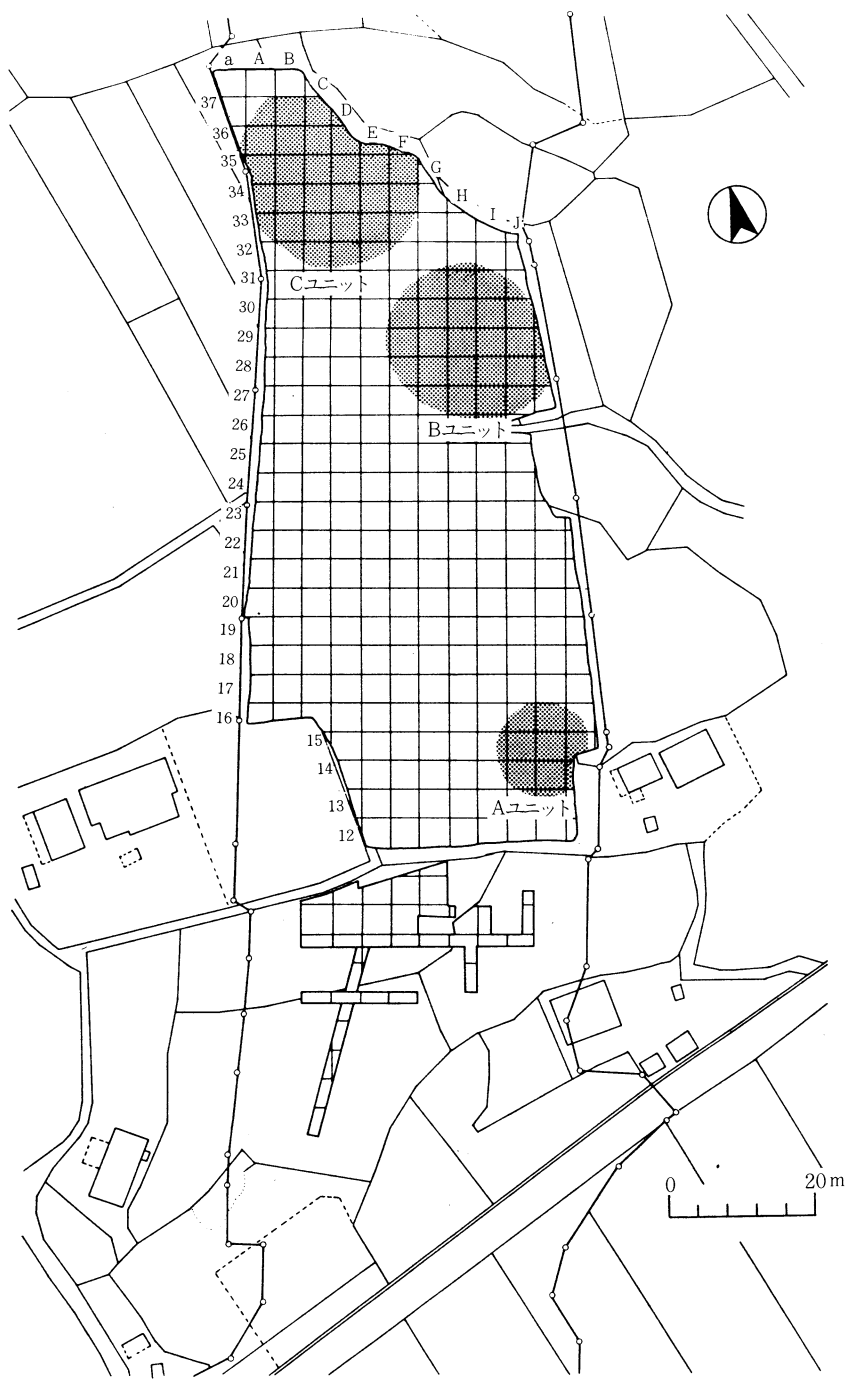
C類……ガラス質が弱く、一見石炭を思わせるものである。風化が著しく進み、淡黒色を呈するが内面はまっ黒であり光を通さない。気泡は少く軽石が混る良質の黒曜石である。褐色のベルトが入ることもある。薩摩郡樋脇町上牛鼻の原石と推定される。

D類……黒色を呈する黒曜石であり、気泡が多く鹿児島県内においては、肝属郡根占町長谷、鹿児島市吉野町三船、大口市平出水日東が知られ、熊本県人吉市田野町白浜林道の黒曜石も県内の遺跡から出土している。長谷の原石は阿多溶結凝灰岩の中にレンズ状に含まれている。三船の原石は、強く溶結し柱状節理の発達した吉野火砕流の中にレンズ状の黒曜石が含まれている。黒曜石は灰色っぽく黒い線が入ることもある。日東の原石は雲母・長石の細片が多く、原石の表面は軽石を切った様な平坦面である。白浜林道の原石は淡黒色で茶色の斑点があり気泡はやや少い。縁辺部が褐色に光る。この様に各原産地の黒曜石は特徴がみられるが、1点1点を肉眼的に識別するのは困難であった。

E類……A～D類に該当しないその他の黒曜石についても一括した。

##### 凝灰岩質頁岩

凝灰質シルトのことであり、吉田町から入来町にかけて層がみられる。



第4図 ユニット配置図

## 第2節 Aユニット

14～16、J～L区で遺物は長径17m、短径16mの範囲に225点が散在して検出されている。石材は、黒曜石A、B、C、D、鉄石英、頁岩、安山岩、玉髓、めのうである。石器は、細石刃2点、細石刃核7点、ブランク2点、ナイフ形石器1点、尖頭器2点、加工のある剥片等が出土した。

1は、黒曜石Cで打瘤のある尾部の切断された細石刃である。2は、鉄石英を石材とした円錐型細石刃核である。A類である。円柱状の形態を呈し、細石刃の剥離面は円周の3分の2以上に及んでいる。円礫の一端を加撃して打面をつくり、その面より整形を行う。A類はこの1点のみであり、細石刃も出土していない。3は黒曜石Dの不定形な剥片を素材とし、剥片の平坦面を側面とし、打面は荒割りされて調整はされていない。4・5は黒曜石Cを石材として用いている。4は剥片を用い細石刃剥離面と直交する下縁があり、下縁部は調整されている。5は自然面を多く残した円礫を用い、打面を調整しながら細石刃剥離を行うものである。6は凝灰岩質頁岩を用いている。加栗山遺跡<sup>1)</sup>で出土した細石刃核と同様のものである。細使用の際、破棄されたものと思われる。この細石刃核より剥出された細石刃は出土しなかった。

7は黒曜石Dを素材とした切出し型のナイフ形石器である。片面からの調整剥離によって背部と基部を形成し、刃部には使用痕がみられる。

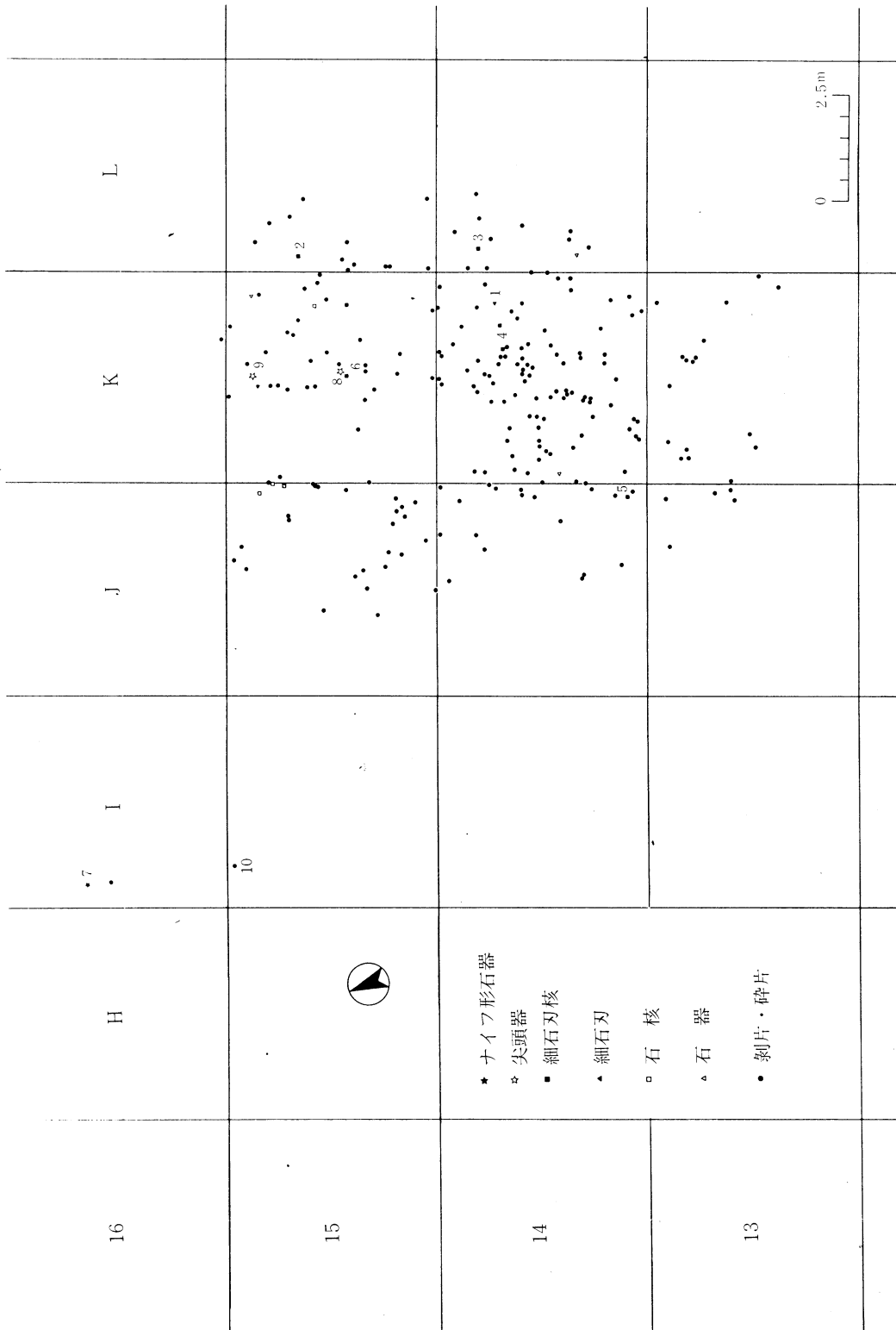
8は黒曜石Cを素材とするもので台形状の断面を呈するが、先端部への二面加工による調整等から尖頭器の分類にいった。頂部に自然面を残し、二稜面に調整がなされ、先端部は欠けている。木場A-2遺跡<sup>2)</sup>で出土したものに類似する。9は黒曜石Dを素材とするもので、上面の片面に剥離があり、ナイフ形石器・スクレーパーに近いが先端部が尖がる特徴をもっていることから尖頭器として分類した。

10は、片側面に調整剥離を加えた剥片である。剥離も中途半端である。自然面を残したBタイプの黒曜石を素材としている。

Aユニット遺物の出土状況は、散在しており、出土層位もN～V層上面までとまちまちであり、一時期の遺物としてとらえるのは問題がある。

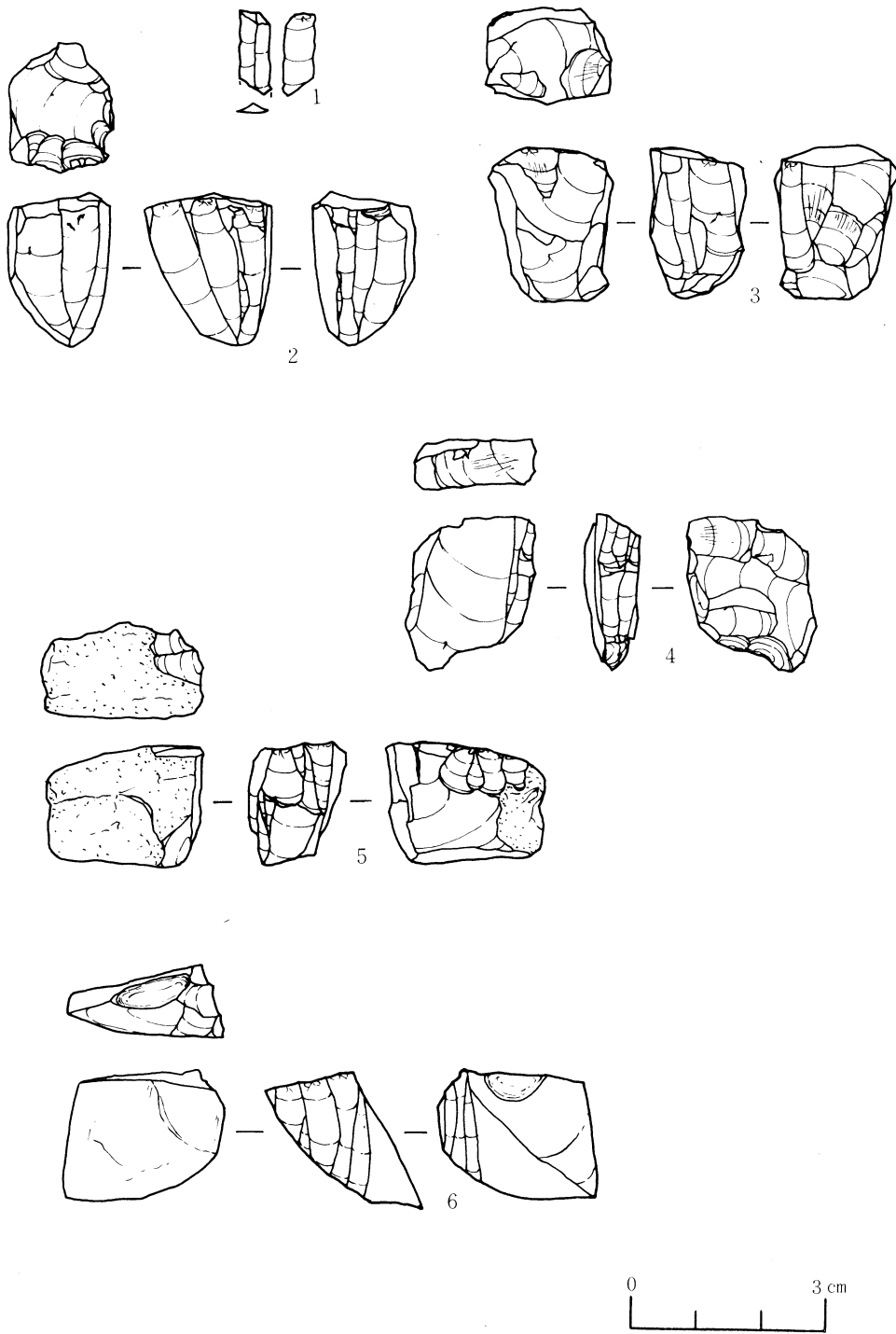
(参考文献)

- 1) 鹿児島県教育委員会「加栗山遺跡」鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(16) 1981
- 2) 鹿児島県教育委員会「木場A-2遺跡」鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(21) 1982

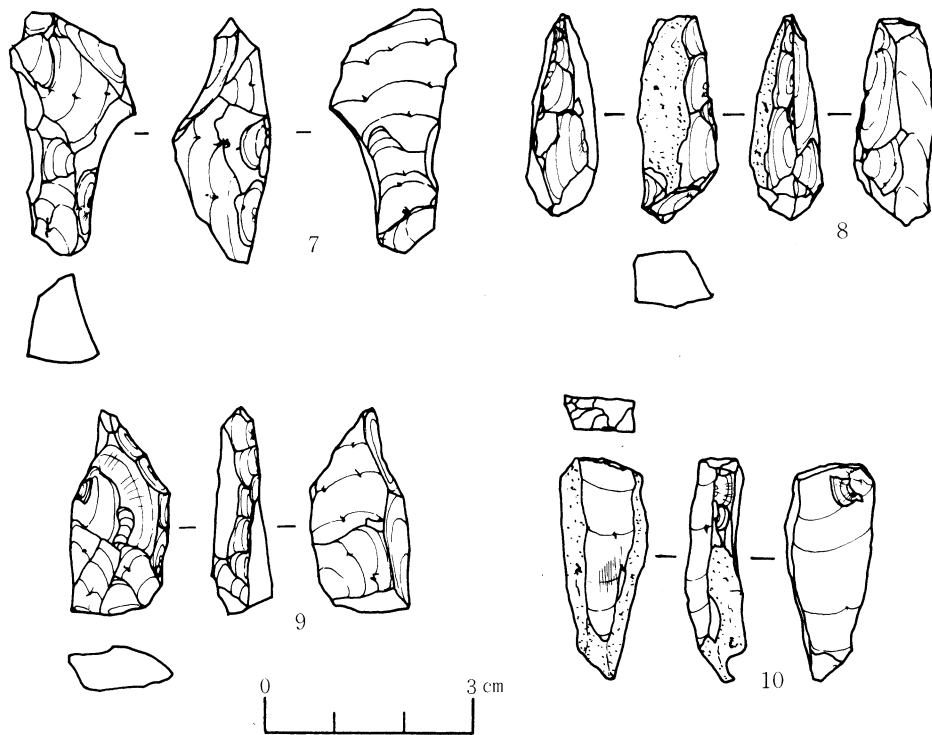


第5図 Aユニット遺物分布図





第6図 Aユニット出土石器(1)



第7図 Aユニット出土石器(2)

第2表 Aユニット出土石器一覧表

遺物番号	図版番号	器種	石材	区	層	最大長(cm)	最大幅	厚さ	重量g	備考
1	7	ナイフ形石器	黒曜石D	16I	5上	3.5	1.6	1.4		
4	10	加工のある剥片	" B	"	4	3.1	1.3	0.6		
88	2	細石刃核	鉄石英	15L	4上	2.4	2.0	1.5		
93		ブランク	黒曜石C	15K	"	7.8	1.8	1.4	7.4	
109	9	尖頭器	" D	"	"	3.0	1.4	0.8	3.1	
111	6	細石刃核	凝灰岩	"	"	2.6	1.9	1.2		
117		剥片	"	"	"	2.0	1.4	1.2		
148	3	細石刃核	黒曜石D	14L	"	2.5	2.0	1.3		
1206	1	細石刃	" C	14K	4	1.3	0.5			
1209	4	細石刃核	" C	"	"	2.7	1.9	0.7		
1224	8	尖頭器	" A	15K	攪乱	3.0	1.1	0.9	3.2	
1228		剥片	鉄石英	15J	3	2.8	1.0	0.7	2.4	
1232		石核	玉髓	"	"	3.8	1.8	1.5	18.5	
1997		細石刃核	黒曜石C	14K	4	2.6	1.7	1.3	6.5	
2006	5	"	" C	14J	攪乱					

### 第3節 Bユニット

27～31—F～J区で遺物は長径29m，短径26mの範囲に425点が散在して検出されている。石材は，黒曜石A，B，C，粘板岩，頁岩，鉄石英，凝灰岩質頁岩等である。黒曜石は，他のユニットと比較して黒曜石Bの比率が高く，他のユニットと違いがみられる。石器は，細石刃10点，細石刃核12点，ブランク1点，石核2点，剥片尖頭器4点，ナイフ形石器1点が出土した。

第8図のように約600㎡の範囲に遺物は分布しているが，その中で3ヶ所（直径約10m）に分離される。これを東からa，b，cと名づけていくと，aはナイフ形石器が，細石器と共伴し，bは細石器のみ，cは細石器と剥片尖頭器が共伴している。

11～24は細石刃である。11～20は黒曜石であり12・15・18がB類で他は全てC類である。21～24は凝灰岩質頁岩である。細石刃は完形品はなく全て切截手法によって折断されている。凝灰岩質頁岩の細石刃は，今回の調査では出土しなかったが前回，凝灰岩質頁岩の加治屋園タイプの細石刃核が出土していることから，この細石刃核の剥出細石刃と思われる。

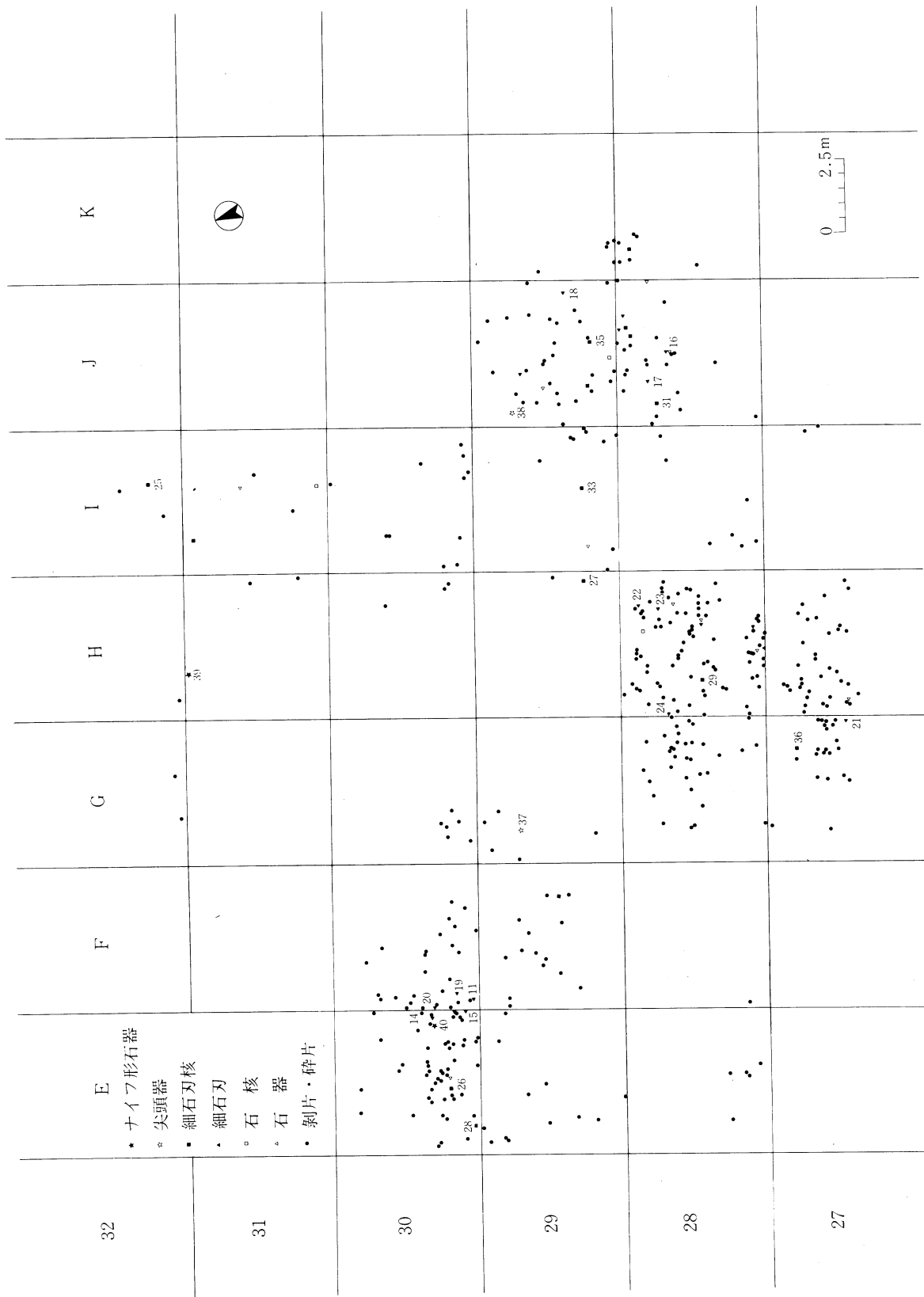
25～36は細石刃核である。26・28・30は黒曜石C類であり，他は全て黒曜石B類の気泡の少ない良質の石材を素材としている。25は，素材に小礫を用い，礫の最初の打撃で細石刃核の打面を形成し，その後側面の調整を施すもので，側面調整の剥離は打面から下方に向って行っている。九州全域の範囲にみられるタイプである。27は，剥片を素材として利用し，剥片の平坦面が両側面になる。細石刃剥離面と直行する下縁があり，その下縁と尾縁は調整されている。打面を調整しながら細石刃剥取が行われている。D-1類に分類される。その他の細石刃核は，自然面の残る小礫を素材としたもので，平坦な自然面を打面にし，打面を調整しながら，細石刃剥取が行われている。細石刃剥取面のみを調整し，他の面は最小限調整を施している。栗野町<sup>1)</sup>麦生田遺跡に多くみられるタイプである。

37・39・40は剥片尖頭器である。37は，安山岩の縦長剥片を素材とし，先端は尖り，左右対称となる様刃潰し加工を施している。39・40も同様であるが，基部を残し先端部は欠損している。打面を残し，基部片縁及び両縁に刃潰し加工を加えている。

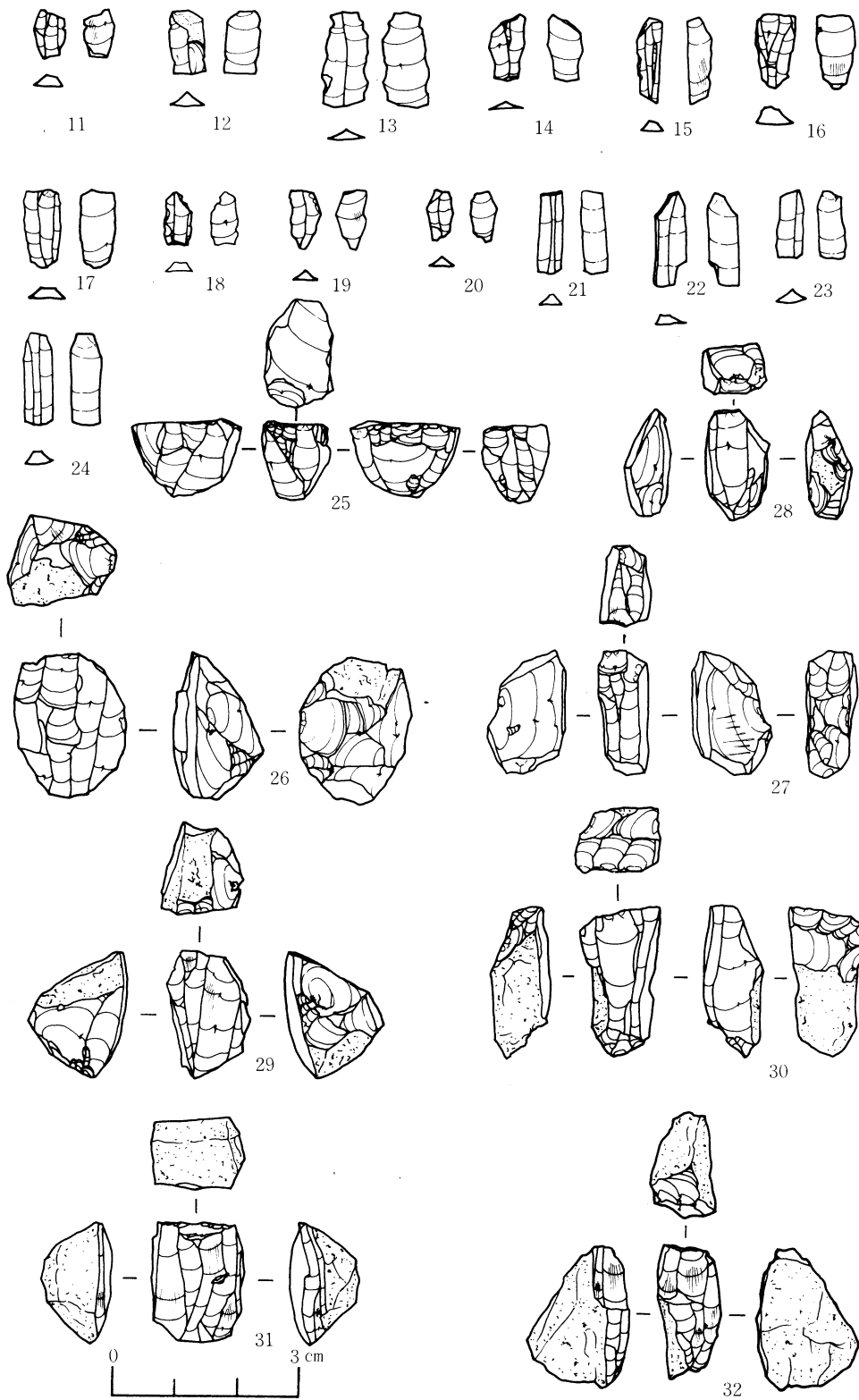
38は，基部調整と片面の刃潰し加工を施していることから，ナイフ形石器に分類したが，剥片尖頭器と<sup>2)</sup>区別する具体的なものがある訳ではない。これらのタイプは，指宿市小牧遺跡<sup>3)</sup>，水俣市石飛遺跡にみられ，最近九州全域で出土例が増えてきたものである。

（引用文献）

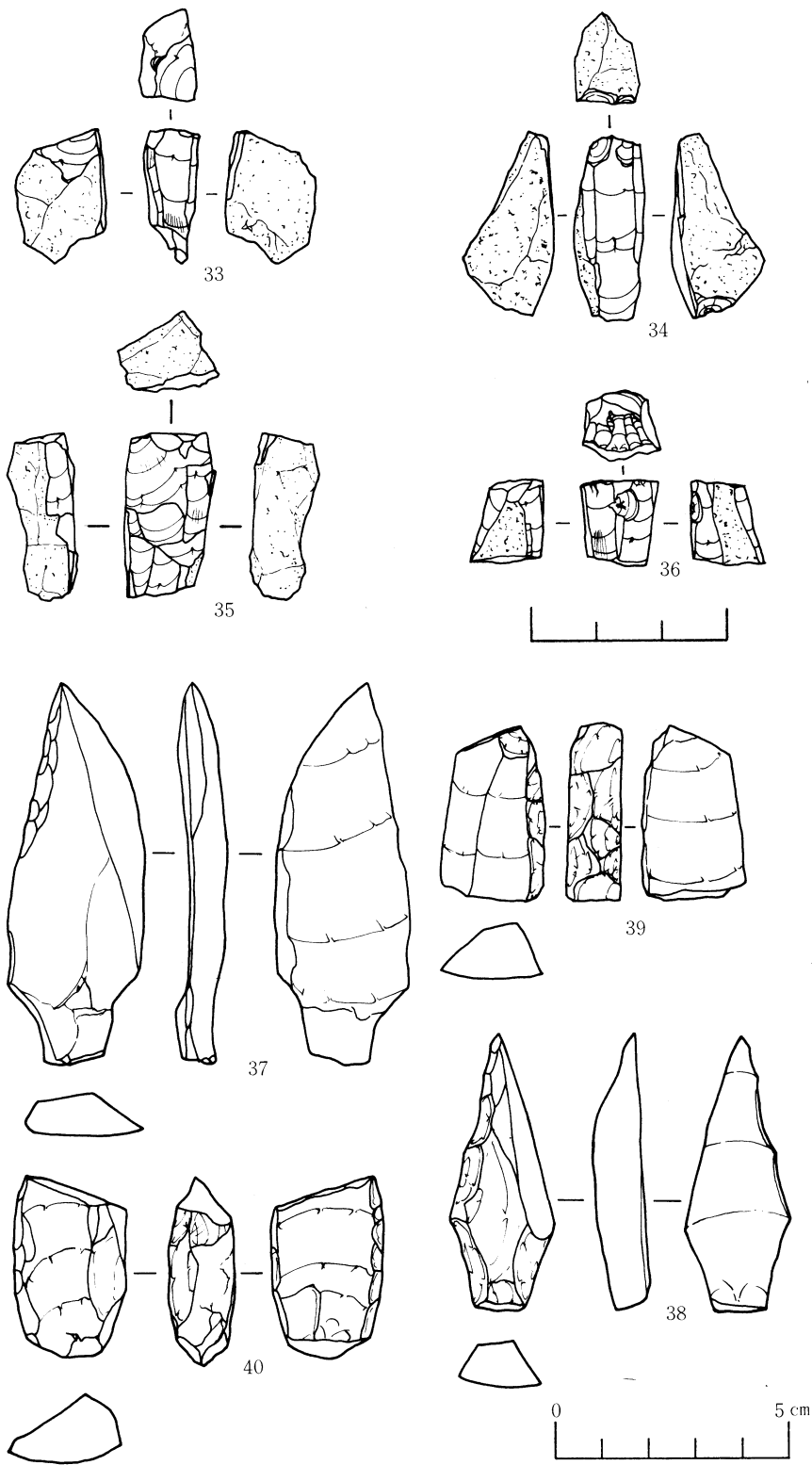
- 1) 林昭男・米満重満「栗野町の遺跡について」 鹿児島考古8号 1973
- 2) 長野真一「小牧3A遺跡の紹介」 指宿史談創刊号 1979
- 3) 出水高考古学部「水俣市石飛遺跡の第二次調査」 もぐら9 1976



第8図 Bユニット遺物分布図



第9図 Bユニット出土石器 (1)



第10図 Bユニット出土石器 (2)

第3表 Bユニット石器一覧表

遺物番号	図版番号	器種	石材	区	層	最大長(cm)	最大幅	厚さ	重量g	備考
13	37	剥片尖頭器	安山岩	29G	4上	8.3	2.9	0.8		
5740	31	細石刃核	黒曜石B	28J	4	1.9	1.4	1.0	4	
5752		"	" B	29J	3	2.1	1.6	1.0	2	
5757	33	"	" B	29I	"	2.0	1.5	0.8	3	
5760		"	" B	29K	"	2.2	1.5	0.9	34	
5782		石核	" A	31I	"	4.1	2.7	2.9	5	
5796		細石刃核	" C	"	"	2.3	1.7	1.0	2	
5798	25	"	" B	32I	"	1.7	1.0	1.1	2	
5800	27	"	" B	29H	"	2.1	1.1	0.7	14	
5839	39	剥片尖頭器	粘板岩	31H	攪乱	3.8	2.2	1.2		
6507	16	調整剥片	黒曜石	28J	4上	1.2	0.6			
6512		加工のある石器	"	"	4	2.6	1.3			
6516		細石刃核	"	28K	"	2.5	1.7	1.7		
6529	12	細石刃	"	"	"				3	
6530	34	細石刃核	" B	28J	攪乱	2.8	1.4	1.0		
6531	13	細石刃	"	"	"	1.5	0.7		3	
6533	30	細石刃核	" C	"	4下	2.5	1.3	0.8		
6537		石核	"	29J	4	2.0	2.1	1.4		
6542	17	細石刃	"	28J	"	1.3	0.6		4	
6559	35	細石刃核	" B	29J	"	2.6	1.4	1.1		
6561										
6564	18	細石刃	"	29J	攪乱	0.8	0.4		13	
6581	38	ナイフ形石器	安山岩	"	4	6.0	2.2	1.0		
6583		剥片	メノウ	"	"	2.6	1.4	0.6		
6589		"	凝灰岩質頁岩	"	攪乱	3.0	2.0	2.2		
7007		"	鉄石英	28H	4	1.9	1.5	1.0		
7008		"	凝灰岩質頁岩	"	"	1.3	1.2	0.1		
7010		"	"	"	"	2.2	1.9	0.2		
7015		"	"	"	"	1.7	1.4	0.4		
7016	22	細石刃	"	"	"	1.4	0.4			
7020	23	"	"	"	"	1.5	0.5			
7023		剥片	"	"	3下	3.1	1.4	0.9		
7030		細石刃	黒曜石C	"	4	0.7	0.5			
7041		剥片	凝灰岩質頁岩	"	"	1.8	1.9	0.6		
7042		"	"	"	"	1.7	1.5	0.3		
7047		"	"	"	3	1.7	1.3	0.2		
7049		"	"	"	"	1.0	1.3			
7061	24	細石刃	"	27H	4上	1.4	0.5	0.2	3	
7066	29	細石刃核	黒曜石B	"	4	2.0	1.5	1.2		
7075		剥片	凝灰岩質頁岩	27G	3	1.9	1.3	0.7		
7104		"	"	"	4	1.4	1.1	0.3		
7283		"	"	27H	4下	1.4	1.0	2.9		
7299		"	頁岩	"	"	2.4	1.7	0.7		
7315	21	細石刃	凝灰岩質頁岩	27G	4	1.3	0.4			
7318		加工のある石器	たんばく石	27H	"	2.8	1.5	0.5	2	
7327	36	細石刃核	黒曜石	27G	4(攪乱)	1.4	1.0	1.0	2	
7759		"	黒曜石C	29E	4下	1.8	1.0	1.0	3	
7807	19	細石刃	黒曜石	30F	"	1.0	0.5			
7808	11	"	"	"	"	0.8	0.5			
7811	15	"	"	"	"	1.4	0.4			
7819	20	"	"	"	"	0.9	0.5			
7821	14	"	"	"	"	1.1	0.6		16	
7824	40	剥片尖頭器	粘板岩	"	"	3.7	2.4	1.4	6	
7842		ブランク	黒曜石C	30E	"				5	
7844	26	細石刃核	" C	"	"	2.3	1.8	1.4		
7849		剥片	鉄石英	"	"	1.0	1.2	0.9		
7858	28	細石刃核	黒曜石C	"	4	1.8	1.0	0.7	2	

#### 第4節 Cユニット

32～37—A～F区で遺物は半径約15mの円状の範囲に、6,921点が集中して検出されている。石材は、黒曜石A、B、C、D、E類、頁岩、砂岩、安山岩・チャート、めのう、粘板岩等である。その中でも上半鼻原産の黒曜石C類が最も多量を占め、ほぼ9割弱を占めた。石器は、細石刃702点、細石刃核155点、ブランク18点、ナイフ形石器4点、尖頭器10点出土した。遺物は広い範囲の中で検出されたのであるが、最終的には、34、35C区を中心とする5m内外でレンズ状に検出された。

今回図示できたものは一部であるが、出土石器は第4表～第17表にまとめた。

##### 細石刃（第14、15図）

細石刃は、総数702点出土している。細石刃核より剥離された細石刃は、基本的に頭部から尾部までである完形品であるが、調査によって検出されるものは、4つの形状に分けられる。すなわち、完形のもの（41～52）、尾部を打断したもの（3～86）、頭部および尾部を打断したもの（87～93）、頭部を切断したもの（94～114）がある。

石材は、チャートが1点出土したがあとは全て黒曜石である。黒曜石もA～E類まで出土したが、やはり黒曜石C類が大半を占める。

##### 細石刃核（第16～22図）

破損したものも含めて総数155点の細石刃核が出土した。これらは素材および素材の使用方法、また石核成形・調整等に差異が認められ、大きく3類に分類が可能である。Aユニット出土の円錐型をA型と設定したため、Cユニット出土の細石刃は、B、C、D類として類別を行なった。

B類 舟底形の形状を呈し、平坦に近い甲板面からの側面成形が施されているもの。

C類 剥片および円礫を荒割りしたものを利用するもの。剥片等素材の形状によって細石刃核の形は左右され、様々な形態をもつ。

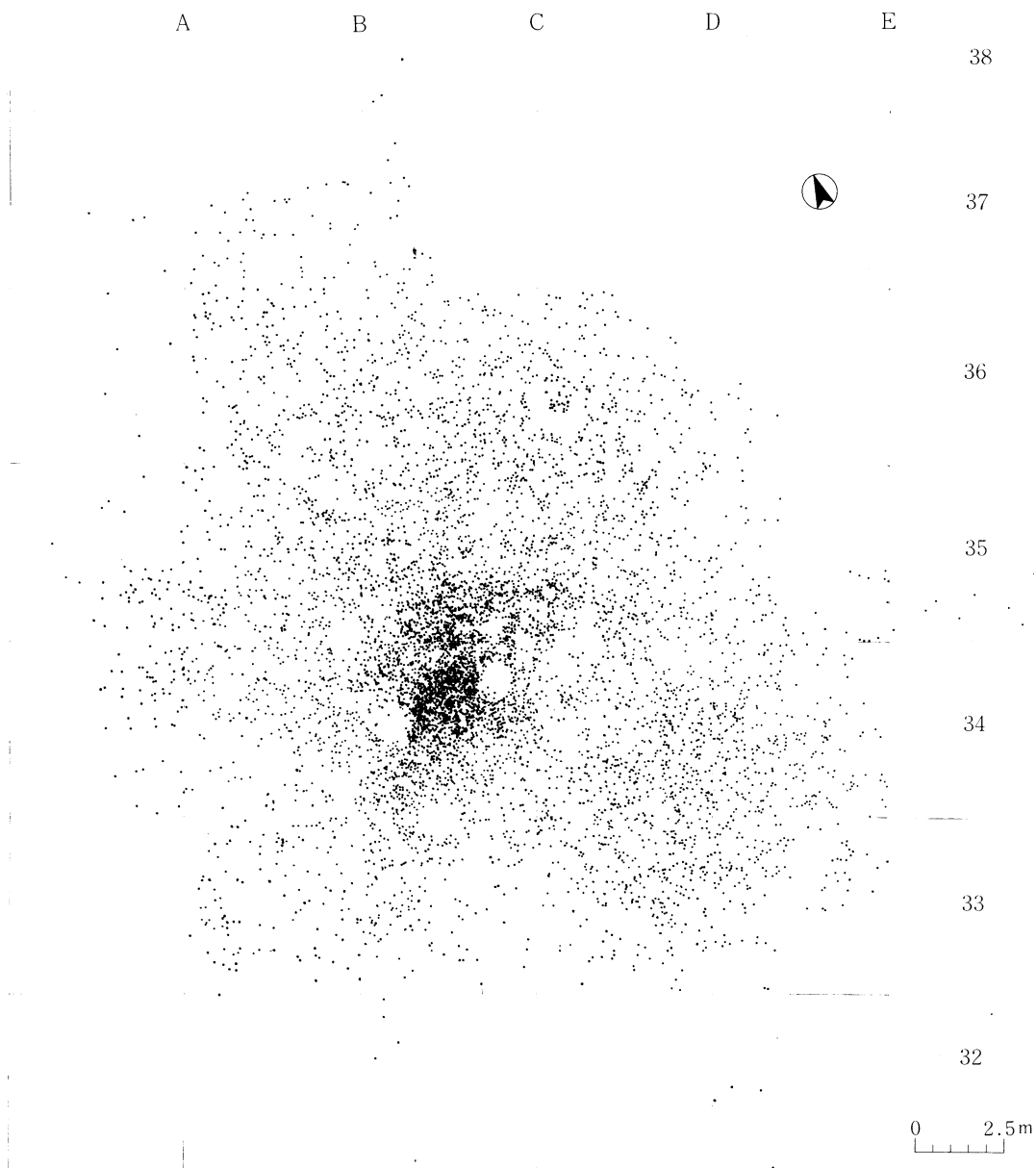
D類 打面および背面に横方向からの数回の加撃痕があり、細石刃核母体を入念に成形、調整するもの。細石刃核母体の形が意図的に設定されていると思われる。

また、これらは細分も可能であると思われる。以下類別にしたがって説明を加えていく。

115～120はB類である。打面から側面に加撃調整が行われる石核成形が特徴である。

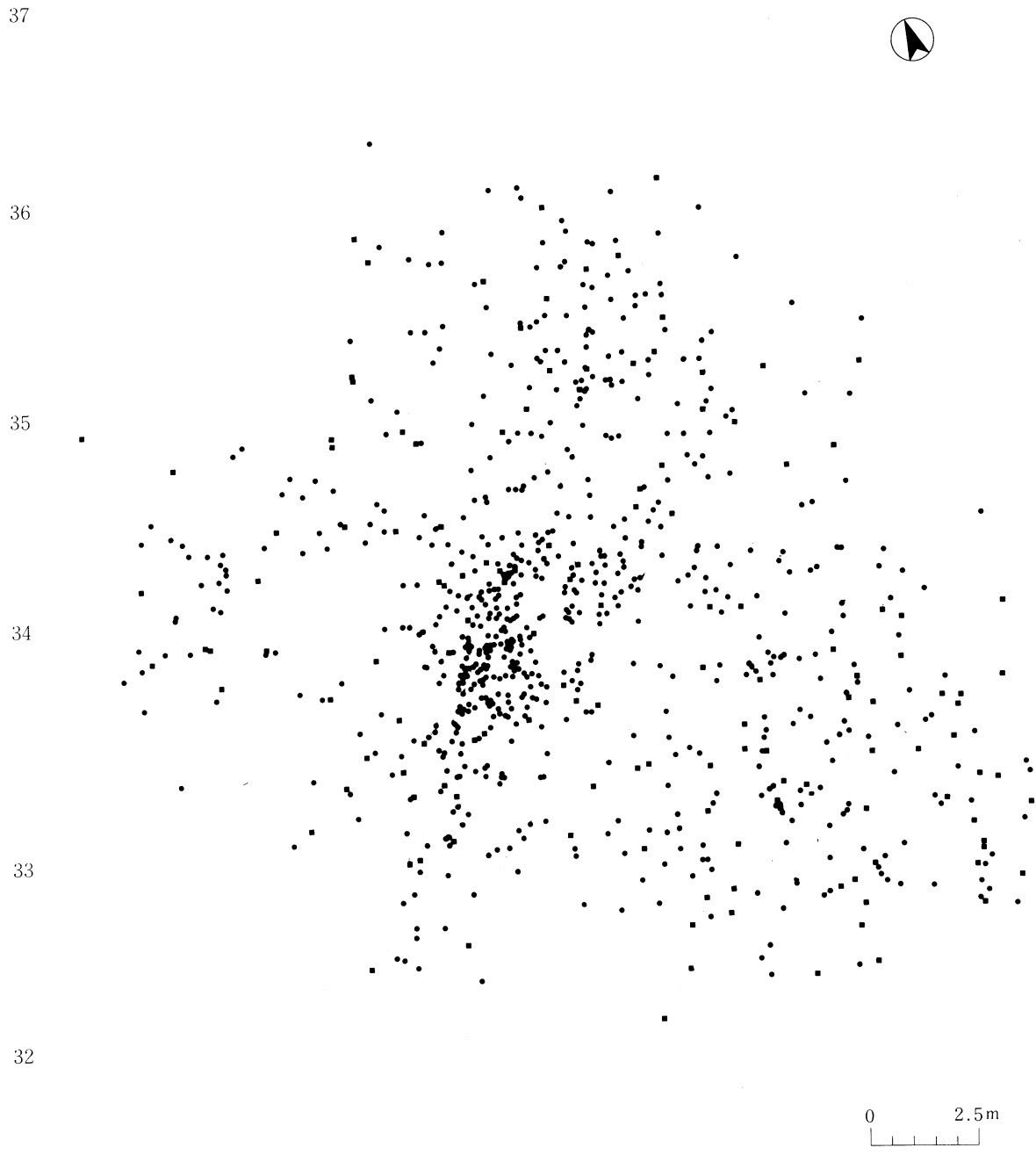
115は厚手の剥片を素材にしており、剥片の平坦面を打面に設定し、打面から両側縁を成形して、細石刃核を舟底状にしている。これは細石刃剥取に先だって打面調整は行われていない。116、117も基本的には115と同様である。118は比較的薄手の剥片を使用し、平坦な剥離面から両側縁を入念に加撃成形を行っている。長い細石刃を得るために、甲板面とほぼ平行する細石刃剥離面をもつ。細石刃剥離前の打面調整が顕著に行われている。119は打面からの側縁成形剥離は片側のみ行われている。これも打面調整はしていねいに行われている。120も119と同じである。116・117・120は原石の自然面が下縁部に残っている。細石刃剥離前に打面調整の過程を有しないものと、顕著な打面調整を行うものがあり、それぞれD—I類、D—II類として





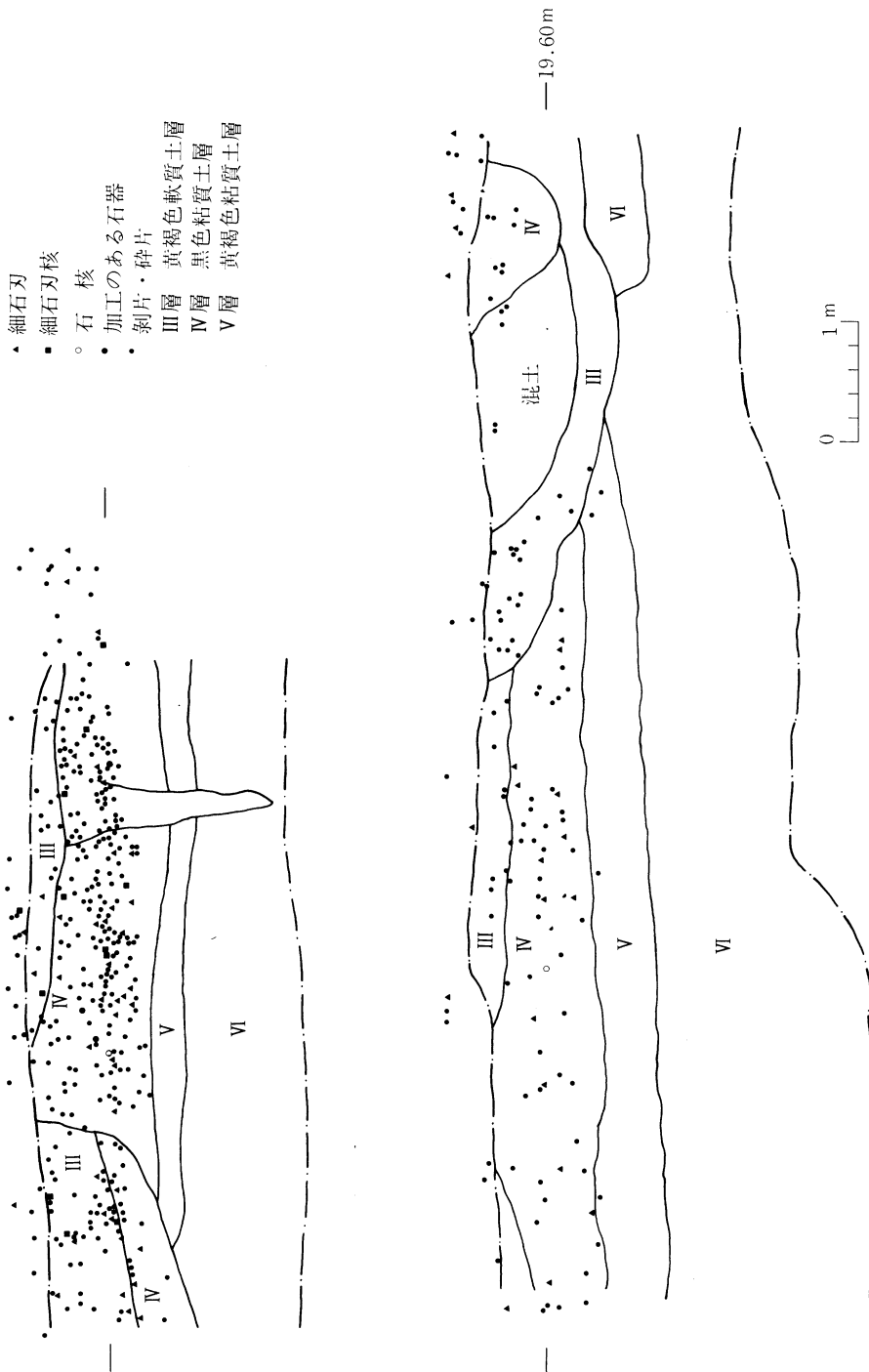
第11図 Cユニット遺物分布

- 細石刃
- 細石刃核

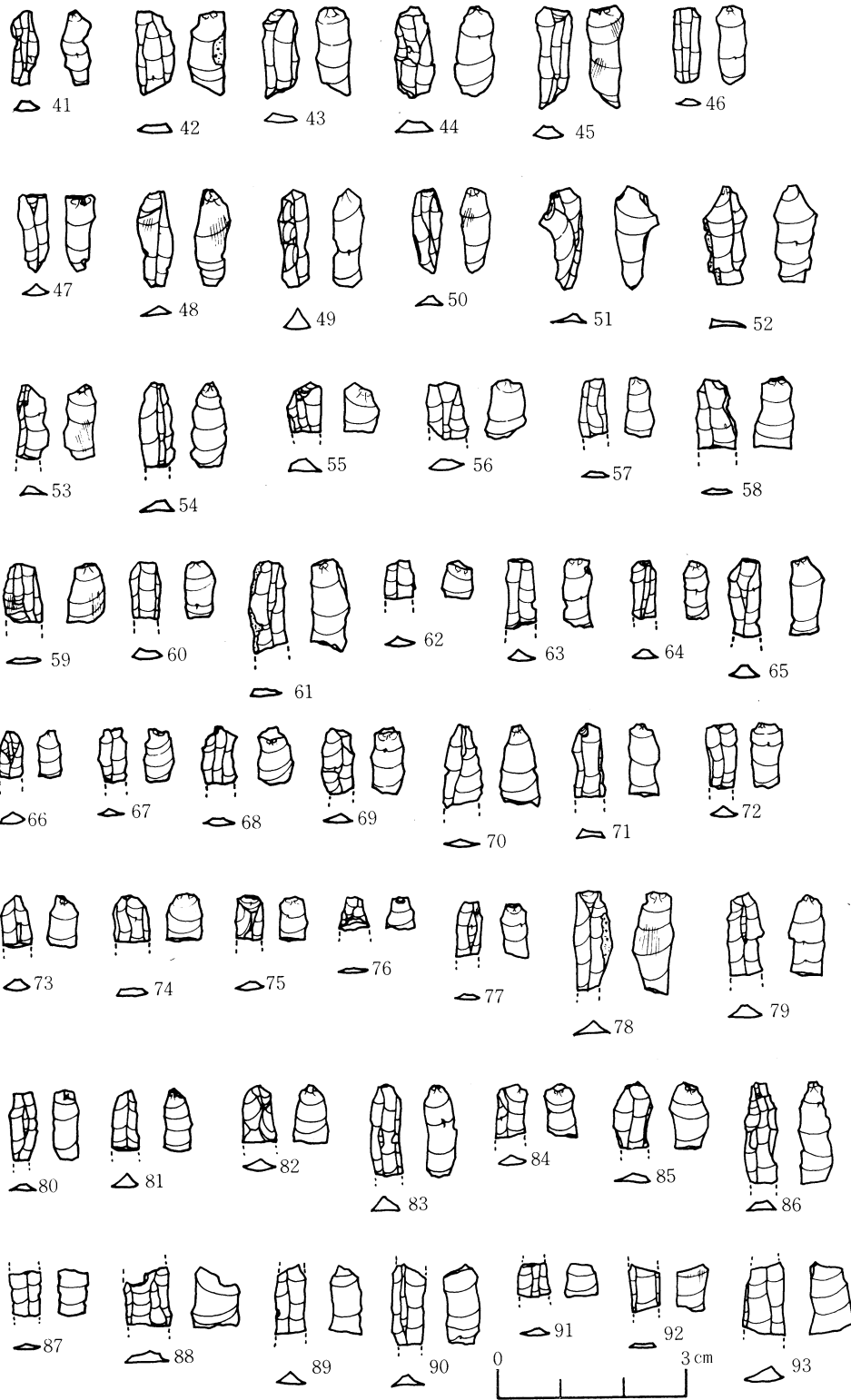


第12図 Cユニット器種別分布

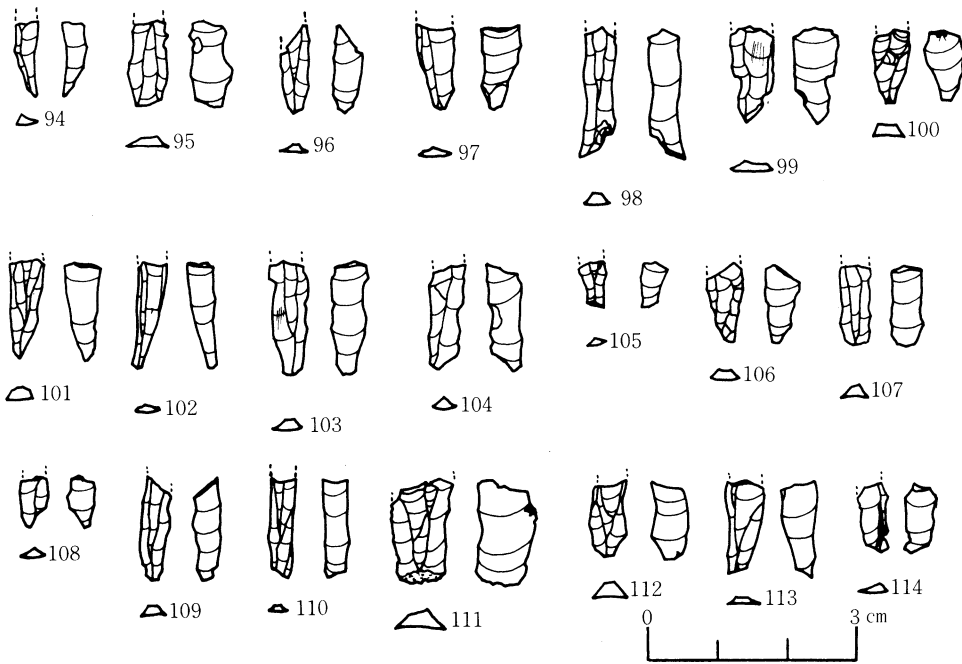
D区 C区



第13図 Cユニット遺物投影図



第14図 Cユニット出土細石刃 (1)



第15図 Cユニット細石刃 (2)

の細分が可能である。

121~146はC類である。剥片あるいは円礫を荒割りしたものを素材としている。したがって、細石刃核の形態は様々である。

121は自然面が残った平坦な面を打面している。打面調整を行っている。122も自然面をもつ不定形剥片を素材としている。123・124も同様である。125は下縁調整を行っており、舟底形にしている。126は他と異なり、黒曜石Aを石材とし、当遺跡では大きいものである。剥片を素材としており、剥片の平坦面を細石刃核の側面とし、打面は最後に設定されている。細石刃剥取は階段状となり、以後の剥取は不可能となっている。打面調整は行われていない。127は125と同じで下縁調整が行われている。130は図示してある右側の面が最初に細石刃剥取が行われたようである。その後剥離面が階段状となり、細石刃の剥取は下縁を打面に180度転位し、図の中央のように細石刃の剥取を行っている。131も同様に180度の打面転位を行っている。132はその残存形状が、他と異なり、打面・両側面・細石刃剥離の他に細石刃剥離面とほぼ平行する背面があり、逆に細石刃剥離面に直行する下縁はない。これは、細石刃剥取が極度に行われただけの理由ではなく、意図された形態と思われる。しかしながら、剥片を素材として利用し、それを荒割りするという方法は同じものと考えられる。打面は傾斜し、打面調整が行われている。133・134も同様である。135は前の3点と同様に背面をもつが、打面角度は傾斜しないで90度に近いものである。136は自然面が残る剥片を素材にし、荒割りしたものである。137は薄手のやはり自然面が残る剥片を素材にしており、尾縁調整が行われている。138は角板状の背面を有するものであるが、その面は打面を180度転位して細石刃剥離を行っている。

139～146は素材に小円礫を使用したものと思われる。

139は極度に小さい円礫を素材とし、2回の加撃で打面を得ている。140は円礫を2回の分割によって得られた素材を利用したものである。平坦な折面と片側面の他は自然面をそのまま残している。141は小円礫を1回の加撃で縦割にし、打面調整を行いながら細石刃剥離を実施している。したがって、頭初に平坦な打面は設定していない。142は円礫の側面を剥ぎとり、141と同様に平坦な打面は設定せず、細石刃剥取に先だって打面調整を行っている。143は、小円礫の一部を割り取り、平坦な片側面と、平坦な打面を得ている。打面調整は行われていない。144も同様である。145は打撃点が欠損しているが、打面調整は行われなかったようである。146は141・142と同様、剥離による平坦な打面はなく、細石刃剥取に際して打面調整が行なわれたものであるが、側面部も打面は180度転位して細石刃を得ている。これも極度に小さい角礫をそのまま素材としている。

C類は素材の形状をそのまま利用したものであるが、剥片を利用したものと、小円礫を使用したものに細分が可能であり、それぞれC-I類、C-II類と分類できる。

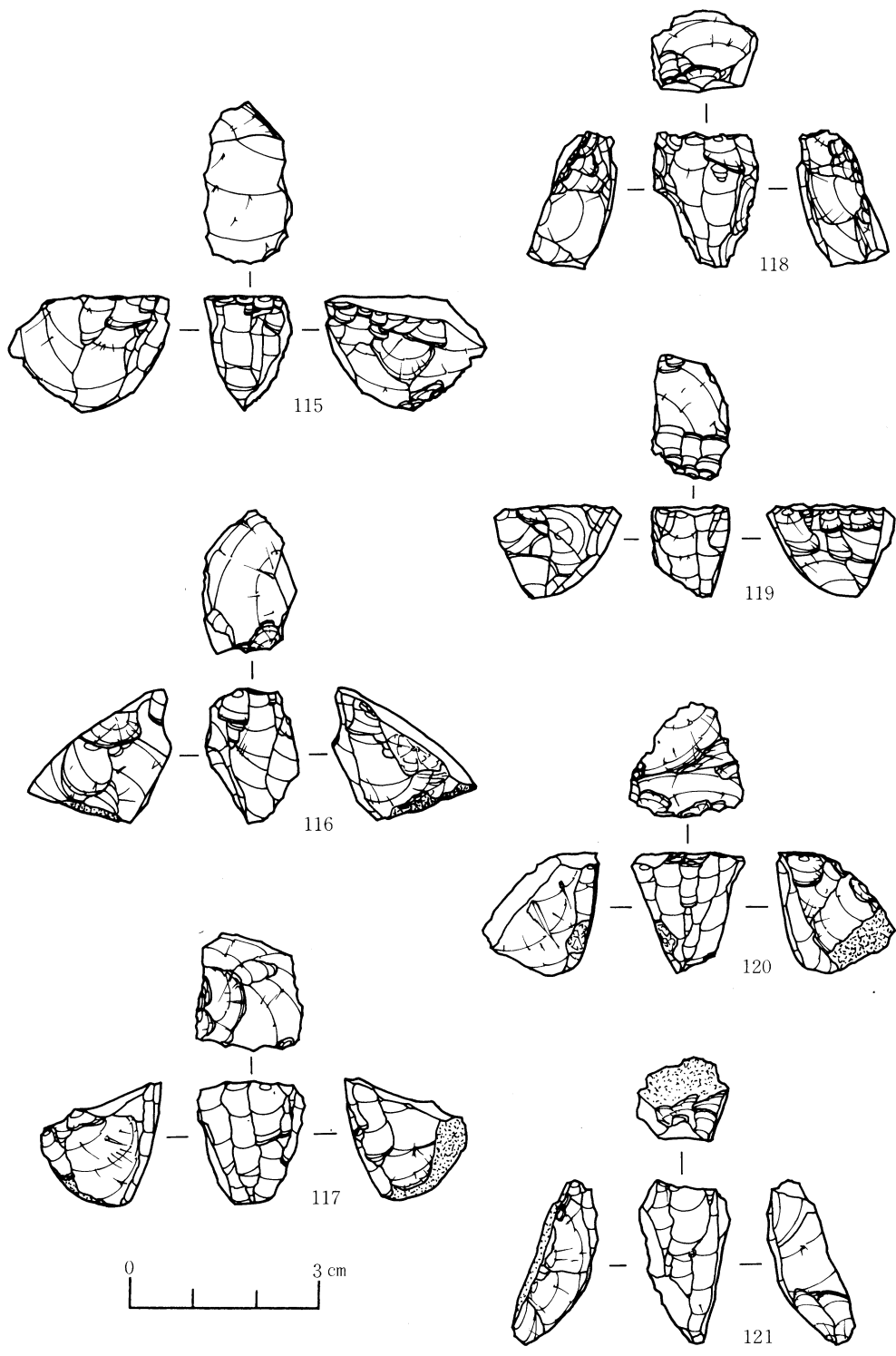
D類としたものは2つに細分できる。剥片を素材とし、打面とそれに対応する下縁をもち、舟底形の形状を有するものと、細石刃剥離面とほぼ平行する背面を有するものに分けられ、それぞれ、D-I類、D-II類とする。

147～153はD-I類である。

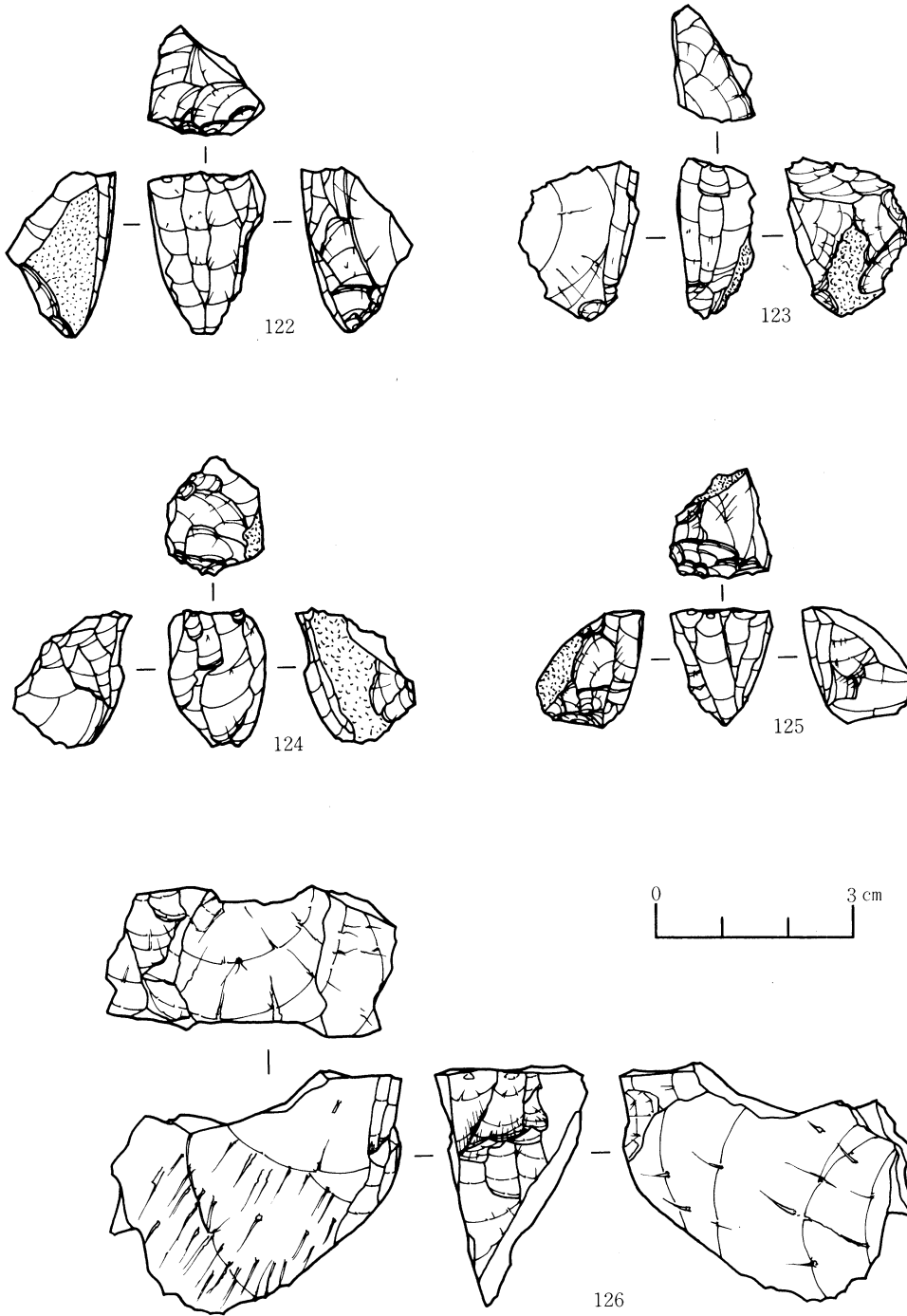
147は自然面が残る剥片を素材としたものであり、平坦な片側面は周囲からの加撃によって調整され舟底形に整形されている。打面は平坦な側面方向から数回の加撃によって確保されている。細石刃剥取は剥離の途中で階段状となり、以後は放棄されたものと思われる。148も自然面が残る剥片が素材とされ、打面も平坦な側面方向からの数回の剥離で得られている。149はやや厚みのある剥片が利用されており、打面は同様に平坦に近い側面方向からの数回の加撃で得られている。152は151と同様、自然面は残っていないが、尾縁および下縁の調整が入念に行われている。153は黒曜石B類とした黒色で良質の石材が使用されている。これも平坦な剥離面が片側にあり、剥片を素材にしたものであると思われる。打面は両側面からの加撃によって得られている。これは打面調整が顕著に認められる。

154～159はD-II類である。

154は細石刃剥離面にほぼ平行する背面を有する。その背面は両側からの剥離によって入念に整形されている。打面調整は顕著に行われている。細石刃剥取は途中で剥離面が階段状になっており、以後の作業は見はなされていると思われる。もとの素材の形状および成形方法は判明しない。155・156は、背面の調整加工が片側からのみ行われている。156は背面の一部に自然面を残している。157も背面の調整加工が、片側から行われている。細石刃の剥取は最終限度まで、無駄なく行われたものと予想される。158も157と同様である。打面調整が顕著に行われている。159も背面の調整加工が行われており同一のタイプと思われるが、剥離の角度が他と異なり90度に近い。

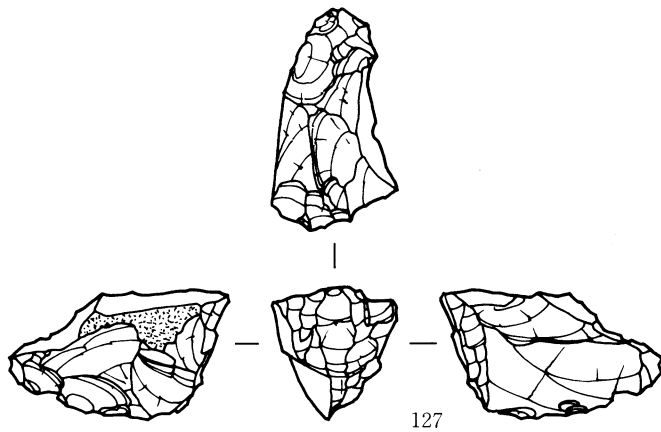


第16図 Cユニット出土細石刃核 (1)

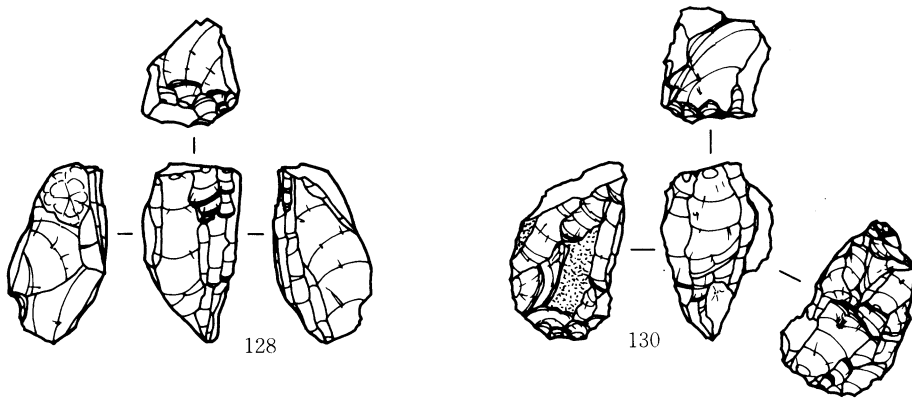


第17図 Cユニット出土細石刃核 (2)



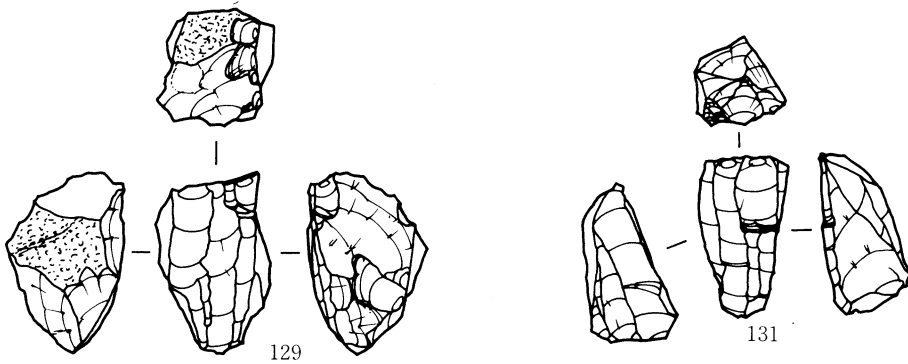


127



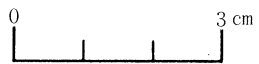
128

130

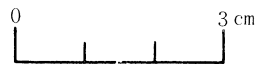
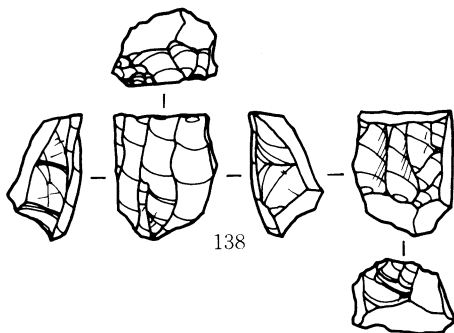
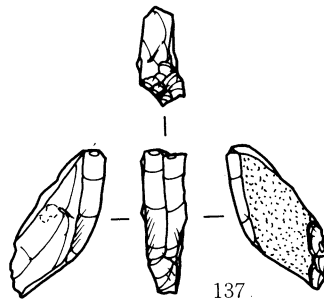
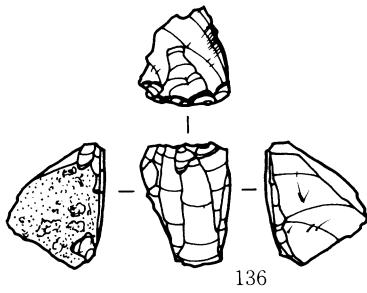
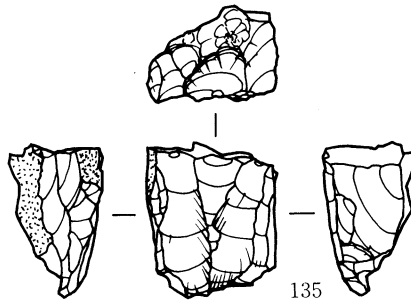
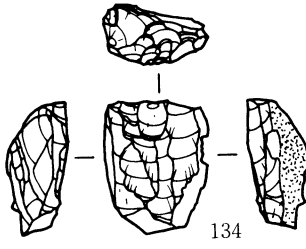
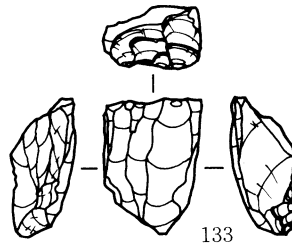
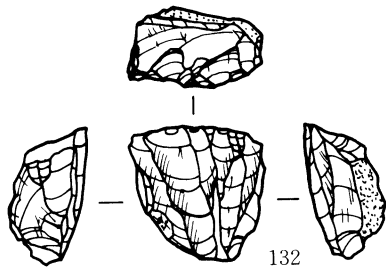


129

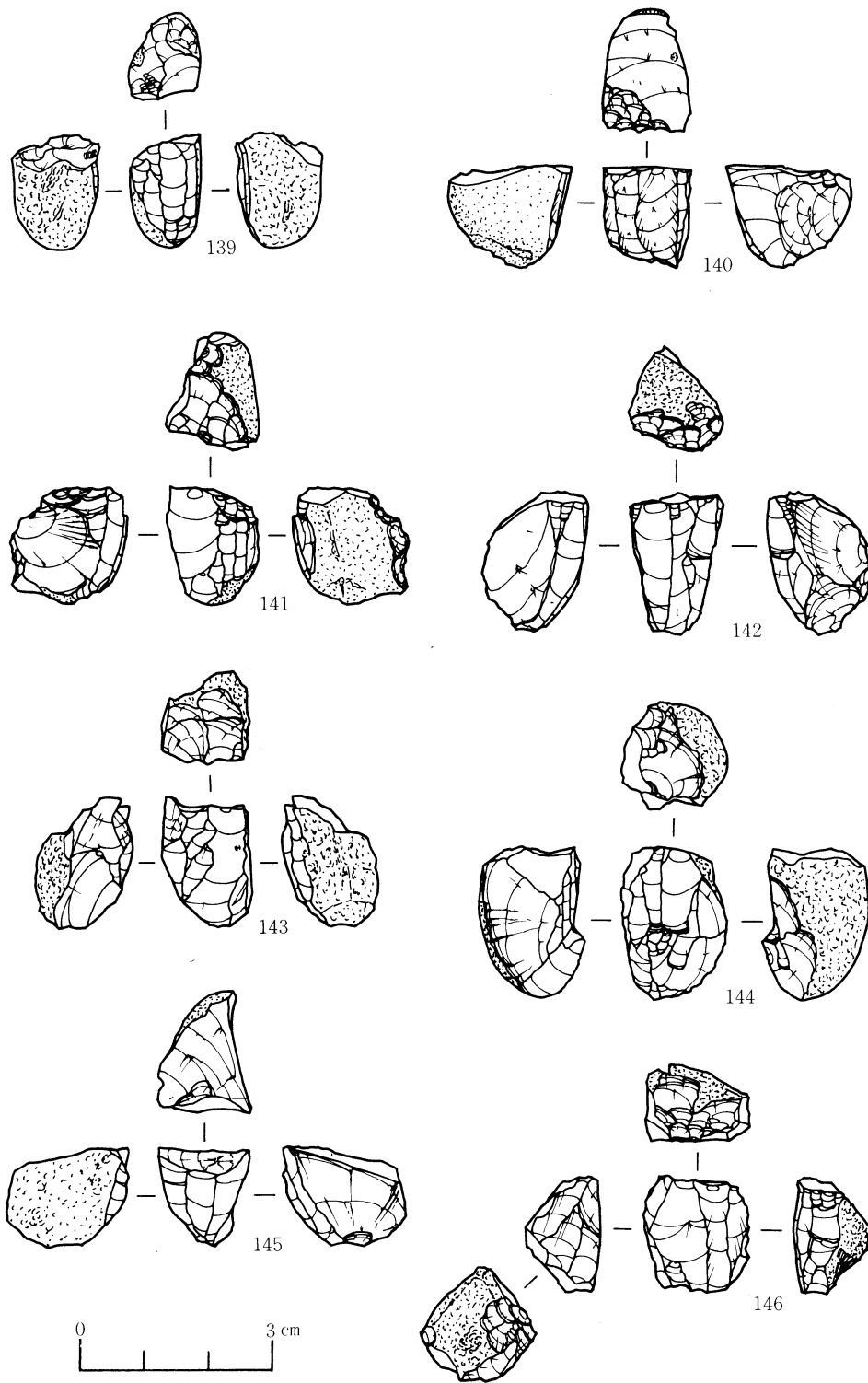
131



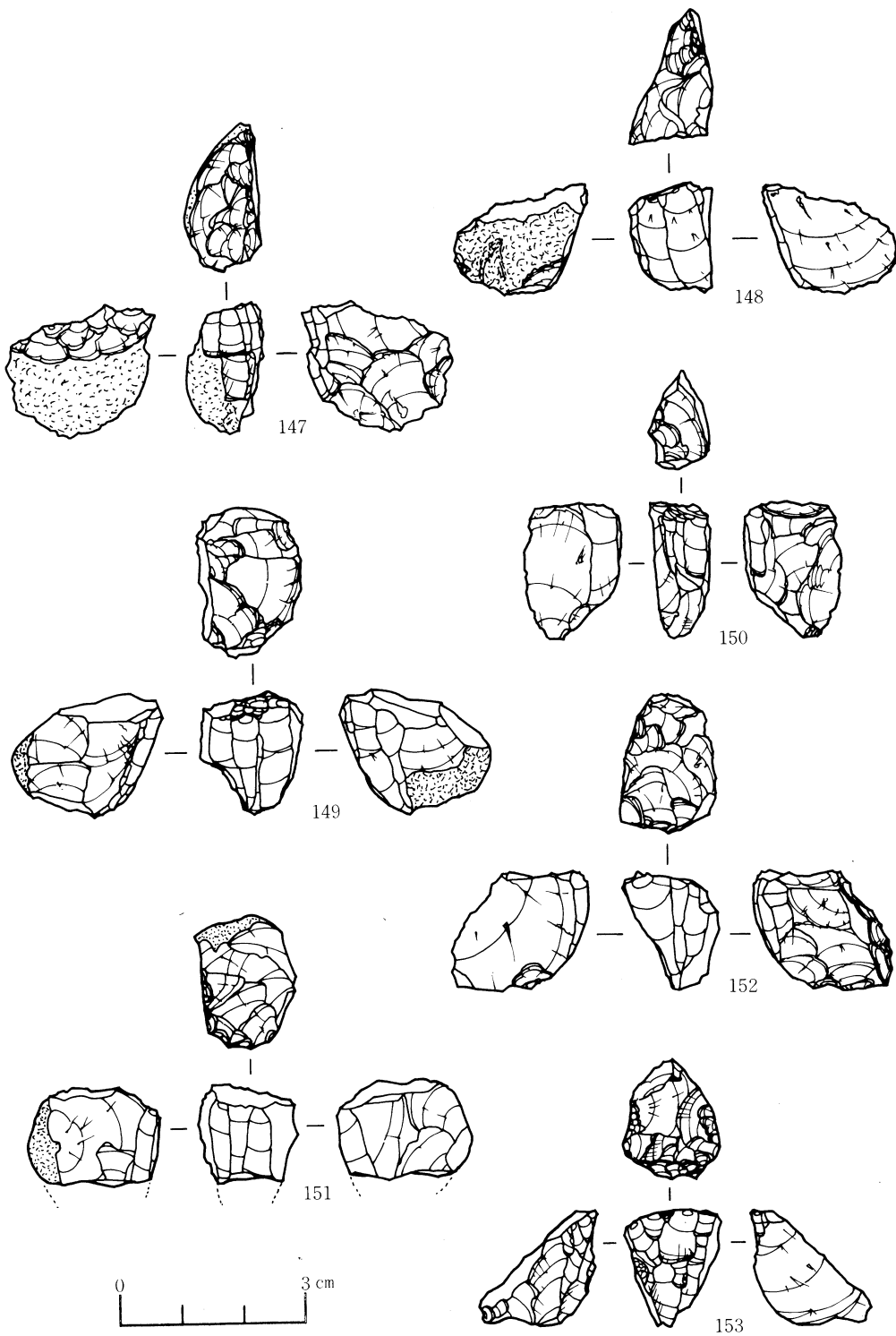
第18図 Cユニット出土細石刃核 (3)



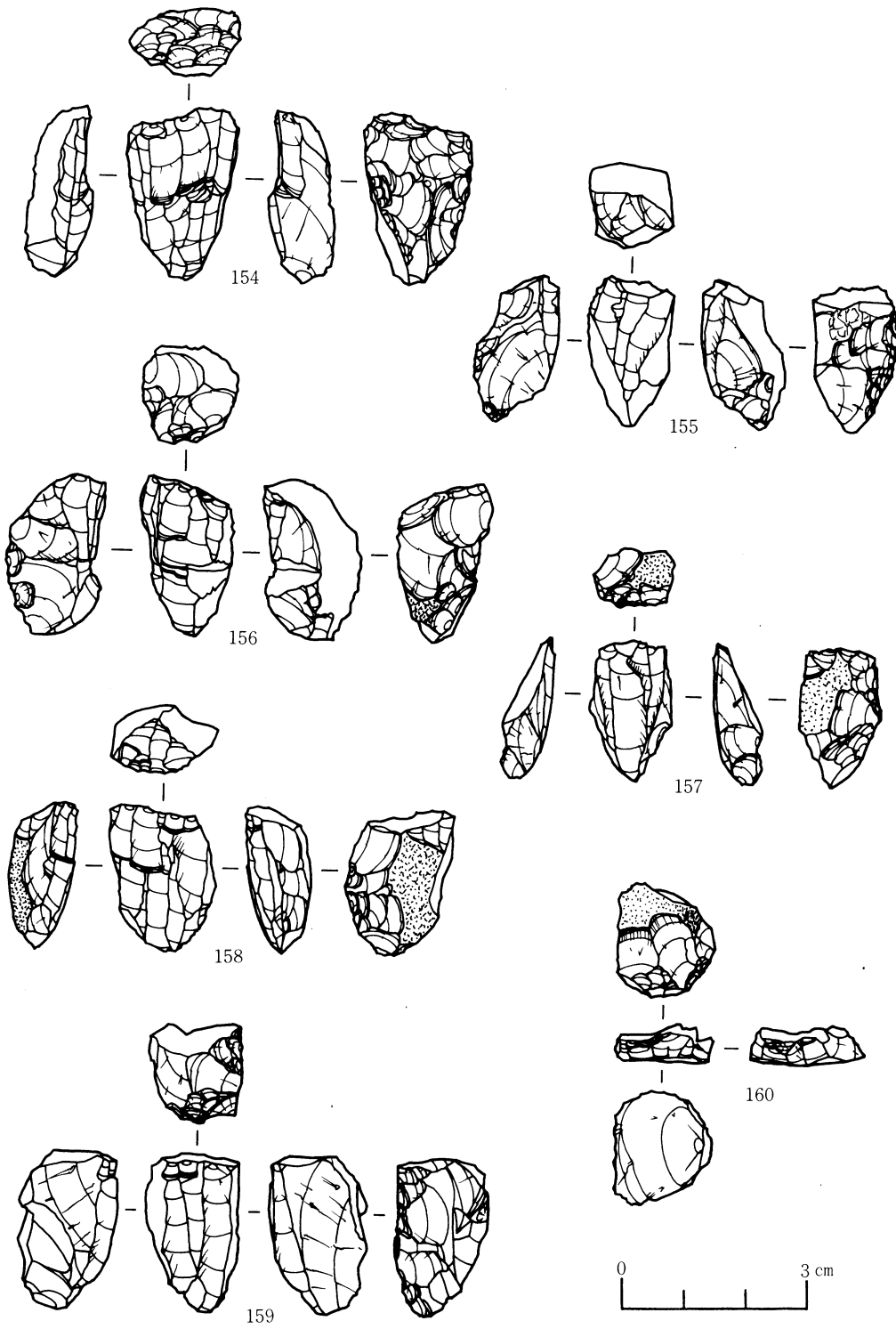
第19図 Cユニット出土細石刃核 (4)



第20図 Cユニット細石刃核 (5)



第21図 Cユニット細石刃核 (6)



第22図 Cユニット出土細石刃核 (7)

160は細石刃核打面再生剥片である。以前に数回の細石刃剥離が行なわれたと見えて、溝状剥離痕が認められるが、打面調整が上手く行われなかったと思われる。横方向からの加撃で剥ぎ取っている。

161～170は尖頭器である。尖頭器は多種多様であり個々に説明を加えていきたい。161は剥片尖頭器に類似する基部には若干調整が施されるが決りはみられない。162はチャートを素材に用い側縁部両縁に調整を加え、先端部を鋭利に施している。163は基部調整が施され、先端部は欠損しているが側縁部に微調整を施し尖頭器に分類される。164は黒曜石Aを素材に用いた断面三角形の尖頭器である。165は一部基部調整の認められるもので、上面の片面に剥離があり、ナイフ形石器・スクレイパーに近いけど先端部が尖がる特徴をもっていることから尖頭器に分類した。先端部は鋭いが全体の整形はまだ施されていない。166はチャートを素材に用いたもので横剥ぎの剥片を使用している。基部調整が施され、両側縁は調整剥離され、先端部は鋭い。167～170は黒曜石C類を素材に用いたもので、一面に剥離面をもち、二面に調整剥離のあるものである。167は先端部を欠損したもので、横長の厚い剥片を二面加工し、断面はやや丸味のある小型の尖頭器である。168も二面加工を施したもので先端部は鋭い。169は基部は欠損しているが剥離の状況より製作途中の折れであると思われる。先端部は鋭い。170も二面加工による尖頭器であるが、錯行剥離によって調整を施している。Cユニットではこの様に多種な尖頭器<sup>1)</sup>が出土した。県内での類例は木場A-2遺跡が知られている。

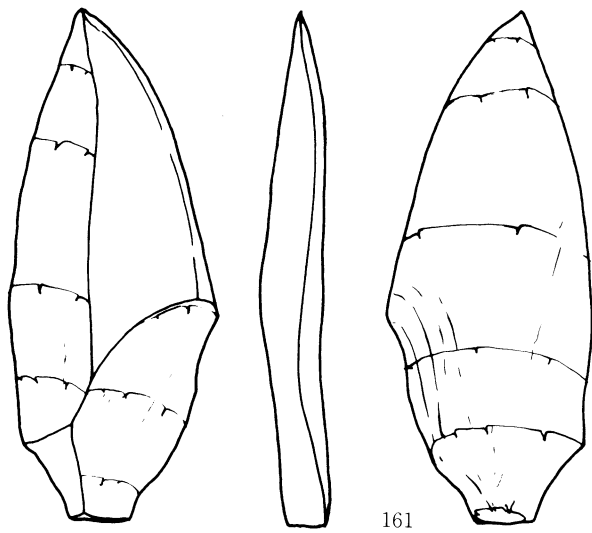
171～174はナイフ形石器である。171は頁岩を素材に打面の残る縦長剥片を用いている。両側縁部は刃潰しによって尖頭器状に調整している。先端部が欠損しているが基部の調整等より尖頭器ともとれるものである。172～174は黒曜石を素材に用いたもので、刃潰しを施し基部を成形したものである。

175～182は削器(スクレイパー)である。175は頁岩を素材に、打面の残る厚味のある縦長剥片を用い、片側縁に調整痕を施している。176は削器に分類したが、片刃石器である。錯向剥離によって4面の刃部を施している。また表面には研磨痕もみられるが顕著ではない。177・180は黒曜石の剥片を素材に片縁に調整痕のあるものである。179は頁岩を素材にし、縦長剥片を用い片縁辺部にリタッチを加えた削器である。178は流紋岩の剥片を素材に用い、先端周辺に調整を施した尖頭器状の石器である。先端部以外に加工痕がみられず、スクレイパーに分類した。

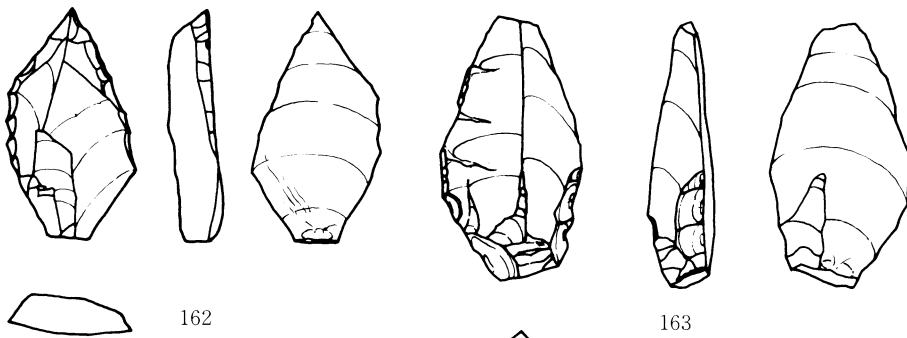
181・182は頁岩を素材にし、打面の残る横剥ぎ剥片の一面あるいは二面に調整を施したものである。

(引用文献)

1) 牛ノ浜修「木場A-2遺跡」 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(21)1982

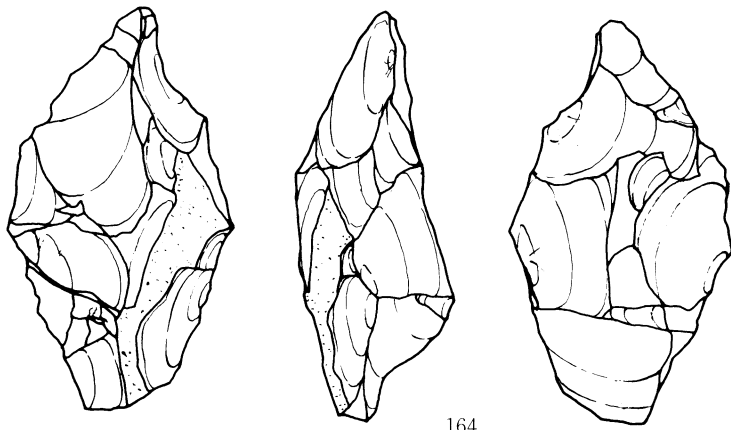


161



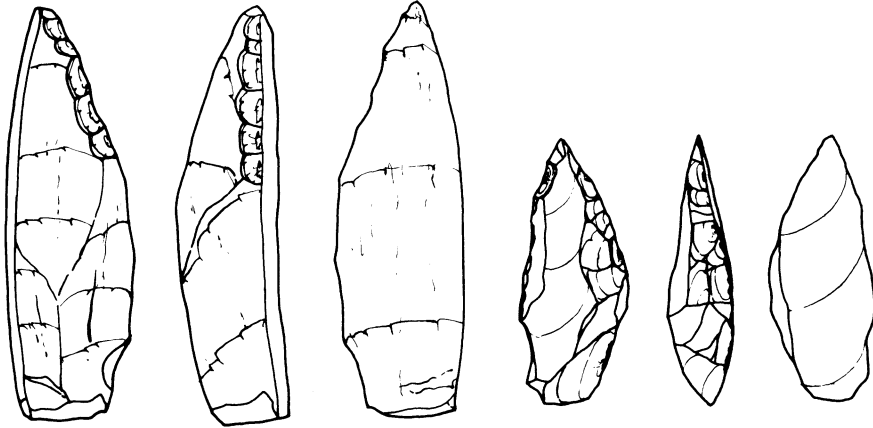
162

163



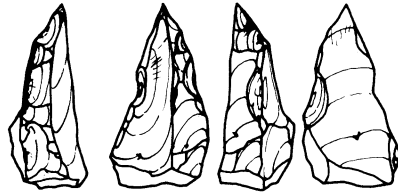
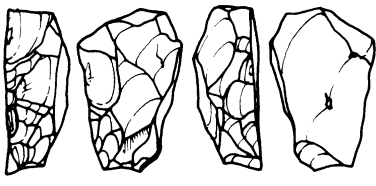
164

第23図 Cユニット出土尖頭器 (1)



165

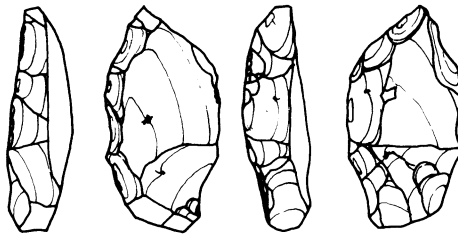
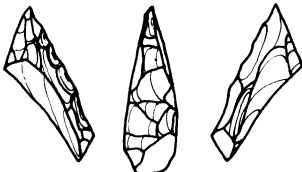
166



167



168



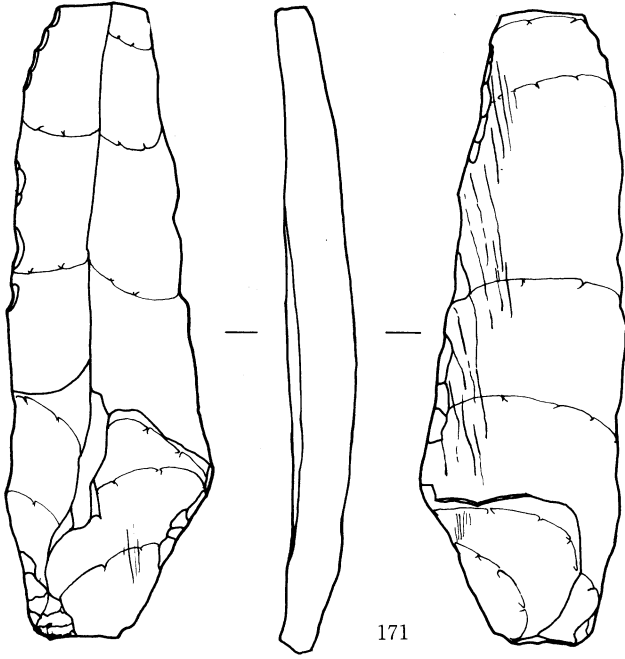
169



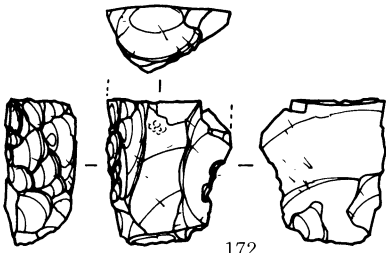
170

第24図 Cユニット出土尖頭器(2)

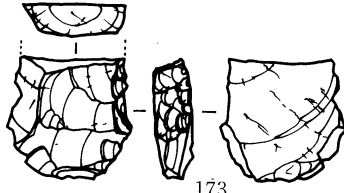




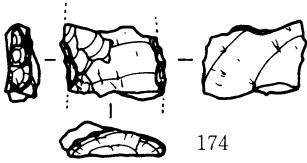
171



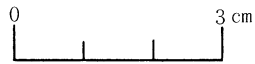
172



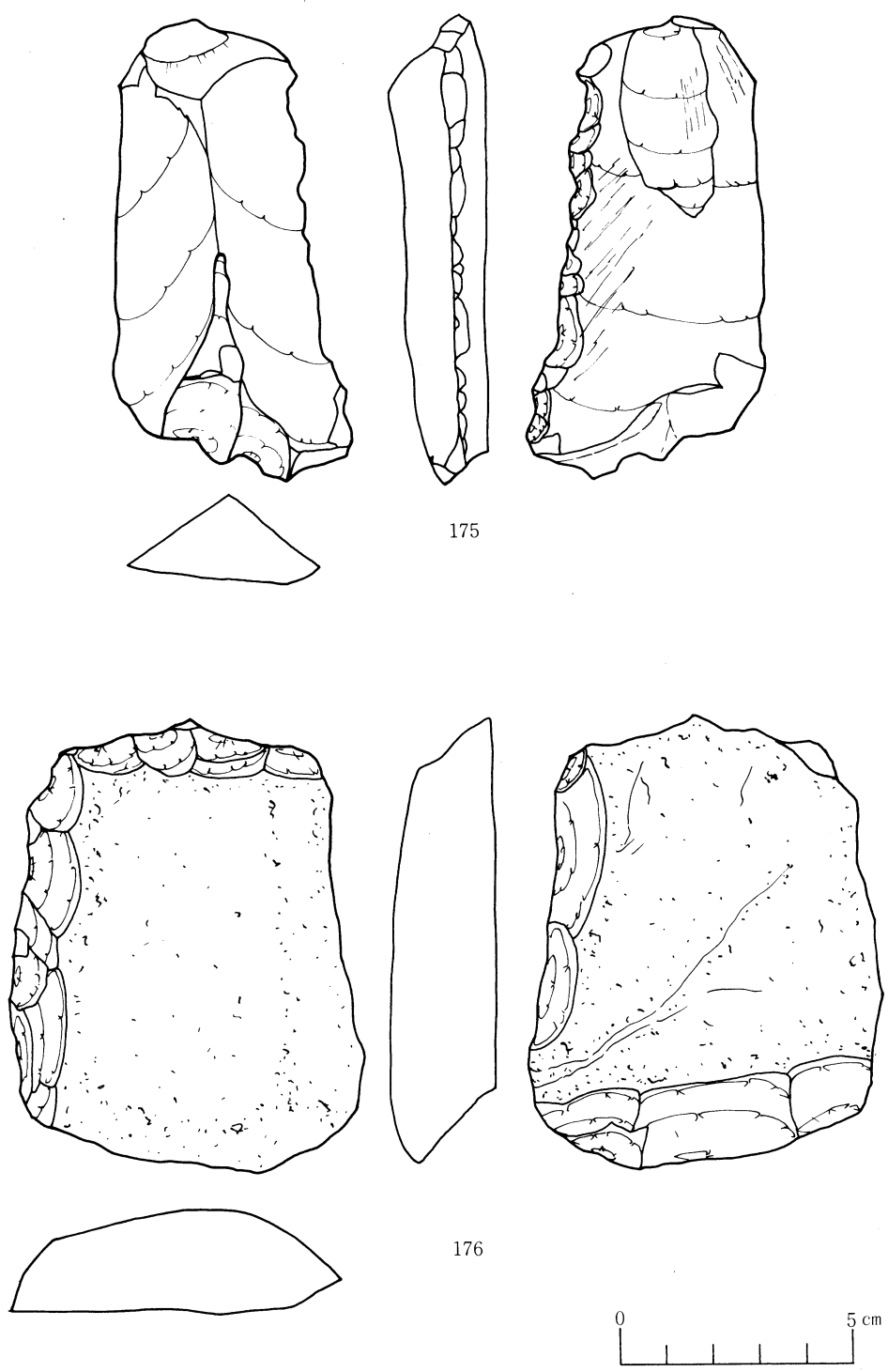
173



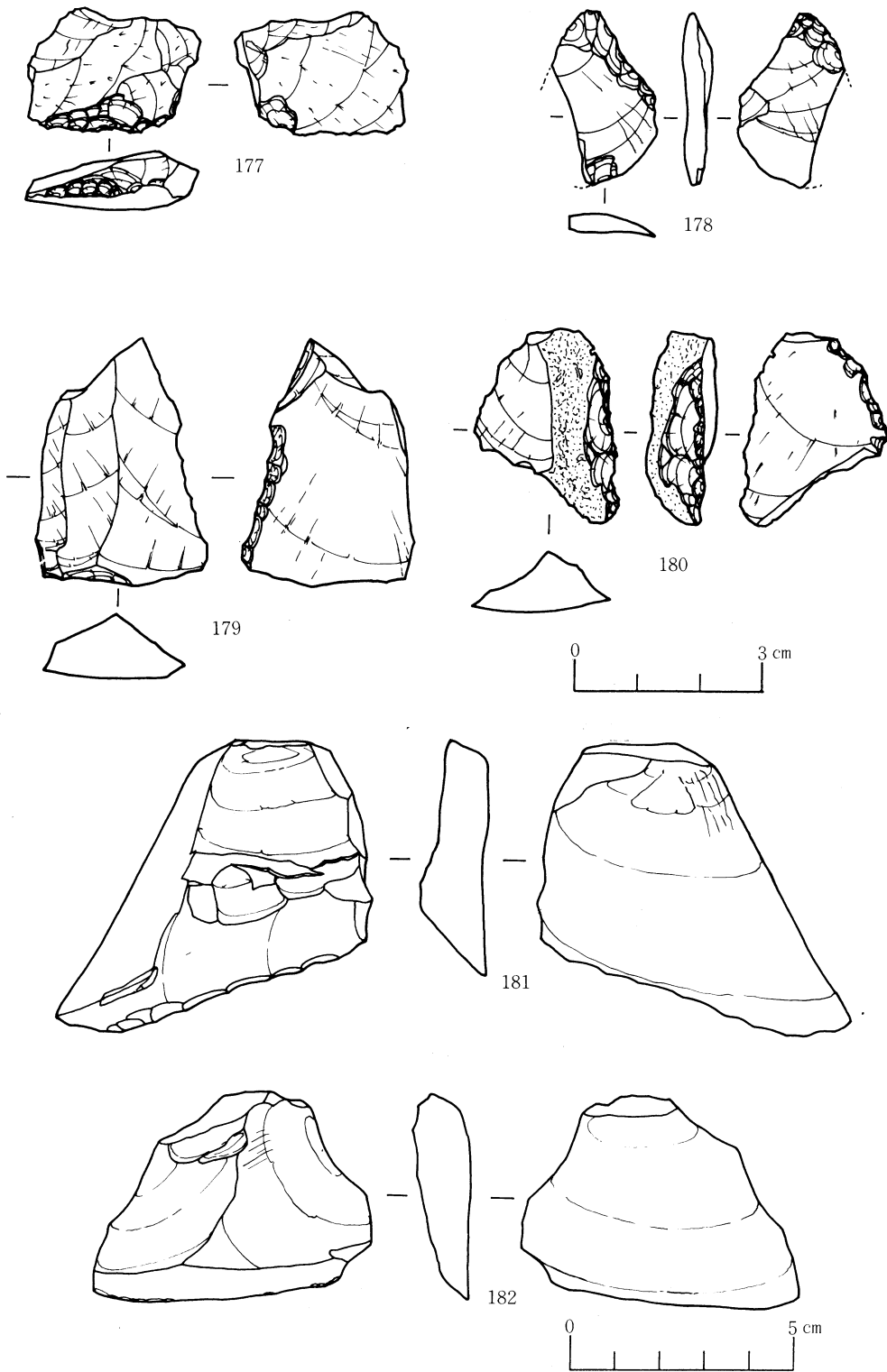
174



第25図 Cユニット出土ナイフ形石器



第26図 Cユニット出土石器 (1)



第27図 Cユニット出土削器 (2)

第4表 Cユニット石器一覧表(1)

遺物番号	図版番号	器種	石材	区	層	最大長(cm)	最大幅	厚さ	重量g	備考	
81		細石刃核	黒曜石	C	35C	3	2.0	1.2	1.3	3.9	打面部欠損
84		"	"	C	"	"	1.8	1.6	1.1	3.5	D型
246		ブランク	"	B							
268		細石刃核	"	B							下半部欠損
293	87	細石刃	"	C	34C	3下	0.7	0.5			
294		"	"	"	"	"	1.9	0.3			
336		ブランク	"	C	35C	3	2.3	1.2	1.1	2.4	破損
337	88	細石刃	"	"	"	"	0.9	0.7			
367		細石刃核	"	C	"	3下	2.2	1.8	1.1	5.0	
368	89	細石刃	"	"	"	"	1.0	0.4			
386	131	細石刃核	"	"	"	"	2.2	1.2	1.1	3.4	
434	54	細石刃	"	"	35D	"	1.3	0.5			
438	55	"	"	C	"	"	0.7	0.6			
443	90	細石刃	"	"	"	3	1.3	0.5			
457	56	"	"	"	"	3下	0.7	0.5			
464	91	"	"	"	"	"	0.5	0.6			
466	57	"	"	"	"	3	0.9	0.4			
475	94	細石刃核	"	C	"	"	1.1	0.3			
500		"	"	C	35E	4下	2.2	1.6	1.6	4.7	C型 下縁調整
505		細石刃	"	"	"	3下	0.4	1.0			
509	148	細石刃核	"	C	36E	4下	2.4	1.6	1.5	4.2	"
510		削器	"	C	"	3下	2.9	1.6	0.8	4.8	
515		細石刃	"	"	35E	4下	0.6	0.9			
520		"	"	"	"	3下	1.6	0.5			
524		"	"	"	"	"	1.9	1.7	1.6		
529	95	"	"	"	"	"	1.2	0.6			
536	58	"	"	C	34E	"	0.2	0.6			
538		"	"	"	"	"	1.0	0.5			
542	149	細石刃核	"	"	"	"					
551		"	"	C	"	"	2.1	1.6	1.4	7.6	C型
562		細石刃	"	"	"	"	1.0	0.4			
565		"	"	"	"	"	0.4	0.9			
576		"	"	"	35D	4	0.4	0.7			
594	41	"	"	C	"	"	1.1	0.4			
598		"	"	"	"	"	0.4	0.5			
611	59	"	"	C	"	"	0.9	0.6			
614		"	"	"	"	3	1.1	0.7			
619	96	"	"	C	35C	"	1.3	0.4			
621		"	"	"	"	4	1.0	0.4			
632		"	"	"	"	3	1.0	0.3			
637		細石刃核	"	C	"	4	1.5	1.2	1.1	2.0	打面部のみ
650		"	"	C	"	"	1.8	1.3	0.5	1.3	
665	97	細石刃	"	C	"	"	1.1	0.5			
675	42	"	"	C	"	"	1.3	0.6			
676	60	"	"	"	"	"	0.9	0.5			
679		"	"	"	"	"	0.8	0.6			
695		"	"	"	"	"	1.1	0.4			
699		"	"	"	"	"	1.5	0.5			
702		細石刃核	"	C	"	"	2.5	1.4	1.3	5.2	C型
704	98	細石刃	"	C	"	"	1.9	0.5			
720	178	削器	頁岩								
733		細石刃	"	"	35B	"	0.9	0.5			
735	61	"	"	C	"	3下	1.5	0.6			
736		"	"	C	"	"	1.4	0.6			
741		ブランク	メノウ	34C	4	1.8	1.3	1.3	4.6	C型	
752		細石刃	黒曜石	"	"	3下	1.0	0.6			
759											
770		"	"	"	"	"	7.0	0.5			
777	43	"	"	C	"	"	1.4	0.6			

第5表 Cユニット石器一覧表(2)

遺物番号	図版番号	器種	石材	区	層	最大長(cm)	最大幅	厚さ	重量(g)	備考
778	62	細石刃	黒曜石C	34C	3下	0.6	0.5			
784		"	"	"	"	0.7	0.6			
787		"	"	"	"	0.8	0.5			
798	126	細石刃核	" A	"	"	4.8	3.3	1.2	26.4	
803		"	" C	"	"	2.5	1.3	0.8	2.7	B型
824	125	"	"	"	4	2.8	1.5	1.2	3.7	
866	53	細石刃	"	33E	3下	0.7	0.6			
882	63	"	"	34E	"	1.6	1.5			
889	64	"	"	"	"	0.9	0.4			
892		細石刃核	" C	"	"	2.1	1.3	1.6	3.7	C型 下縁調整
900		"	" C	"	"	2.2	1.3	1.1	2.9	B型 打面部欠損
912	100	細石刃	"	"	4	1.0	0.5			
919	156	細石刃核	"	"	"	2.7	1.5	1.3	5.7	
920	145	"	" C	"	"	2.2	1.4	1.3	3.4	
922	101	細石刃	" C	35E	"	1.0	0.6			
928		"	"	"	"	2.7	0.4			
951		細石刃核	"	33C	"	2.2	0.9			
961		細石刃	"	"	3下	1.4	0.4			
971		細石刃核	" C	"	4	0.7	1.6	1.2	4.7	C型
973		ブランク	" C	"	"	1.1	1.3	1.2	3.2	
975	102	細石刃	"	"	"	1.5	0.3			
992		"	"	34C	3下(攪乱)	0.4	0.6			
995		ブランク	" C	"	"	1.7	1.5	1.2	3.1	
1000		細石刃核	"	"	4	2.3	1.4	1.2	4.4	B型
1013		細石刃	"	"	"	0.7	0.7			
1029		"	"	35C	"	0.8	0.4			
1050		細石刃核	"	"	"	2.0	1.8	1.4	5.6	B型
1111		"	" C	34C	3下	2.6	1.6	1.5	6.0	B型
1126		削器	" D	"	"	1.5	0.9	0.7	0.8	破損
1129		細石刃	"	"	"	0.6	0.5			
1143		"	" C	"	"	1.2	0.5			
1262		"	" C	33D	3	0.8	0.5			
1278		"	"	"	"	1.1	0.5			
1286		"	"	"	"	1.6	0.6			
1295		"	" C	"	"	0.9	0.5			
1308		細石刃剥離面調整剥片	" C	"	"	1.6	0.7			
1315		細石刃核	" C	34D	"	0.9	1.4	1.2	4.1	C型
1317		細石刃	"	"	"	0.7	0.4			
1319		"	"	"	"	0.7	0.4			
1327		"	" C	"	"	1.5	1.4	1.3	3.9	B型
1333		細石刃核	"	"	"					
1415		"	" C	35A	4上	2.5	1.4	1.1	4.4	B型
1416		細石刃	"	35B	"	0.8	0.6			
1417		"	"	"	"	0.9	0.5			
1419		"	" C	"	4	1.4	0.5			
1420		"	"	"	4上	0.8	0.5			
1421		"	"	"	"	1.5	0.3			
1422		"	"	"	"	0.9	0.5			
1423		"	"	"	"	1.0	0.6			
1424		"	"	"	"	0.6	0.4			
1430		"	"	"	"	1.1	0.6			
1441		"	"	"	4	0.7	0.6			
1444	147	細石刃核	" C	"	4上	2.7	1.9	1.1		
1451		細石刃	"	"	"	1.2	0.4			
1453		"	"	"	"	0.7	0.7			
1468		細石刃核	" C	"	4	1.6	1.2	1.0	1.8	C型 下半部欠損
1470	93	細石刃	"	"	"	1.6	0.4			
1472	44	"	"	"	4上	1.4	0.6			
1473		細石刃核	" C	35C	"	2.0	1.8	1.0	3.4	C型

第6表 Cユニット石器一覧表(3)

遺物番号	図版番号	器種	石材	区	層	最大長(m)	最大幅	厚さ	重量g	備考
1480		細石刃	黒曜石	35C	4	0.5	0.5			
1525		"	"	36C	"	0.6	0.4			
1532		"	"	"	"	0.7	0.4			
1552		"	"	"	"	1.2	0.5			
1560	65	"	"	"	"	1.2	0.5			
1573	104	"	"	37C	3(横転)	1.5	0.5			
1576		"	"	"	4	1.1	0.6			
1586	105	"	"	34C	3	0.6	0.4			
1611		細石刃核	" C	"	"	2.1	1.1	0.9	2.6	破損
1636	106	細石刃	"	34D	"	1.0	0.5			
1639		"	"	"	"	1.6	0.4			
1646		細石刃核	" C	"	"	1.8	1.4	0.9	2.4	C型 片側欠損
1649		細石刃	"	"	"	0.2	0.7			
1660		"	"	"	"	1.3	1.4			
1667		"	"	"	"	0.8	0.6			
1706		"	"	"	"	0.8	0.4			
1712		剥片	安山岩	"	"	5.1	3.1	1.2	18.0	
1738	167	尖頭器	黒曜石A	35B	"	2.2	1.5	0.9	3.6	
1742	45	細石刃	" D	"	"	1.6	0.5			
1744		"	"	"	"	1.2	0.5			
1766		細石刃核	" C	"	4上	2.4	1.5	1.1	5.3	C型 打面・下半欠損
1780		ブランク	" D	"	3	3.2	2.1	0.9	6.6	
1797	66	細石刃	" B	"	"	0.8	0.4			
1809		細石刃核調整剥片	"	36B	4上	1.0	0.6			
1840		削器	" A	"	3	4.8	3.5	1.8		
1841		"	"	"	"	2.9	2.9	1.8		
1843	168	尖頭器	" A	"	"	2.6	1.3	0.9	2.6	
1860	170	"	" A	"	4上	2.4	0.7	0.6	0.9	
1869		"	" E	35A	"	1.3	1.3	0.7	1.2	
1870		細石刃核	" C	"	"	2.4	1.5	1.1	4.0	B型
1879		ブランク	" C	36A	3下	2.6	2.2	1.5	8.4	
2072		細石刃核	" C	36C	3	2.3	1.2	1.2	4.0	B型
2073		細石刃核調整剥片	凝灰岩	"	"	1.3	0.5	0.7	0.5	
2088		細石刃	黒曜石	"	"	1.0	0.5			
2103	107	"	"	36D	"	1.1	0.4			
2117		細石刃核	"	"	"	1.7	1.4	1.5	3.9	C型
2122		"	" C	"	"	1.6	1.3	1.2	1.8	打面のみ
2129		"	" C	"	"	1.6	1.5	1.5	5.1	B型 打面・下半欠損
2136		細石刃	"	36C	"	0.7	0.6			
2160		細石刃核	" C	35D	"	2.3	1.5	1.5	5.7	C型
2208		細石刃	"	35C	"	0.8	0.6			
2219	108	"	" A	"	"	0.7	0.4			
2220		"	"	"	"	0.5	0.5			
2222	109	"	"	"	"	1.4	0.4			
2257	67	"	" C	33C	"	0.9	0.5			
2263		"	"	"	3下	0.7	0.5			
2268	68	"	" C	"	3	0.9	0.5			
2326		"	"	34C	"	0.8	0.5			
2328	140	細石刃核	"	"	"	1.8	1.3	1.7	4.6	
2339	46	細石刃	" C	33D	"	0.8	0.5			
2353	69	"	" C	"	3下	1.0	0.5			
2354	70	"	"	"	"	1.2	0.6			
2397	92	"	"	34D	3					
2408		"	"	"	"	0.9	0.4			
2418	47	"	" C	"	"	1.2	0.5			
2419	71	"	"	"	"	1.1	0.5			
2430	110	"	" B	"	"	1.4	0.4			
2434		"	" C	"	"	1.1	0.5			
2437		"	" C	"	"	0.5	0.4			

第7表 Cユニット石器一覧表(4)

遺物番号	図版番号	器種	石材	区	層	最大長(m)	最大幅	厚さ	重量g	備考
2439	73	細石刃	黒曜石	34D	3					
2441	74	"	" C	"	"	0.7	0.5			
2475	169	尖頭器	" A	37B	"	3.2	1.6	0.8	4.9	
2495		細石刃	"	35D	4	0.8	0.5			
2500		剥片	頁岩	"	"	1.6	1.5	0.3	1.0	
2513		細石刃	黒曜石A	"	"	0.5	0.5			
2534	75	"	"	35C	"	0.7	0.5			
2538	76	"	" C	"	3	0.5	0.5			
2541	115	細石刃核	"	"	"					
2544	111	細石刃	"	"	"	1.5	0.7			
2563	77	"	" C	"	4	0.6	0.5			
2569	93	"	"	"	"	1.2	0.7			
2575	78	"	"	"	"	1.5	0.6			
2591		細石刃核	" C	"	"	2.2	1.4	1.1	3.8	C型 片側欠損
2593	112	細石刃	"	"	"	1.5	0.5			
2597		細石刃核	" C	"	"	2.0	1.6	1.1	3.5	B型 下半一部欠損
2613		細石刃	"	"	"	0.7	0.5			
2620	79	"	"	"	"	1.2	0.5			
2624		再生剥片	" C	"	"	1.9	1.2	0.4	0.8	
2645	80	細石刃	"	"	"	1.1	0.4			
2675		"	"	35D	4下	0.8	0.6			
2686		"	"	"	"	1.3	0.7			
2691		"	"	"	"	0.3	0.5			
2695		"	"	"	"	1.1	0.6			
2715		"	"	"	4	1.1	0.5			
2716		"	"	"	"	0.9	0.6			
2722		"	"	"	"	0.5	0.6			
2724		"	"	"	3(横転)	0.8	0.7			
2725		"	"	"	"	0.6	0.4			
2736		"	"	35C	4	1.2	0.6			
2750		"	"	"	"	2.0	0.5			
2751		"	"	"	"	0.8	0.3			
2760		"	"	"	"	1.3	0.5			
2766		"	"	"	"	0.8	0.4			
2769		"	"	"	4下	1.5	0.6			
2774		"	"	"	"	0.9	0.6			
2778		"	"	"	4	1.3	0.5			
2779		"	"	"	"	1.0	0.6			
2787		"	"	"	"	1.2	0.5			
2829		細石刃核	" C	"	"	2.2	1.4	1.3	4.2	C型
2837		細石刃	"	"	"	0.7	0.5			
2844		"	"	"	4(横転)	1.5	0.5			
2845		ブランク	" C	"	4	2.5	1.7	1.0	3.8	
2892	48	細石刃	"	"	"	1.5	0.6			
2893		細石刃核	"	"	"					
2900		細石刃	"	"	"	1.0	0.6			
2905		"	" C	"	"	2.0	1.1	0.3	0.8	
2911	159	細石刃核	" C	"	"	2.5	1.4	1.5	6.3	
2920		細石刃	"	"	"	1.1	0.5			
2922		"	"	"	"	0.8	0.6			
2928		"	"	"	"	1.0	0.5			
2929	165	尖頭器	頁岩	"	"	5.9	1.8	1.4		
2930	160	細石刃核打面再生剥片	黒曜石C	"	"	1.7	1.5	0.5	1.8	
2931		細石刃	"	"	"	2.0	0.5			
2947		"	"	"	"	0.6	0.3			
2951		"	"	"	"	0.9	0.5			
2966		"	"	"	"	0.8	0.5			
2972		"	"	"	"	9.1	0.5			
2989		"	"	34C	"	0.7	0.5			

第8表 Cユニット石器一覧表

遺物番号	図版番号	器種	石材	区	層	最大長(mm)	最大幅	厚さ	重量g	備考
2992		細石刃	黒曜石	34C	4	1.6	0.5			
2997		"	"	"	"	1.0	0.5			
2999		"	"	"	"	0.4	0.4			
3005		ブランク	" C	"	"	1.7	1.0	1.0	2.1	
3019		細石刃	"	"	"	0.8	0.5			
3021		"	"	"	"	0.9	0.6			
3029		削器	" C	"	"	1.5	1.1	0.5	0.8	
3035	123	細石刃核	" C	"	"	2.5	1.7	1.0	2.1	
3045		細石刃	"	"	"	0.9	0.5			
3047		"	"	"	"	1.4	0.7			
3050		"	"	"	"	1.5	0.5			
3057		"	"	33C	"	0.9	0.4			
3062		"	"	"	"	0.6	0.5			
3063	49	細石刃核再生調整剥片	" C	"	"	1.5	0.5			
3065		細石刃	"	"	"	0.6	0.6			
3070		細石刃核	" C	"	"	2.2	1.3	1.0	3.6	C型 小円礫使用
3107		細石刃	"	35D	4上	0.7	0.3			
3110		"	"	"	"	1.2	0.5			
3111	81	"	" C	"	"	1.0	0.4			
3117		"	"	"	"	0.9	0.4			
3124		細石刃核	" C	36D	3下	2.5	1.7	2.3	6.8	C型 剥離面一部欠損
3126		ブランク	" C	"	4上	2.5	1.3	1.1	4.5	C型
3131		細石刃	"	"	3下	0.9	0.5			
3132		"	"	"	"	1.3	0.6			
3137		ブランク	" C	35D	"	2.4	1.3	1.5	5.8	B型
3150		細石刃核	" C	"	"	2.2	1.5	1.3	4.8	C型 打面調整なし
3153		細石刃	"	"	"	0.8	0.4			
3162		"	" C	35C	"	0.7	0.4			
3163		削器	" C	"	"	2.8	1.3	1.1	3.7	
3170	50	細石刃	"	"	横転(砂層)	1.4	0.5			
3171	86	"	" C	"	3下	1.6	0.5			
3178		"	"	"	4上	7.2	0.4			
3187		"	"	"	3下	1.1	0.4			
3189	51	"	" C	"	"	1.6	0.5			
3192	113	"	"	"	4上	1.5	0.5			
3213		"	"	"	3下	0.9	0.6			
3221	132	細石刃核	" C	36C	3	2.1	1.9	0.9	3.9	
3227		細石刃	"	"	3下	1.0	0.7			
3230	52	"	" C	"	"	1.5	0.6			
3242		細石刃核	" C	"	4上	2.2	1.2	1.3	4.3	C型
3244		細石刃	"	36D	3下	0.9	0.4			
3247		"	"	36C	"	0.8	0.6			
3250		"	"	"	4上	0.8	0.8			
3251		細石刃核	" C	"	"	2.6	1.6	1.7	6.7	C型
3254		細石刃	"	"	"	1.2	0.6			
3256	82	"	"	"	"	0.9	0.5			
3260		"	"	"	"	1.0	0.4			
3261	114	"	" C	"	4上	1.0	0.4			
3262		"	" C	"	"	1.1	0.4			
3266	83	"	"	"	"	1.4	0.5			
3270		"	"	36D	"	1.0	0.6			
3275		"	"	"	"	1.2	0.4			
3276		"	"	"	"	3.6	2.4	1.3		
3287	84	"	"	"	4下	1.0	0.6			
3291		"	"	"	4上	0.8	0.4			
3300		"	"	"	3下	1.2	0.6			
3303	152	細石刃核	"	"	"	2.7	1.8	1.2	5.3	
3311	85	細石刃	"	"	"	0.8	0.4			
3316		"	"	"	3下	0.7	0.5			



第9表 Cユニット石器一覧表(6)

遺物番号	図版番号	器種	石材	区	層	最大長(m)	最大幅	厚さ	重量g	備考
3331		ブランク	黒曜石C	36D	3下	2.1	1.7	1.3	6.4	C型
3337		細石刃核	"	"	"	2.5	1.3	1.4	4.7	打面・下半欠損
3341		ナイフ形石器	安山岩	35B	4上	4.3	0.8	0.6		
3364	162	尖頭器	チャート	36B	4	2.2	1.8	0.6		
3365	176	片刃石器	安山岩	35C	"	9.7	7.5	2.3		錯向剥離
3366		剥片	"	"	4下	7.6	3.3	1.6		
3367	175	削器	頁岩	"	"	10.2	4.5	2.0		
3370		細石刃	黒曜石	34C	"	1.2	0.4			
3405		"	"	"	"	0.5	0.4			
3419		"	"	"	"	1.0	0.5			
3424		"	"	"	"	0.8	0.6			
2431		削器	"C	"	"	2.8	2.0	1.2	10.5	
3432		細石刃	"	"	"	0.4	0.4			
3434		"	"	"	"	1.5	0.4			
3446		石槌	安山岩	"	"	7.7	5.5	4.1	22.5	
3454		細石刃	黒曜石	"	4	0.9	0.5			
3455		"	"	"	"	0.6	0.7			
3500		"	"	"	4下	0.8	0.6			
3507		"	"	"	"	1.0	0.5			
3532		"	"	"	"	1.0	0.4			
3540		"	"	"	4	0.8	0.6			
3547		細石刃核	"C	"	4下	1.8	1.8	0.9	3.4	B型
3568		細石刃	"	33C	"	1.3	0.5			
3574		"	"	"	"	1.0	0.5			
3581		"	"	"	4	1.0	0.5			
3583		"	"	"	"	1.0	0.4			
3614		"	"	35B	4上	0.9	0.4			
3621		"	"	"	3(横転)	1.1	0.5			
3624		細石刃核	"C	35A	"	1.8	2.4	1.1	3.8	C型
3653		細石刃	"	36B	"	1.2	0.5			
3700	153	細石刃核	"	"	4	2.5	1.4	1.1	3.4	
3760		"	"C	35B	4下	2.0	1.4	1.0	3.5	D型
3771		細石刃	"	35A	"	0.6	0.5			
3781		"	"	"	"	1.6	0.4			
3797		"	"	35C	"	0.9	0.5			
3799		"	"	"	"	0.7	0.6			
3800		細石刃核	"C	"	"	1.7	1.2	1.0	2.7	B型
3807		細石刃	"	"	"	0.5	0.5			
3828		"	"	"	4	0.7	0.3			
3838		"	"	"	4下	1.1	0.7			
3858		細石刃核調整剥片	"	"	"	1.6	0.9			
3861		細石刃	"	"	"	1.1	0.6			
3878		ブランク	"C	"	4	3.4	2.3	1.8	18.5	C型
3882	142	細石刃核	"C	"	"	2.2	1.4	1.1	4.2	
3887		細石刃	"	"	"	1.0	0.5			
3894		"	"C	"	4下	2.4	1.3	1.3	4.0	C型 打面一部欠損
3900		細石刃核	"	"	"	0.9	0.6			
3904		"	"C	"	4上	1.7	1.0	0.7	1.5	一部剥離面のみ
3923		石槌	砂岩	"	4	7.6	6.4	4.7	29.0	
3937		細石刃	黒曜石	36C	"	0.7	0.5			
3953		"	"	"	"	1.2	0.4			
3954		細石刃核	"	"	"	1.8	1.1	1.0	2.0	B型 下半部欠損
3958	180	削器	"B	"	"	2.6	1.4	0.4	1.7	
3963		細石刃核	頁岩	"	"	1.7	1.3	0.5	1.1	剥離面のみ
3974		細石刃	黒曜石C	"	4下	0.6	0.5			
3976		"	"	"	"	1.0	0.7			
3982		細石刃核	"	"	4	1.1	0.5			
3985		細石刃	"	"	"	0.9	0.6			
3988		細石刃核	"E	"	"	1.6	1.1	0.8	1.4	

第10表 Cユニット石器一覧表(7)

遺物番号	図版番号	器種	石材	区	層	最大長(cm)	最大幅	厚さ	重量g	備考
3997		細石刃	黒曜石	36C	4	0.9	0.6			
4009		"	"	35C	4下	1.2	0.4			
4010		"	"	"	"	1.1	0.4			
4011		"	"	"	"	0.9	0.5			
4024	151	細石刃核	"	"	3下	3.3	1.7	1.7		
4032		細石刃	"	"	4下	0.9	0.5			
4042		"	"	"	4	1.0	0.4			
4048		"	"	"	"	1.7	0.6			
4061		"	"	35D	"	1.2	0.5			
4064		"	"	"	4下	1.3	0.6			
4067		細石刃核	"	"	4	1.4	1.2	0.9	1.9	打面のみ
4083		細石刃	"	"	4下	1.1	0.6			
4085		"	"	"	3	0.9	0.4			
4097		"	"	36C	4	0.9	0.5			
4100		"	"	"	"	0.8	0.6			
4103		"	"	"	"	0.9	0.3			
4106		"	"	36D	"	1.0	0.6			
4108		"	"	"	"	1.0	0.7			
4112		"	"	36C	"	1.6	0.6			
4114		"	"	"	4下	1.0	0.6			
4135		"	"	"	4	0.9	0.5			
4138	146	細石刃核	" C	36D	"	1.7	1.6	1.2	3.7	
4139		細石刃	"	"	"	0.9	0.5			
4150		"	"	35D	4下	0.8	0.4			
4160		"	"	"	3下	0.9	0.7			
4165		"	"	"	"	1.0	0.6			
4173		"	"	"	4	0.1	0.5			
4176	118	細石刃核	" C	"	"	2.2	1.6	1.0	4.0	
4187		細石刃	"	"	"	1.4	0.5			
4195		"	"	"	"	1.1	0.7			
4201		"	"	"	"	1.1	0.3			
4203		"	"	"	"	1.2	0.8			
4207		"	"	"	"	1.1	0.6			
4214		細石刃核	" C	36D	"	1.6	1.1	1.1	2.4	B型
4216		細石刃	"	"	"	0.8	0.3			
4229		"	"	35D	"	0.7	0.4			
4233		細石刃核	" C	"	"	2.0	1.4	0.9	2.8	破損
4235		細石刃	"	"	"	1.3	0.7			
4258		"	"	36D	3下	0.7	0.5			
4264		"	"	"	4	0.9	0.3			
4277		"	"	"	"	0.7	0.5			
4284		細石刃核	" C	"	4上	2.0	1.5	1.3	3.1	C型
4287		細石刃	"	"	4	0.8	0.5			
4292		"	"	"	"	0.9	0.5			
4301		"	"	"	"	0.8	0.3			
4316		細石刃核	"	34C	"	0.6	0.5			
4323		"	"	"	"	0.5	0.4			
4326		"	"	"	"	1.3	0.5			
4339		"	"	"	"	0.9	0.4			
4343		"	"	"	"	1.1	0.7			
4349	127	細石刃核	"	"	"	2.5	1.8	1.8		
4366										
4367		細石刃	"	"	"	0.7	0.6			
4382		"	"	35C	"	1.2	0.4			
4397		剥片	たんぱく石	"	"	2.7	1.3	0.5	2.8	
4416		細石刃	黒曜石 C	34C	"	1.8	1.0	0.3	0.8	
4420		ブランク	" C	"	"	2.4	1.7	1.4	8.3	C型
4444		細石刃核	" C	34D	4上	2.2	1.6	1.2	5.1	D型 背縁調整
4445		石核	" C	"	"	1.6	1.3	1.2	3.3	

第11表 Cユニット石器一覧表(8)

遺物番号	図版番号	器種	石材	区	層	最大長(cm)	最大幅	厚さ	重量g	備考
4452		細石刃	黒曜石	34D	4上	0.9	0.4			
4466		"	"	"	4	0.7	0.5			
4470		細石刃核	" C	"	3下	1.9	1.6	1.0	2.9	C型
4475		細石刃	"	34C	"	0.9	0.5			
4477		" "	"	33C	4	0.4	0.5			
4480		"	"	"	"	1.2	0.3			
4482		"	"	"	"	0.9	0.6			
4486	119	細石刃核	"	"	"	1.9	1.2	1.4	3.6	
4488		細石刃	"	"	"	1.0	0.6			
4489		"	" C	"	"	1.3	0.5			
4500	179	削器	頁岩	"	3	3.8	2.8	1.0	10.1	
4518		細石刃	黒曜石	"	"	0.7	0.4			
4521		尖頭器	" B	"	"	4.2	0.8	0.9	1.8	
4528		細石刃	"	34D	4	0.9	0.6			
4537		"	"	"	"	0.5	0.5			
4538		"	"	"	"	0.5	0.5			
4539		"	"	"	"	1.8	0.6			
4540		細石刃核	" C	"	"	2.3	1.4	1.2	3.8	C型
4547		細石刃	"	"	"	1.0	0.3			
4548		"	"	"	"	0.8	0.7			
4549		"	"	"	"	0.7	0.4			
4564		"	"	"	4上	1.1	0.5			
4567		"	"	"	"	1.1	1.6			
4581		"	"	"	"	1.0	0.5			
4586		"	"	"	4	0.8	0.5			
4600		細石刃核	" C	"	"	2.0	1.7	0.9	4.1	D型
4609		剥片	メノウ	"	"	2.7	1.3	0.8	3.2	
4617		細石刃核	黒曜石C	"	"	2.8	1.5	1.3	4.8	
4618		細石刃	"	"	"	1.8	0.8			
4621	157	細石刃核	" C	"	"	2.3	1.3	0.7	2.0	
4627	155	"	"	"	"	2.5	1.2	1.1	3.8	
4646		細石刃	"	33D	"	0.9	0.4			
4648		細石刃核	" C	"	"	1.3	1.3	1.3	2.4	打面部欠損
4653		細石刃	"	"	"	0.3	0.5			
4661	121	細石刃核	"	"	3(横転)	2.6	1.3	0.8	3.5	
4670		細石刃	"	"	4	0.3	0.6			
4682	134	細石刃核	"	"	"	1.9	1.4	0.7	2.5	
4700	129	"	" C	"	"	2.4	1.7	1.4	6.7	
4704		細石刃	"	"	"	0.7	0.4			
4706		"	"	"	"	0.6	0.9			
4723		"	"	"	"	0.7	0.5			
4733		"	"	"	"	0.9	0.6			
4739		石槌	砂岩	"	"	9.2	5.4	3.9	240	
4747	117	細石刃核	黒曜石	"	"	2.2	1.6	1.3		
4750		細石刃	"	"	"	0.8	0.4			
4755		"	"	"	3下	0.8				
4777		細石刃核	" C	"	3(横転)	2.3	1.4	1.1	4.1	C型 180°打面転位
4790		細石刃	"	33E	"	1.0	0.4			
4792	124	細石刃核	" C	"	4上	2.2	1.4	1.3	5.2	
4800	138	"	" E	"	"	1.8	1.3	0.9	2.7	
4805		細石刃	"	"	"	1.4	0.7			
4810		"	"	"	3下	0.3	0.5			
4812		細石刃核	" C	"	"	1.8	1.3	1.2	4.0	B型
4817		細石刃	"	"	3(横転)	0.8	0.5			
4831		"	"	34E	3下	0.7	0.4			
4837	141	細石刃核	"	"	4上	2.3	1.7	1.3	3.8	
4849		"	" C	"	"	1.9	1.4	1.0	2.2	
4851	137	"	" E	"	4	2.4	0.9	0.9	1.6	
4857		"	" C	"	"	2.2	1.4	1.1	3.2	C型

第12表 Cユニット石器一覧表(9)

遺物番号	図版番号	器種	石材	区	層	最大長(cm)	最大幅	厚さ	重量g	備考
4862		細石刃	黒曜石	34E	4下	0.8	0.6			
4863		"	"	"	"	1.0	0.5			
4871	120	細石刃核	" C							
4878		細石刃	"	"	4	0.8	0.5			
4879		"	"	"	"	1.4	0.6			
4884		"	"	"	4下	1.3	0.4			
4908		"	"	35C	4	1.3	0.6			
4912		"	"	34C	"	1.1	0.6			
4913		細石刃核	"							打面のみ
4926		細石刃	"	"	4下	0.9	0.5			
4938		"	"	"	"	1.0	0.4			
4946		"	"	"	"	1.1	0.4			
4949		"	"	"	"	1.0	0.5			
4956	130	細石刃核	"	"	"	2.6	1.4	1.5	5.6	
4958		細石刃	"	"	"	1.3	0.4			
4968		"	"	"	"	1.7	0.7			
4975		"	"	"	"	0.6	0.5			
4986		"	"	33C	4	1.5	0.6			
4992		石 槌	砂 石	"	"	8.2	5.2	4.2	230	
4998		細石刃	黒曜石	34C	"	1.5	0.5			
5000		"	"	"	"	0.9	0.5			
5013		削 器	" C	"	4下	1.7	1.0	0.5	0.8	
5017		細石刃	"	"	4	0.8	0.5			
5022		"	"	"	4下	0.9	0.6			
5027		"	"	"	"	0.6	0.5			
5028		"	"	"	"	1.9	0.6			
5034		"	"	"	"	0.6	0.6			
5062		"	"	"	4	1.0	0.4			
5068		"	"	"	"	1.6	0.6			
5079		"	"	"	"	0.8	0.6			
5083		"	"	"	"	0.7	0.6			
5087		"	"	"	4上	1.2	0.7			
5099		ブランク	" C	34D	4	2.0	1.6	1.4	4.6	C型
5107		細石刃核	" C	34C	"	1.6	1.3	1.1	2.9	打面部欠損
5121		削 器	" C	35C	4下	2.3	1.7	1.1	5.2	D型 下半部欠損
5131		細石刃核	"							
5132		細石刃	"	36D	"	1.0	0.4			
5133		"	"	"	"	1.6	0.5			
5146		"	"	36C	"	2.1	0.8			
5148		削 器	" B	"	"	2.3	1.6	0.6	2.1	
5150		細石刃	"	"	"	1.4	0.5			
5154		"	"	"	"	0.9	0.6			
5156		"	"	35C	3(横転)	0.9	0.4			
5165		"	"	35D	4下	1.5	0.6			
5166	139	細石刃核	" C	"	"	1.7	1.2	1.3	3.1	
5178		細石刃	"	36D	"	1.6	0.6			
5184		"	"	35D	"	1.1	0.5			
5186		"	"	"	"	1.1	0.4			
5191		"	"	"	4	1.6	0.6			
5200		"	"	36D	"	0.7	0.7			
5205		"	"	35D	"	2.1	0.5			
5222		"	"	34D	"	0.9	0.4			
5231		"	"	33D	"	1.1	0.4			
5233		細石刃核	" C	"	"	2.2	1.3	1.3	5.2	D型
5238		"	" C	"	"	2.5	1.4	1.9	6.2	C型
5244		細石刃	"	"	"	1.0	0.6			
5251		"	"	33E	"	1.0	0.4			
5252		"	"	"	"	1.2	0.5			
5255		細石刃核	" C	"	"	2.2	1.6	1.1	4.7	D型

第13表 Cユニット石器一覧表 (10)

遺物番号	図版番号	器種	石材	区	層	最大長(cm)	最大幅	厚さ	重量g	備考
5258		細石刃	黒曜石	34E	4	0.8	0.4			
5259		"	"	"	"	0.7	0.7			
5293	173	ナイフ形石器(片)	" D	34B	4上	1.7	1.6	0.6	2.1	
5300	163	剥片尖頭器	頁岩	"	"	3.7	2.0	1.0		
5306		削器	黒曜石A	"	3	1.9	1.8	1.1	3.7	破損
5312	172	ナイフ形石器(片)	" C	34A	4上	1.9	1.8	1.0	3.6	
5314	174	" (")	" D	"	"	1.4	1.0	0.4	0.8	
5327		細石刃核	" C	34B	"	1.5	1.4	1.1	3.1	C型
5339		細石刃	"	34A	3下	1.2	0.6			
5346		"	"	34E	4	1.1	0.4			
5350		細石刃核	" C	"	3下	2.1	1.6	1.1	4.0	C型
5355		"	" B	"	4	2.2	1.3	0.9	3.1	C型 小礫使用
5357		"	" C	"	"	2.2	1.3	1.3	4.1	B型
5358		"	" C	"	4上	2.2	1.2	0.7	2.2	C型
5359		細石刃	"	"	3	1.2	0.5			
5363		"	"	"	4上	0.5	0.6			
5365		細石刃核	" C	"	"	1.8	1.1	1.1	2.0	下半のみ
5375		"	" C	"	4	2.4	1.6	1.0	3.9	
5381		"	"	"	4下	1.1	0.4			
5383		細石刃	"	"	4上	0.5	0.4			
5385		"	"	"	"	0.7	0.6			
5367		削器	" C	"	4	2.1	1.8	0.9	4.7	D型
5398		細石刃核	" B	"	3下	2.2	1.4	1.3	3.7	C型
5417		細石刃	"	"	4	1.1	0.5			
5419		細石刃核	" C	"	3(ごぼう穴)	1.5	1.4	1.3	2.6	C型
5446		細石刃	"	35E	4下	0.6	0.5			
5471		"	"	33E	3(横転)	1.0	0.5			
5481		細石刃核	" C	"	"					
5487		"	" C	"	4	1.6	1.1	0.9	3.2	
5494		細石刃	"	33D	4下	1.1	0.6			
5500	161	剥片尖頭器	" C	34D	"	7.3	3.0	0.7		
5521	116	細石刃核	" C	33D	"	2.6	1.4	1.4	5.0	
5532		細石刃	"	34E	"	1.6	0.6			
5541		"	"	"	"	0.9	0.5			
5555		"	"	34D	4	1.6	0.5			
5567	181	削器	頁岩	"	"	8.6	5.2	2.0		
5569		細石刃	黒曜石	"	"	0.9	0.4			
5572		細石刃核	" C	"	"	1.9	1.8	1.3	4.8	C型
5577		細石刃	"	"	4下	0.9	0.6			
5585		"	"	"	"	2.0	0.5			
5600		"	"	"	"	0.8	0.5			
5610		"	"	"	"	0.7	0.6			
5612		ブランク	" C	"	"	1.9	2.0	1.5	7.2	B型
5615		細石刃核	" C	"	"	1.8	1.6	1.3	3.3	打面のみ
5633		細石刃	"	"	"	0.9	0.6			
5649		"	"	34C	"	0.7	0.3			
5656		"	"	"	"	0.8	0.3			
5671		"	"	"	"	0.9	0.4			
5681		"	"	"	"	0.5	0.4			
5700		細石刃核	" C	33E	4上	1.5	1.3	1.0	2.7	C型
5702	150	"	" C	"	4	2.2	1.4	0.9	3.0	
5704		細石刃	"	"	3下	0.5	0.5			
5705		"	"	"	4	2.1	0.7			
5706		"	"	"	"	0.9	0.4			
5813		細石刃核	"	"	"					一部剥離面のみ
5849		細石刃	"	34A	4	0.9	0.4			
5852		"	"	"	4上	0.6	0.4			
5858	166	尖頭器	チャート	"	"	3.8	1.5	1.0		
5859		細石刃	黒曜石	"	"	1.1	0.6			

第14表 Cユニット石器一覧表 (1)

遺物番号	図版番号	器種	石材	区	層	最大長(m)	最大幅	厚さ	重量g	備考
5868		細石刃	黒曜石	34B	4上	1.5	0.3			
5875		細石刃核	" C	"	4	1.8	1.2	1.1	3.3	C型
5876		細石刃	"	"	"	1.2	0.4			
5903		細石刃核	" C	"	"	1.8	1.4	0.8	2.6	
5906		細石刃	"	"	"	1.2	0.5			
5917		"	"	"	"	1.0	6.9			
5919	128	細石刃核	"	"	"	2.6	1.1	1.2	4.8	
5927		両面加工石器	砂岩A	35B	"	4.5	4.4	2.3		
5930		細石刃	黒曜石	"	"	0.9	0.5			
5939		"	"	"	4下	1.4	0.5			
5968		細石刃核	" C	34B	"	2.5	1.5	1.1	4.1	D型
5972		彫器	"	"	4	1.6	1.3	0.6	1.7	
5980	144	細石刃核	"	36B	3(横転)	2.3	1.7	1.4	7.3	
5983		削器	" D	"	"	1.8	1.1	0.7	1.5	破損
6017		石槌	安山岩	"	4	10.6	4.8	2.7	160	
6039		細石刃	黒曜石	35C	4下	1.0	0.5			
6047		"	"	"	"	0.9	0.5			
6048		削器	メノウ	"	"	3.3	1.3	0.8	3.1	
6052		細石刃	黒曜石	"	"	1.0	0.5			
6065		"	"	"	"	0.7	0.5			
6066		"	"	"	"	0.8	0.5			
6067		"	"	"	"	0.6	0.4			
6074		"	"	"	4上	8.1	0.6			
6087		"	"	35D	4下	0.6	0.6			
6091		"	"	"	"	1.4	0.6			
6099		"	"	"	"	1.3	0.6			
6104		"	"	33C	"	1.7	0.5			
6105		"	"	"	"	0.9	0.6			
6110		"	"	"	"	0.7	0.5			
6111		"	"	"	"	1.2	0.5			
6118		"	"	34C	"	1.3	0.5			
6145		"	"	33E	3(横転)	1.3	0.6			
6149		剥片	鉄石英	32E	3下	2.0	1.7	0.6		
6164		細石刃	黒曜石	34C	4	0.8	0.5			
6167		"	"	"	4上	0.6	0.6			
6174		"	"	"	4	1.4	0.5			
6175		"	"	"	"	0.7	0.4			
6229		"	"	"	4上	0.6	0.4			
6230		"	"	"	3下	0.7	0.4			
6235		細石刃核	" C	"	"	1.9	1.1	1.1	3.5	B型 下半一部欠損
6254		細石刃	"	33C	4下	1.3	0.5			
6263		"	"	34C	"	0.7	0.5			
6275		"	チャート	"	4下	0.6	0.5			
6287		"	黒曜石	"	4	0.5	0.4			
6289		"	"	"	"	1.3	0.5			
6290		"	"	"	"	0.6	0.4			
6291		"	" C	"	"	0.8	0.4			
6295		"	"	"	4下	0.7	0.5			
6311		"	"	"	4	0.8	0.5			
6314		"	"	"	"	0.9	0.5			
6324		"	"	"	"	7.0	0.5			
6327		剥片	頁岩	"	"	5.0	1.0	0.9	6.5	
6335		細石刃	黒曜石	"	"	0.2	0.6			
6340		"	"	"	"	0.7	0.5			
6345		"	"	"	4下	1.2	0.5			
6348		"	"	"	4	1.2	0.4			
6373		"	"	"	4下	0.8	0.5			
6381		"	"	"	"	0.9	0.3			
6404		"	"	"	"	0.7	0.5			

第15表 Cユニット石器一覧表 (12)

遺物番号	図版番号	器種	石材	区	層	最大長(cm)	最大幅	厚さ	重量g	備考
6405		細石刃	黒曜石	34C	4下	0.5	0.4			
6409		"	"	"	"	0.7	0.4			
6421		"	"	"	"	1.4	0.5			
6424		"	"	"	"	1.0	0.5			
6435		ブランク	" C	"	"	3.1	1.6	1.3	6	B型
6436		細石刃	チャート	"	"	0.7	0.4			
6449		"	黒曜石	35C	"	0.8	0.4			
6453		"	"	"	4	1.3	0.4			
6456		細石刃核	" C	"	"	2.6	1.1	1.0	2.6	D型
6461		細石刃	"	"	"	0.8	0.3			
6462		"	"	"	"	1.6	0.6			
6481		"	"	5D	4下	1.0	0.5			
6487		"	"	34E	"	0.9	0.7			
6493		"	"	33E	4(横転)	1.9	0.5			
6496		"	"	"	"	1.1	0.5			
6508		"	" E	"	"					
6574		"	" E	"	"					
6592		細石刃核	"	34C	4下	1.9	1.0	0.6	1.3	
6604		細石刃	"	"	"	0.4	0.4			
6605		"	"	"	"	1.2	0.5			
6608		"	"	"	"	0.5	0.4			
6609		"	"	"	"	0.8	0.4			
6618		"	"	"	"	0.9	0.5			
6619		"	"	"	"	1.4	0.4			
6620		"	"	"	"	0.9	0.3			
6626		"	"	"	"	1.7	0.5			
6628		"	"	"	"	0.5	0.4			
6629		"	"	"	"	0.8	0.5			
6632		"	"	"	4	0.9	0.5			
6644		"	"	"	"	0.4	0.4			
6646		"	"	"	"	0.7	0.5			
6665		"	"	"	4下	1.0	0.4			
6691		"	"	33E	"	1.3	0.3			
6694		"	"	33D	"	1.0	0.9			
6708		"	"	"	"	1.4	0.5			
6716		細石刃核	" C	34D	"	1.9	1.5	1.2	4.3	打面部破損
6726		細石刃	"	"	"	0.8	0.6			
6730		"	"	"	"	0.6	0.6			
6732		"	"	"	"	1.2	0.4			
6743		"	"	"	"	1.1	0.4			
6754		"	"	"	"	0.9	0.5			
6776		削器	" C	34B	"	1.9	1.0	0.7	1.0	
6800	171	ナイフ形石器	真岩	"	"	9.2	2.9	0.8		
6804		細石刃核	黒曜石C	"	4	1.9	1.1	1.2	2.5	打面部破損
6809		細石刃	"	"	4下	1.1	0.5			
6820	135	細石刃核	"	"	"	2.2	1.8	1.3	5.5	
6826		細石刃	"	"	"	0.6	0.6			
6834		細石刃核	" C	34A	4	2.7	1.7	1.5	5.8	B型
6865		細石刃	"	36C	3(横転)	0.7	0.6			
6886		"	"	35C	4下	0.7	0.4			
6891		"	"	"	"	0.5	0.4			
6904	133	細石刃核	" C	"	"	2.0	1.3	0.8	2.6	
6905		細石刃	"	"	"	0.3	0.7			
6906		"	"	"	"	0.9	0.5			
6914		"	"	"	"	0.8	0.4			
6916		"	"	"	"	1.6	0.5			
6921		"	"	"	"	1.4	0.7			
6930		"	"	"	"	0.5	0.4			
6932		"	"	"	"	1.7	0.4			

第16表 Cユニット石器一覧表 (13)

遺物番号	図版番号	器 種	石 材	区	層	最大長(m)	最大幅	厚 さ	重量 g	備 考
6941		細石刃	黒曜石	36D	4下	0.9	0.6			
6950		"	"	37B	4	0.8	0.7			
6955		"	"	36B	"	0.9	0.5			
6980	140	細石刃核	" C	35B	4下	1.8	1.1	1.0	2.9	
6991		細石刃	"	"	3下	1.0	0.7			
6992		"	"	"	4	0.5	0.4			
6998		"	"	"	4下	0.2	0.4			
7030		"	"	"	"					
7194		"	"	34A	"	1.3	0.9			
7197		"	"	34B	"	1.4	0.5			
7199		"	"	"	"	1.1	0.6			
7211		細石刃核	"	"	3	2.2	1.3	1.1	3.7	打面部欠損
7218		細石刃	"	"	4上	1.4	0.8			
7241	177	削 器	"	36C	4下	3.1	2.1	1.1	5.8	
7250		細石刃	"	34C	"	0.7	0.3			
7267		"	"	"	"	1.0	0.4			
7271		細石刃核	" C	"	"	1.7	1.3	1.1	3.1	C型
7272		細石刃	"	"	3下	0.6	0.2			
7273		"	"	"	4下	1.0	0.5			
7274		"	"	"	"	1.3	0.9			
7368		"	"	36C	"	1.3	0.4			
7369		"	"	"	"	0.9	0.5			
7373		"	"	"	"	1.3	0.6			
7377		"	"	"	"	0.7	0.4			
7392		"	"	35C	"	0.6	0.8			
7429		"	"	34C	"	0.7	0.5			
7454		"	"	"	"	1.1	0.5			
7455		"	"	"	"	0.9	0.5			
7456		"	"	"	"	1.1	0.7			
7476		"	"	"	"	1.1	0.4			
7485		"	"	34A	"	0.9	0.5			
7506		"	"	34B	"	1.0	0.6			
7518		"	"	"	"	0.8	0.6			
7527		"	"	"	4	0.7	0.6			
7533		"	"	"	"	0.9	0.5			
7538		"	"	"	4下	0.9	0.4			
7545		"	"	"	"	1.6	0.6			
7551	143	細石刃核	" C	34C	3(横転)	2.3	1.5	1.1	3.9	
7553		細石刃	"	34D	"	1.5	0.6	1.3		
7563		プランク	" C	"	4	2.8	1.2	1.3	5.1	B型
7567		細石刃	"	"	3下	1.1	0.6			
7573		"	"	"	4	1.7	0.6			
7578		"	"	34C	4下	0.7	0.6			
7609		"	"	"	"	0.4	0.4			
7619		"	"	"	4上	1.7	0.3			
7628		"	"	"	4	1.0	0.4			
7631		削 器	チャート	"	"	2.9	2.2	0.5	1.7	
7653		細石刃	黒曜石	"	4下	0.7	0.6			
7654		"	"	"	4	0.8	0.4			
7684		"	"	34B	4下	0.4	0.5			
7690		"	"	34D	"	0.4	0.4			
7759		細石刃核	"	33B	3(横転)					
7777	122	"	"	"	4上					
7883		細石刃	"	33E	3(横転)	0.8	0.3			
7884		プランク	"	"	"	2.0	1.1	0.9	2.6	D型
7885		細石刃	"	"	"	1.4	0.5			
7886		細石刃核	" C	"	"	2.4	2.0	1.5	5.9	C型
7896	154	"	" C	"	"	2.7	1.7	1.1	5.0	
7900		"	"	"	"	1.4				



第17表 Cユニット石器一覧表 (14)

遺物番号	図版番号	器種	石材	区	層	最大長(cm)	最大幅	厚さ	重量g	備考
7902		細石刃核	黒曜石C	34E	4	2.3	1.6	1.0	4.3	B型
7903		細石刃	"	"	"	1.0	0.3			
7904		"	"	"	"	0.8	0.5			
7908		"	"	"	"	0.9	0.5			
7919		細石刃核	" C	"	4上	1.9	1.5			
7925		細石刃	"	"	4	1.0	0.4			
7950		"	" C	34C	4下	1.3	0.4			
7965		"	" B	"	4	0.4	0.5			
7966		"	" C	"	"	0.7	0.6			
7972		"	" C	"	4下	1.3	0.7			
7974		"	" C	"	"	0.9	0.5			
7982		"	" C	"	"	1.3	0.4			
7988		"	" D	"	"	1.6	0.4			
7996		"	" C	"	"	1.1	0.5			
8000		"	" C	"	"	0.6	0.5			
8007		"	" C	"	"	0.9	0.6			
8031		細石刃核	" C	34D	"					C型
8086		細石刃	" C	34A	"	0.7	0.7	0.6		
8107		細石刃核	"	35D	"					D型 下縁調整
8118		細石刃	"	"	3(攪乱)	1.2	1.2	0.6		
8134	136	細石刃核	"	"	4下	1.7	1.2	1.4	2.7	
8136		細石刃	" E	"	"	0.7	0.4			
8138		"	"	"	"	0.9	0.4			
8143		"	"	"	"	1.7	0.5			
8158	164	尖頭器	" A	35C	3(攪乱)	5.8	3.2	2.0		
8167		細石刃	"	"	4下	1.6	0.5			
8184		"	"	"	"	1.2	0.7			
8185		"	"	"	"	0.7	0.6			
8194		"	"	"	"	0.9	0.5			
8214		"	"	"	"	1.3	0.6			
8231		"	" C	34C	"	0.7	0.4			
8236		"	" C	"	"	1.0	0.4			
8250		"	" C	"	"	0.8	0.3			
8261		"	"	"	"	0.6	0.5			
8273		"	" C	"	"	0.8	0.6			
8275		"	" C	"	"	1.2	0.5			
8291		"	" C	"	"	0.8	0.6			
8295		"	" C	"	"	1.3	0.6			
8306		"	" C	"	"	0.6	0.3			
8309		"	" C	"	"	0.7	0.5			
8311		"	" C	"	"	1.1	0.5			
8320		"	" C	"	"	1.1	0.5			
8333		"	" C	"	"	0.9	0.8			
8336		剥片	頁岩	"	"	3.8	1.6	0.5		
8337		細石刃	黒曜石	"	"	1.2	0.6			
8350		"	"	"	"	0.8	0.3			
8360		"	" C	"	"	1.0	0.4			
8407		"	" B	"	"	1.0	0.6			
8430		"	" C	"	"	1.0	0.5			
8434		"	" C	"	"	1.1	0.6			
8450		"	" C	"	"	1.2	0.3			
8456		"	"	34D	"	1.2	0.5			
8488		"	"	33B	3(攪乱)	1.1	0.7			

## 第5節 小結

2次調査において、成岡遺跡に旧石器時代の遺物が出土することが判明し、今回調査地域を全面に拡げて確認した結果、三ヶ所の遺物集中個所（ユニット）を検出した。ユニットごとに若干まとめ、また細石刃核の分類についてふれたい。

### Aユニット

14～16, J～L区の約200㎡の範囲に225点が散在して検出された。石器は、細石刃・細石刃核・ナイフ形石器・尖頭器が出土している。出土層位はN層～V層上部にかけてであり、散布状況であるため一時期としてとらえるのには若干問題がある。切出し型のナイフ形石器はV層上部の出土である。

### Bユニット

27～31, F～J区の約600㎡の範囲に425点が散在して検出された。石器は、細石刃・細石刃核・剥片尖頭器・ナイフ形石器・石核が出土している。出土層位はN層中である。散在ではあるが、ユニット内でまた3ヶ所の半径10m程の集中個所がみられる。この3ヶ所の集中は同時期とみなし剥片尖頭器と細石器が共伴する事実をつかんだ。また前回の調査においては加治屋園タイプの細石刃核が出土していて共伴関係がより複雑な様相をしめしている。

### Cユニット

32～37, A～F区の約700㎡の範囲に6,921点が集中して検出された。石器は、細石刃・細石刃核・ナイフ形石器・削器・尖頭器が出土している。出土層位は第13図のようにN層に集中してみられた。また平面分布も第11図のように34C区を中心として出土し、細石刃・細石刃核も集中がみられる。このことから、Cユニットの遺物は全て同時期と判断され、成岡遺跡においては、細石器とナイフ形石器・尖頭器が共伴することがみられた。

### 細石刃核

成岡遺跡で検出された多量の細石刃核の特徴は次のようなものであった。

- ①使用される石材は黒曜石C類とした上手鼻産のものが主体を占め、その他に黒曜石A・B・D、鉄石英・頁岩等があり、他に凝灰岩も前回の調査では確認されている。
- ②細石刃核は小型のものが多く。
- ③礫の表皮である自然面が残っているものが多く。
- ④破損品が多く、また、細石刃剥離面は階段状になって剥離が困難になったものが多く。

これらの特徴は石材に起因すると思われる。すなわち、本遺跡より最も近距離に存在する上手鼻産を原産地とする黒曜石C類が量的に多いのは容易に理解されることである。また、使用されるものは川原島に転石として存在する小円礫と考えられ、これを利用するために、細石刃核の一部に礫の自然面を残す結果になると思われ、かつ、小型のものが多くと判断されよう。そして、細石刃剥離面が階段状になっているのも、この石材が多いようである。

今回出土した細石刃核は、使用される素材の利用方法・成形・調整方法等によって4類に大別でき、さらに7類に細分が可能であった。それは以下に述るとおりである。第28図にはその

模式図を示した。

**A類**……円柱状の形態を呈する。細石刃の剥離面は円周の半分以上に及んでいる。円礫の一端を加撃して打面をつくり、その面より整形を行う。

**B-1類**……厚手の剥片あるいは礫を半割したものを素材とし、その時得られた平坦面を打面にする。側面は、打面から行われる調整剥離によって成形される。細石刃剥離に先だって打面調整は行われない。舟底状の形態を呈する。

**B-2類**……剥片が素材とされ、平坦な打面から行われる側面調整剥離は、両側面あるいは片側のみ行われる。打面調整は行われる。

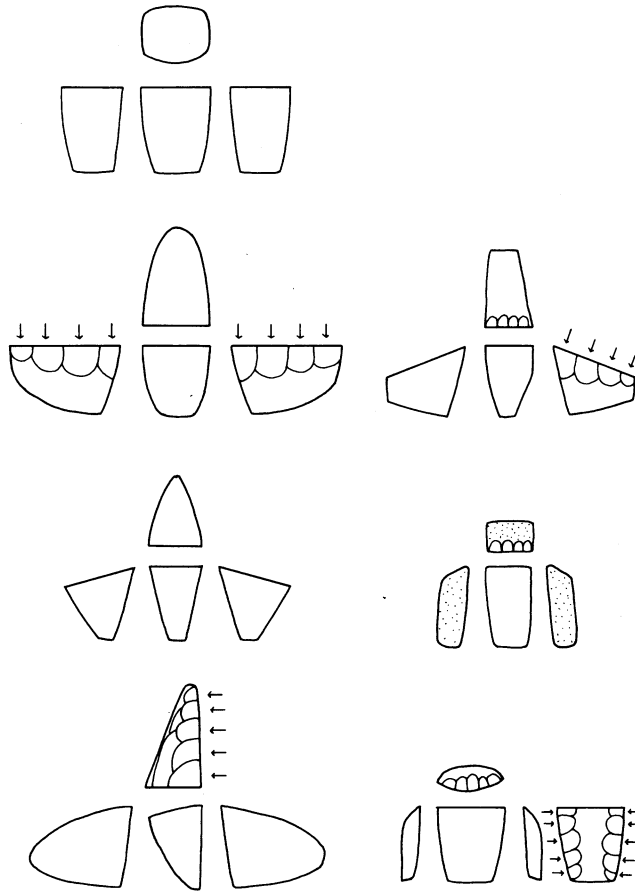
**C-1類**……不定形な剥片を素材とし、剥片の平坦面は片側面

として利用されている。打面は荒割されて得られる。打面調整を行うものが多い。使用される剥片の形状に起因して角錐状・板状・舟底状など様々な形態が見られる。

**C-2類**……小型の円礫を荒割したものを素材にするものと、極めて小さな円礫・角礫をそのまま素材にしたものがある。この極めて小さい円礫は、荒割して大きさが結定されたものと同等にみなすことができると考えられて、同じ部類に入れてある。打面調整は行なうものと、そうでないものがある。

**D-1類**……剥片が素材として利用され、剥片の平坦面が両側面とされる。細石刃剥離面と直行する下縁があり、その下縁と尾縁は調整されたものもある。すなわち素材の剥片は、その形状によって、そのまま利用されるものと、周囲からの剥離によって調整を施されるものがあり、一定のかたちを整えられる。打面は側面からの連続した剥離によって形成される。舟底状の形態を呈する。

**D-2類**……残存形態は、細石刃剥離面とほぼ平行する背面があり、その背面は側面方向からの剥離によって調整される。打面は後方に傾斜しており、打面調整は顕著に行われる。D-1類とは異なり、尾縁はない。したがって、D-1類の細石刃剥離が極度に進行したものとは思われない。これも、剥片等の素材をそのまま使用したものでなく、調整剥離を行うことによ



第28図 細石刃核模式図

て、一定のかたちをした、母核の存在を予想することができるのではなからうかと思われる。

また、前回の調査では加治屋遺跡で多く出土した凝灰岩の板状の礫を分割した、加治屋園タイプも出土している。

本遺跡出土の細石刃核を、他の遺跡で出土したものと比較してみたい。

細石刃核A類は、いわゆる円柱型を呈し、野岳タイプと呼ばれるものに近い。B-1類は打面から行なわれる側面調整剥離の特徴から、宮崎県船野遺跡から出土し、また広く東九州にみられる船野タイプに類似する。船野遺跡のものは、大型・幅広であるが、本遺跡出土のものはさほどでない。それは使用される石材が、東九州に於いては無斑昌流文岩であるのに対し、本遺跡のものは黒曜石C類という、石材に起因するものと考えられる。本遺跡出土品と同じような特徴をもつものは鹿児島市加栗山遺跡及び加治屋園遺跡で出土している。B-2類は加栗山遺跡で多く出土している。また、加治屋園遺跡や、溝辺町石峰遺跡でも出土している。C-1類は大州内で広く分布している野岳・休場タイプと思われるもので、県内では先のが栗山・加治屋園・石峰の各遺跡のほか、出水市上場遺跡3層でも出土している。C-2類のなかでも黒曜石の極めて小さい円・角礫を利用したものは、上場3層・船野II文化層・石峰・加栗山の各遺跡で検出されている。D-1類は福井II・IIIや泉福寺遺跡など、西北九州で出土している福井タイプに特徴が類似する。西北九州出土のものは、円形に近いもの、あるいは半円形の素材の周辺に鱗状剥離と呼ばれる調整を行い、細石核母体をつくとされている。本遺跡のものは周辺の調整剥離を行ったものもあるが、剥片の形状をそのまま利用したものもある。しかし連続した横打剥離によって打面を形成するという特徴は類似しており、これにより福井タイプと同じ製作技術体系に属すると思われる。

成岡遺跡で検出した細石刃核は、船野タイプ、野岳・休場タイプ、加治屋園タイプ、それに加栗山遺跡に多いB-1類、またD-2類が共伴して出土するという特異なありかたを示している。

#### 〈参考文献〉

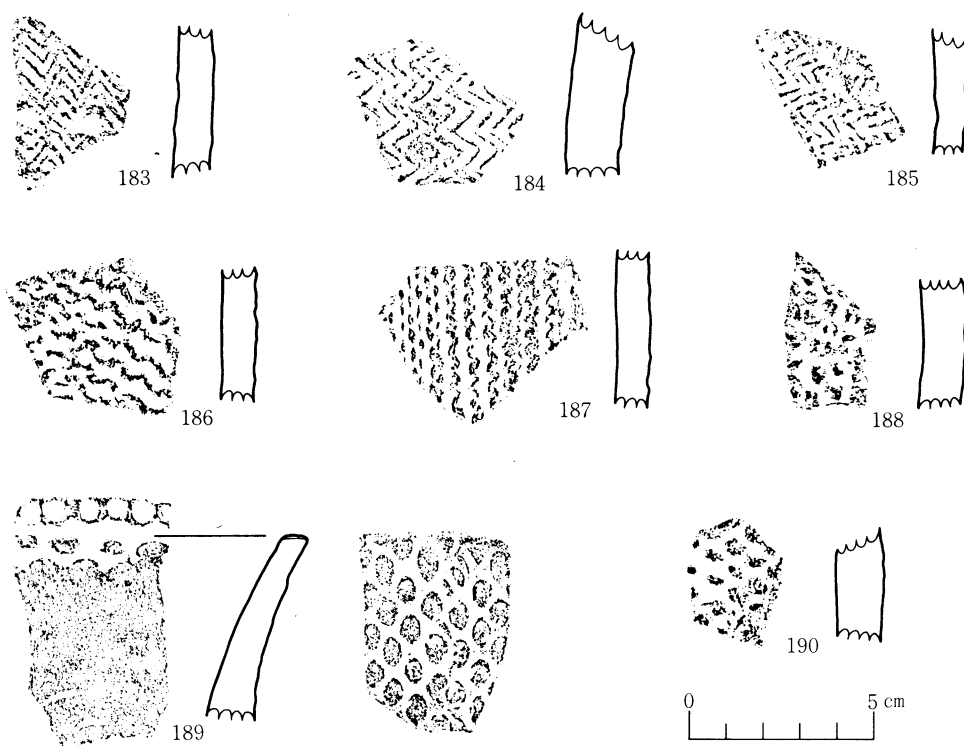
- 鈴木忠司「野岳遺跡の細石核と西南日本における細石刃文化」古代文化23巻8号 1971  
橋昌信「宮崎県船野遺跡における細石器文化」考古学論叢3 1975  
池水寛治「鹿児島県出水市上場遺跡」考古学集刊第3巻4号 1967  
鹿児島県教育委員会「加治屋園遺跡・木の迫遺跡」鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書14 1981  
鹿児島県教育委員会「石峰遺跡」鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書12 1980  
鹿児島県教育委員会「加栗山遺跡・神の木山遺跡」鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書16 1981  
橋昌信「九州における細石器文化」考古学論叢1 1973  
鎌木義昌・芹沢長介「長崎県福井岩陰」考古学集刊第3巻1号 1965  
麻生優・白石浩之「百花台遺跡」日本の旧石器文化3 1976  
木下修「門田遺跡」日本の旧石器文化3 1976  
麻生優編『泉福寺洞穴の発掘記録』佐世保市教育委員会 1984  
杉原荘介・小野真一「静岡県休場遺跡における細石器文化」考古学集刊3-2 1965  
戸沢充則「矢出川遺跡」考古学集刊2-3 1964  
小畑弘己「九州の細石器文化」物質文化41 1983

## 第6章 縄文時代

縄文時代は、早期・晩期の2時期の遺物が出土した。

### 第1節 早期

早期の土器は、山形、楕円形の押型文土器である。179～181は、26～28 A～C区に出土したもので山形押型文を横位に施している。胎土は石英・長石を含み、焼成は良い。色調は赤褐色である。182・183は、36 A・B区3層から出土した波状の山形押型文土器である。胎土は石英・長石を含み、焼成は良く、色調は明褐色である。184は、楕円押型文の外反する口縁部である。口唇部には押圧刻目文を、外面には楕円押型を施し、内面にはやはり楕円押型文を一条施している。胎土は石英・長石を含み焼成は良い。185・186も同じく楕円押型文である。27～30 B・C区に出土したものである。

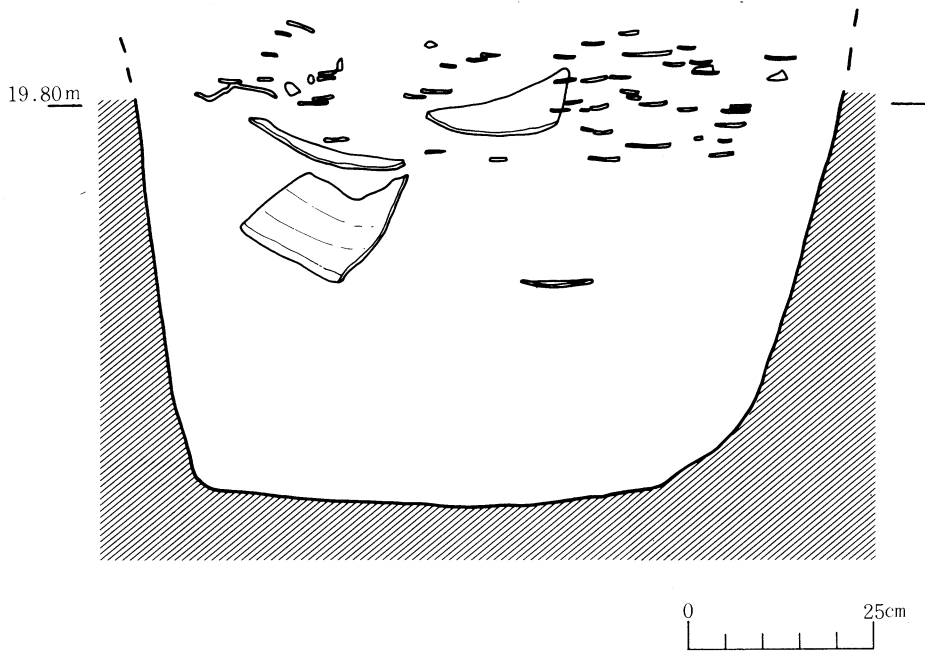
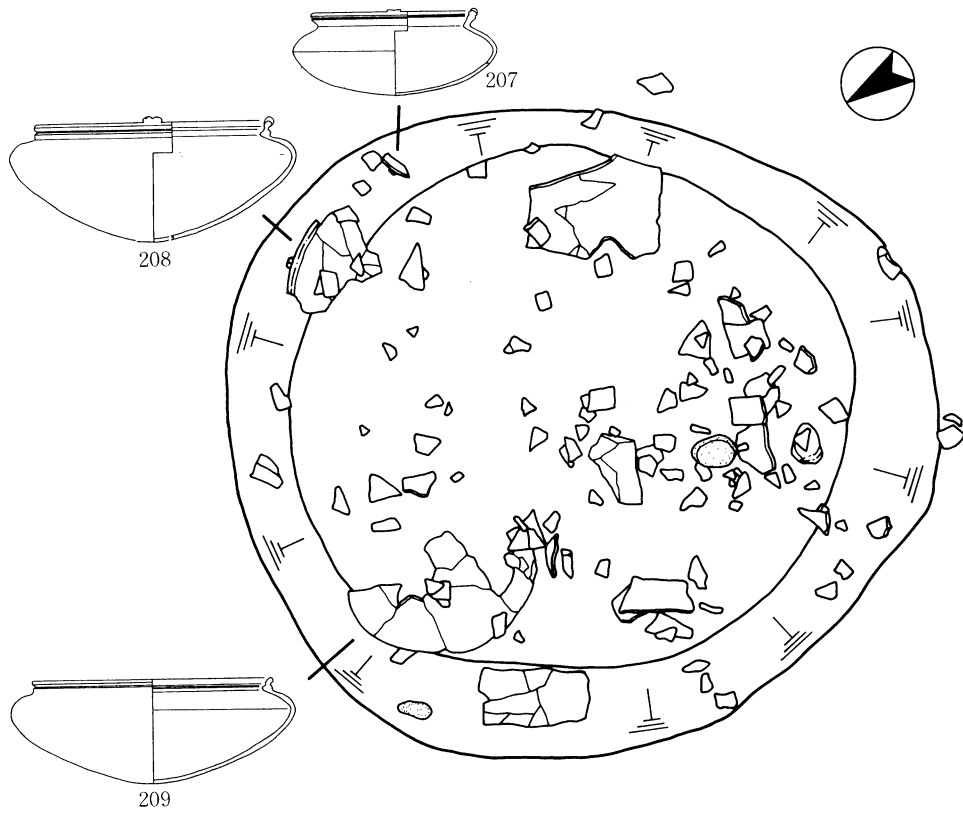


第29図 押型文土器

### 第2節 晩期

#### 1. 遺構

30 C区で縄文晩期の土壇が検出された。長径は98cm，短径は88cmを測り，やや楕円形を呈する土壇である。深さは135cmを測るが，古墳時代遺構検出の際削平されているのでまだ深かったものと思われる。土器は土壇底部でなく埋土の上部から出土している。



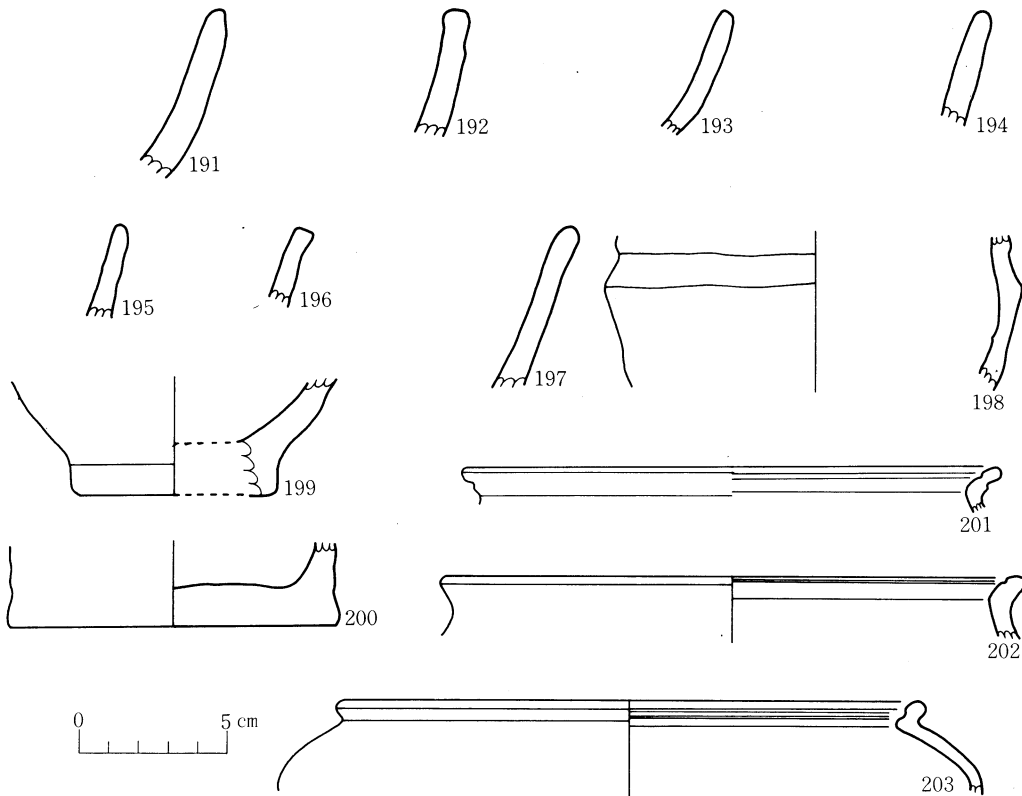
第30図 土 坑

## 2. 遺物 (191~210)

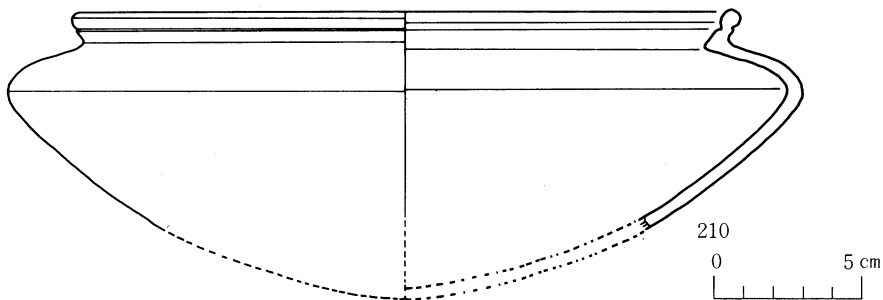
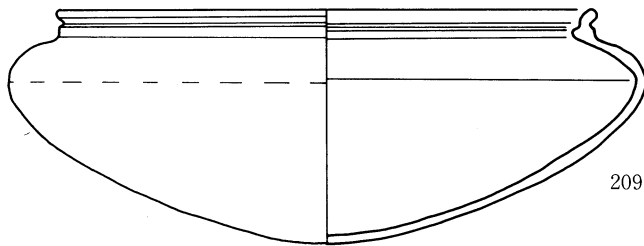
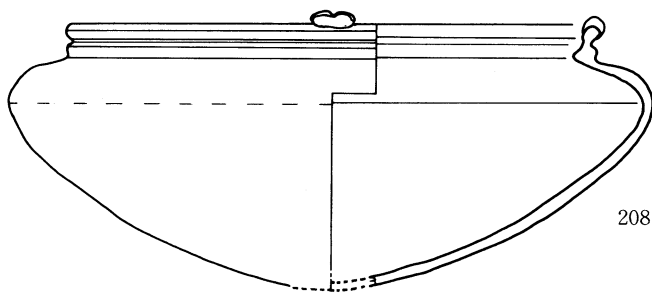
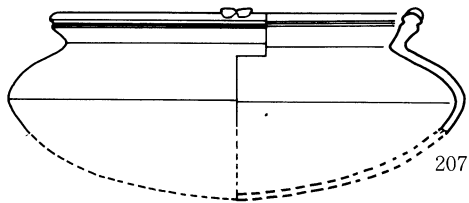
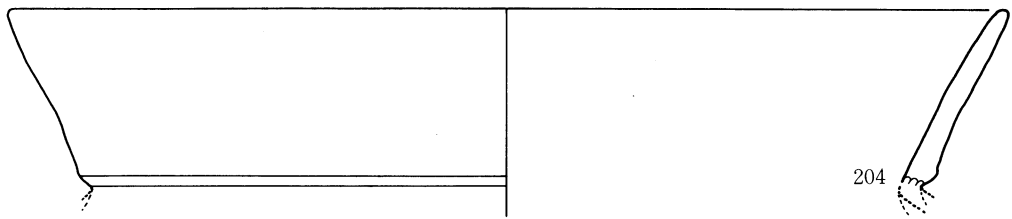
### 縄文晩期の土器 (黒川期の土器)

191~196は甕形土器の口縁部である。器形としては口縁部が外反するものであるが191~193は内曲している。器面は条痕がみられ、焼成は良い。198は甕形土器の頸部から胴部にかけてのもので「く」字状に折れている。肩部および胴部は直線的な器形をもち、頸部から肩部の長さが短い。199・200は底部である。共に平底であるが199は鉢類、200は甕形土器の底部と考えられる。198~200は焼成も良く、色調は茶褐色を呈す。201~203は浅鉢の土器である。黒色研磨土器で胎土は細砂的で焼成は良い。201・203は口縁部が断面玉縁を呈するが、202のように内側に沈線を施す程度である。肩部は丸味をもち張る。口径は201が16.5cm, 202, 203が20cmである。

204~210は土壇内より出土した土器で一括土器として考えて良い。204~206は甕形土器で口縁部が「く」字状に外向する。204は口径34cmの甕形土器で頸部で段がつき「く」字状になる。器面は条痕がみられ、胎土は細礫を含む。色調は暗茶褐色を呈す。207~210は黒色研磨土器の浅鉢である。口縁部は207・208に丸味をもつ鱗状突起をもちすべて断面玉縁口縁で内外面に沈線を施し頸部までが短く「く」字形を呈す。頸部から肩部は張りが強く丸味を示す。底部は若干尖気味の丸味をもつ。口径は13.2, 17.3, 18.2, 22.7cmで209の器高は8cmである。

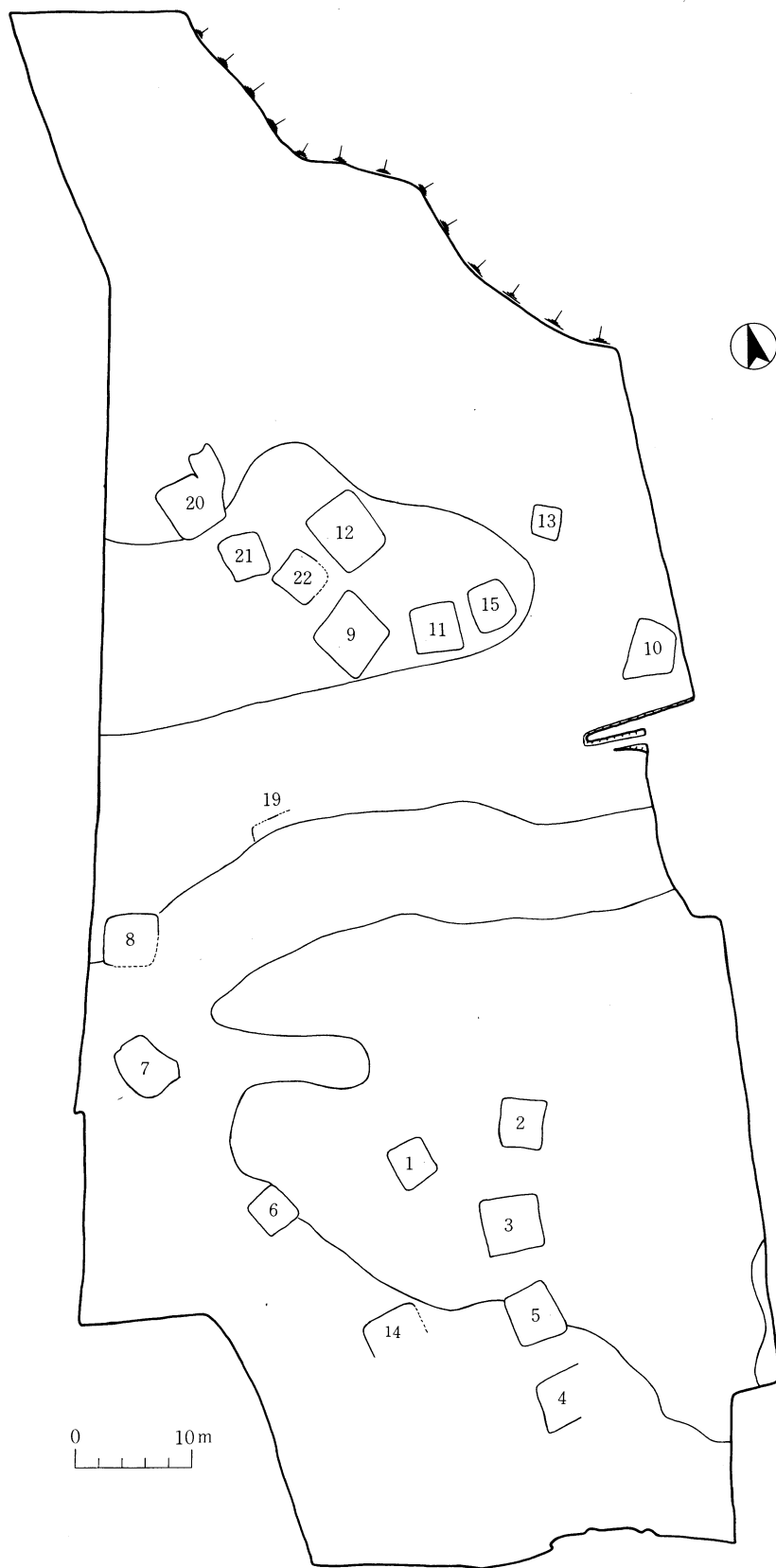


第31図 晩期の土器



第32図 土坑出土の遺物





第33図 古墳時代の遺構配置図

## 第7章 古墳時代

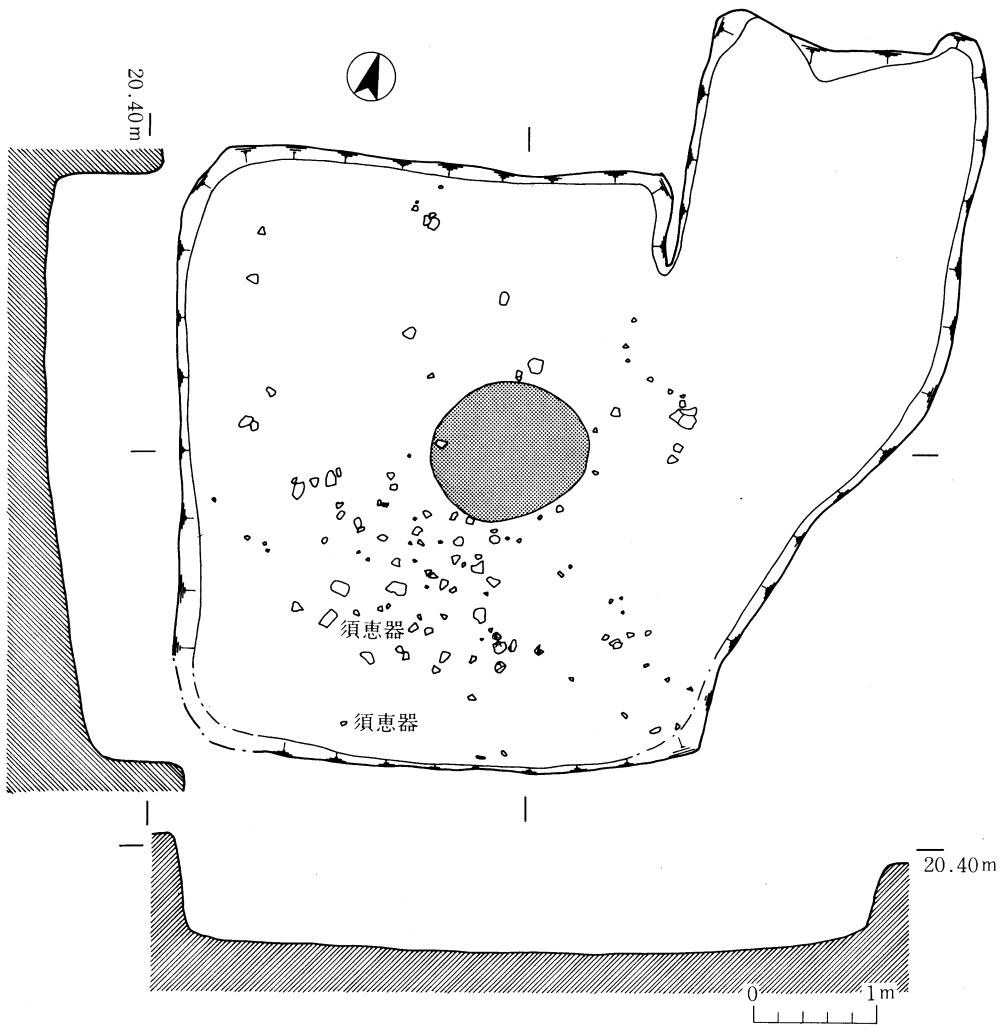
古墳時代には台地一帯で集落が営まれており、今回の調査で、3軒の竪穴住居跡が検出され2次調査の結果と合わせると、19軒の竪穴住居跡と土壇1が検出されたことになる。

遺物の多くは住居跡内から出土しているが、他に周辺からも土師器・須恵器等が出土している。

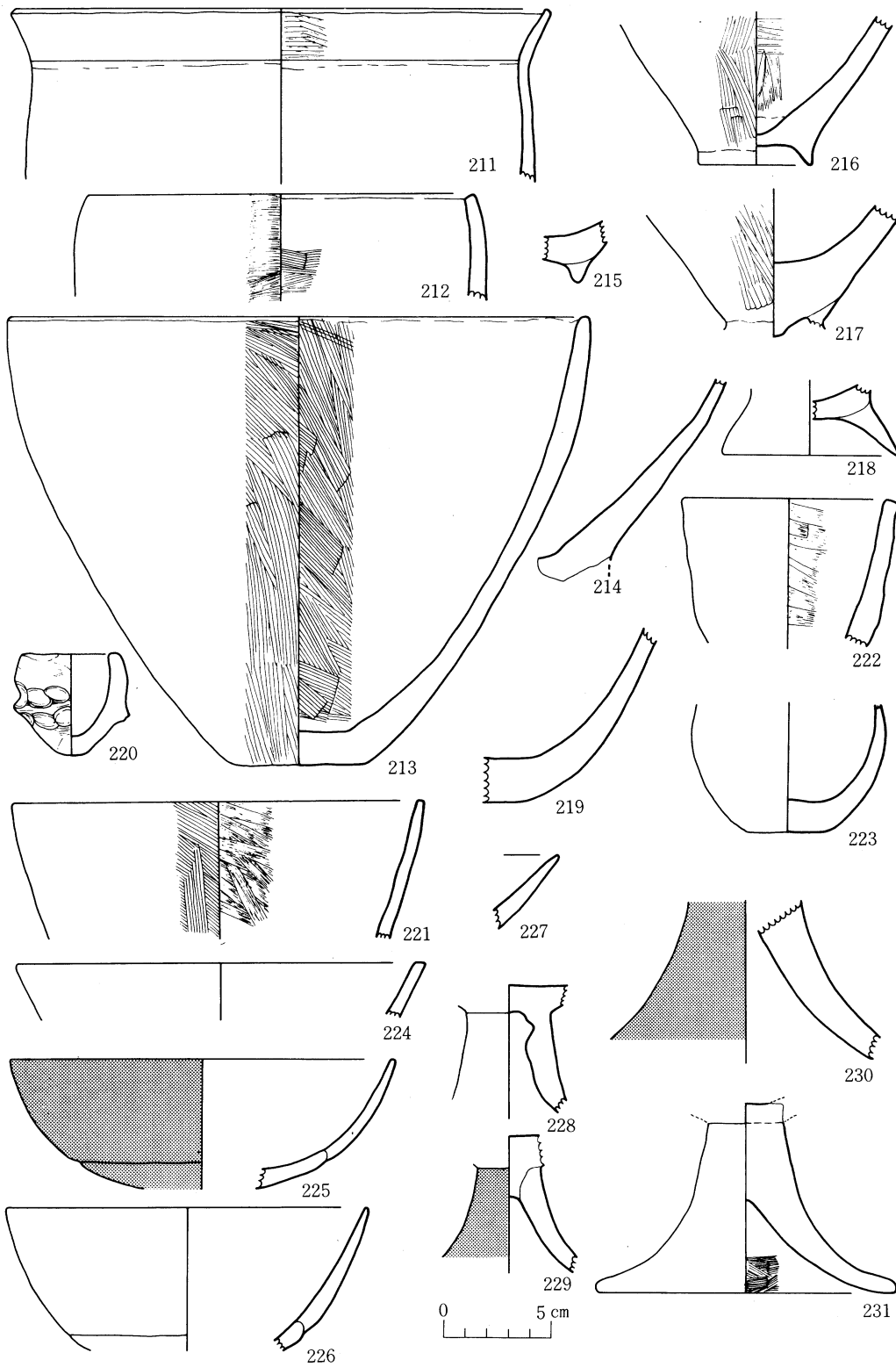
### 第1節 竪穴住居跡

#### 20号住居跡

20号住居跡は、30・31-B・C区につくられた4.9 m×4.0 mのやや南北方向に長い方形住居跡で、東側に4.0 m×2.4 mの南側は斜であるが、ほぼ方形の竪穴住居跡で付随するもので

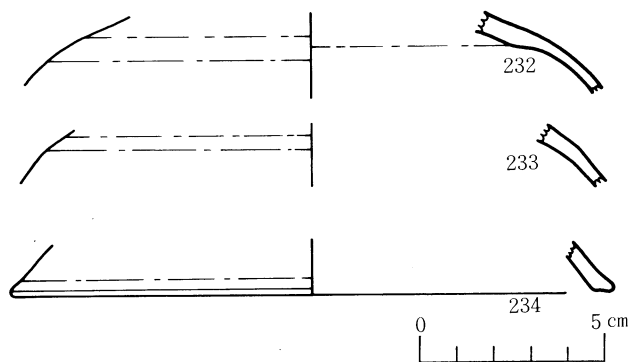


策34図 20号住居跡



第35图 20号住居跡出土土器

ある。東側住居跡は当初、別の方形住居跡と考えたが、検出面から床面までの深さは同一であり、不定形ではあるが、突出部をもつ住居跡としてとらえた。検出面からの深さは、60~80cmを測る。主軸方向はN17度Wである。ほぼ中央の1.3m×1.1mの範囲に炭・灰などが約10cmの厚さで堆積している。



内部の床面では柱穴は検出出来なかった。

第36図 20号住居跡出土須恵器

出土遺物は、土師器の甕形土器・壺形土器・鉢形土器・高坏・埴形土器および須恵器の坏蓋である。

207~214は甕形土器で、209は完形品である。口縁直径27cm、底部直径6cm、高さ21cmを測り、内弯する口縁部をもち、底部は平底である。外面・内面ともななめ方向の荒いハケナデである。207はくの字状に外反する口縁で、内面の整形は横方向のヘラナデである。208は内弯する口縁部をもつ内外面とも横位方向のハケナデである。210~214は甕形土器の底部である。212、213は浅い脚台が貼り付けられ内面はハケナデである。214はやや深い脚台である。215は壺形土器の底部で平底である。216~218は鉢形土器であり、216は手づくね風のもので甕形土器を模倣したと思われる。底部が丸底気味で、肩部から口縁部にかけてやや内弯し、胴部につまみ出しによる突帯をめぐらしている。223は埴形土器で口縁部を欠落しているが、やや内弯する口縁をもつ胴部と思われる平底である。高坏(224~231)は、埴形の器形をした坏部と、裾部と筒部の境がはっきりしない脚部からなる。225は、坏部の口縁直径18cm、深さ5cmを測る。底部と立ちあがりの境に凹線がめぐる。坏部は脚部を巻くようにして接合される。外面はていねいなヘラ調整を施す。丹塗り土器である。226も坏部で、口縁直径17cm、深さ6cmを測る。外面はヘラ調整を施す。228~231は脚部である。坏部との接合は脚部の上に坏部をのせてくっつけるもの(228・230・231)と229のようにくっつけて芯の部分に棒状のものを押し込むものがある。外面はていねいなヘラ調整を施す。229・230は丹塗り土器である。

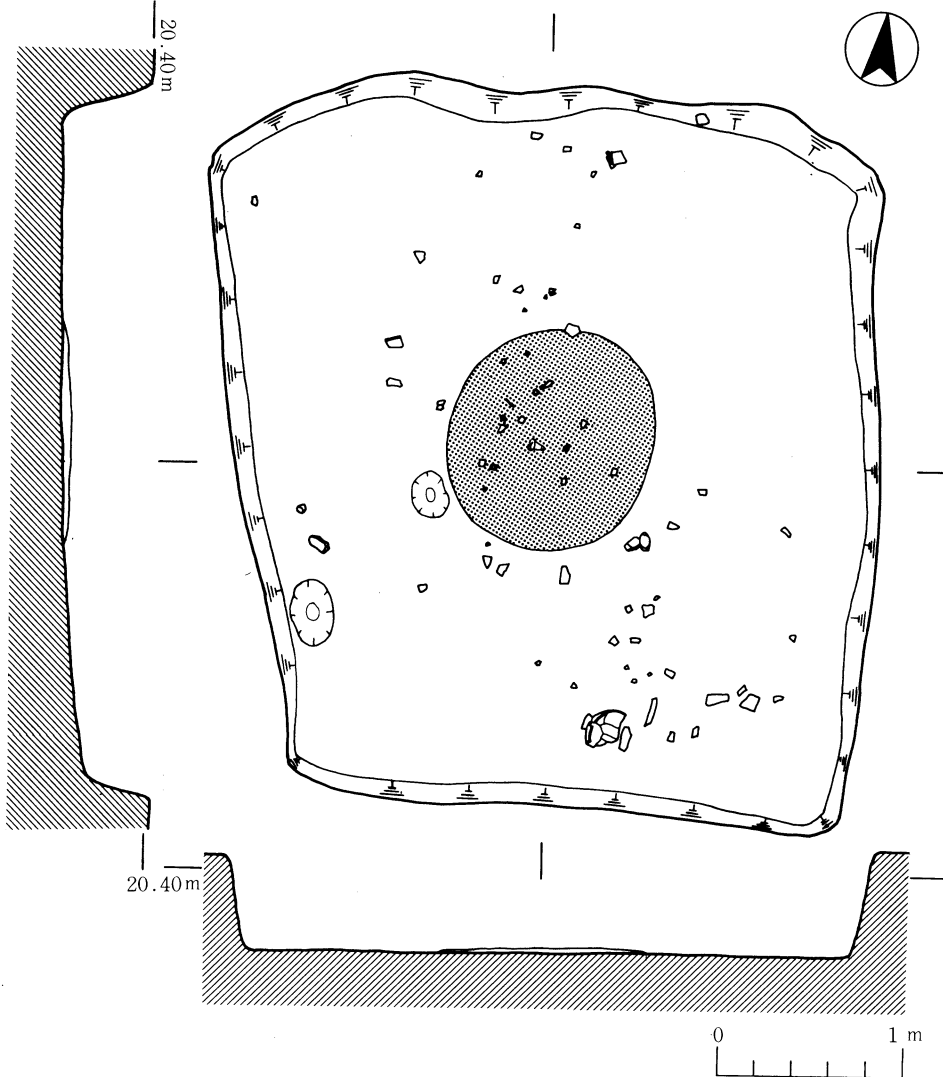
須恵器(232~234)は、南側の床面から出土したもので3点とも坏蓋である。232と233は同一個体の可能性もある。0.1mm~2mm大の石英など白色石粒を含む土を用い、焼成良好である。内外面とも青灰色を呈している。

## 21号住居跡

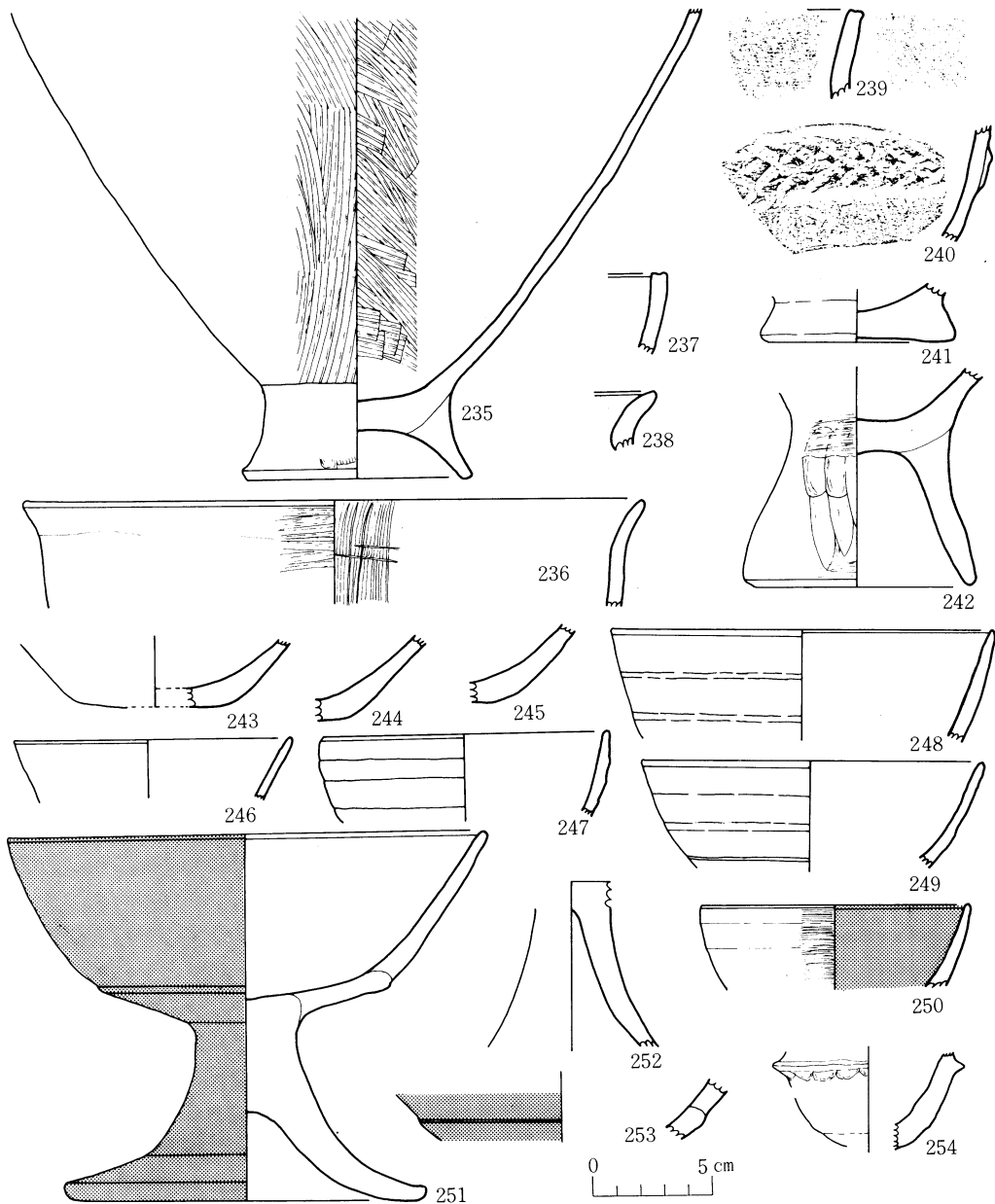
21号住居跡は、29-C・D区につくられた3.9m×3.5mの南北方向に長い方形住居跡で、検出面からの深さは40~50cmを測る。主軸方向はN 8度Wである。ほぼ中央の1.2m×1.1mの範囲に炭・灰などが約10cmの厚さで堆積している。内部に柱穴を2個検出したが、主柱穴は確認出来なかった。

出土遺物は、土師器の甕形土器・壺形土器・鉢形土器・高坏である。

235~242は甕形土器である。235は、口縁を若干欠落したもので、底部直往9.5cmを測る浅い脚台をもつものである。外面は斜めから縦方向のハケナデで、内面は斜めハケナデである。236は口縁部がゆるやかに外反する器形で、口縁直径は約26cmを測る。外面は横方向、内面は縦方向のハケナデである。237はやや内弯しながら直行する口縁である。239も同様である。



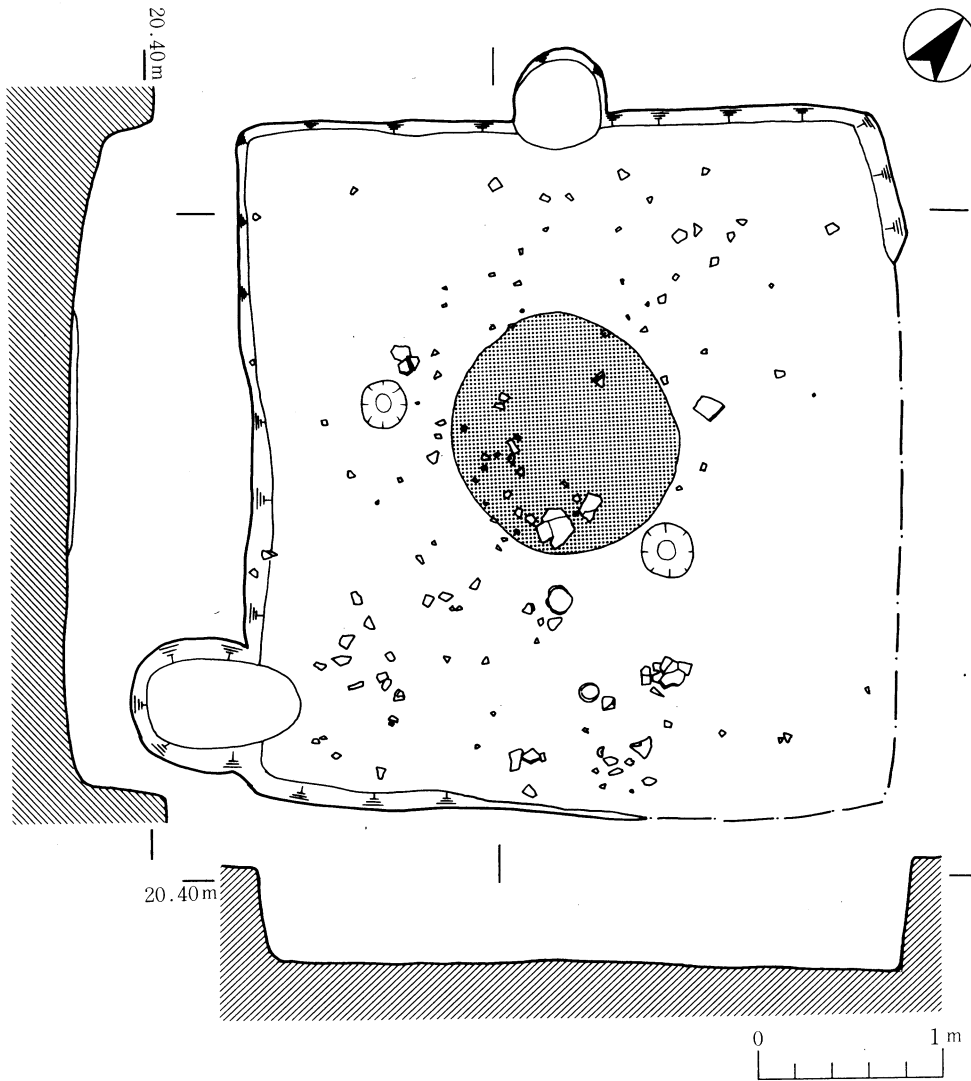
第37図 21号住居跡



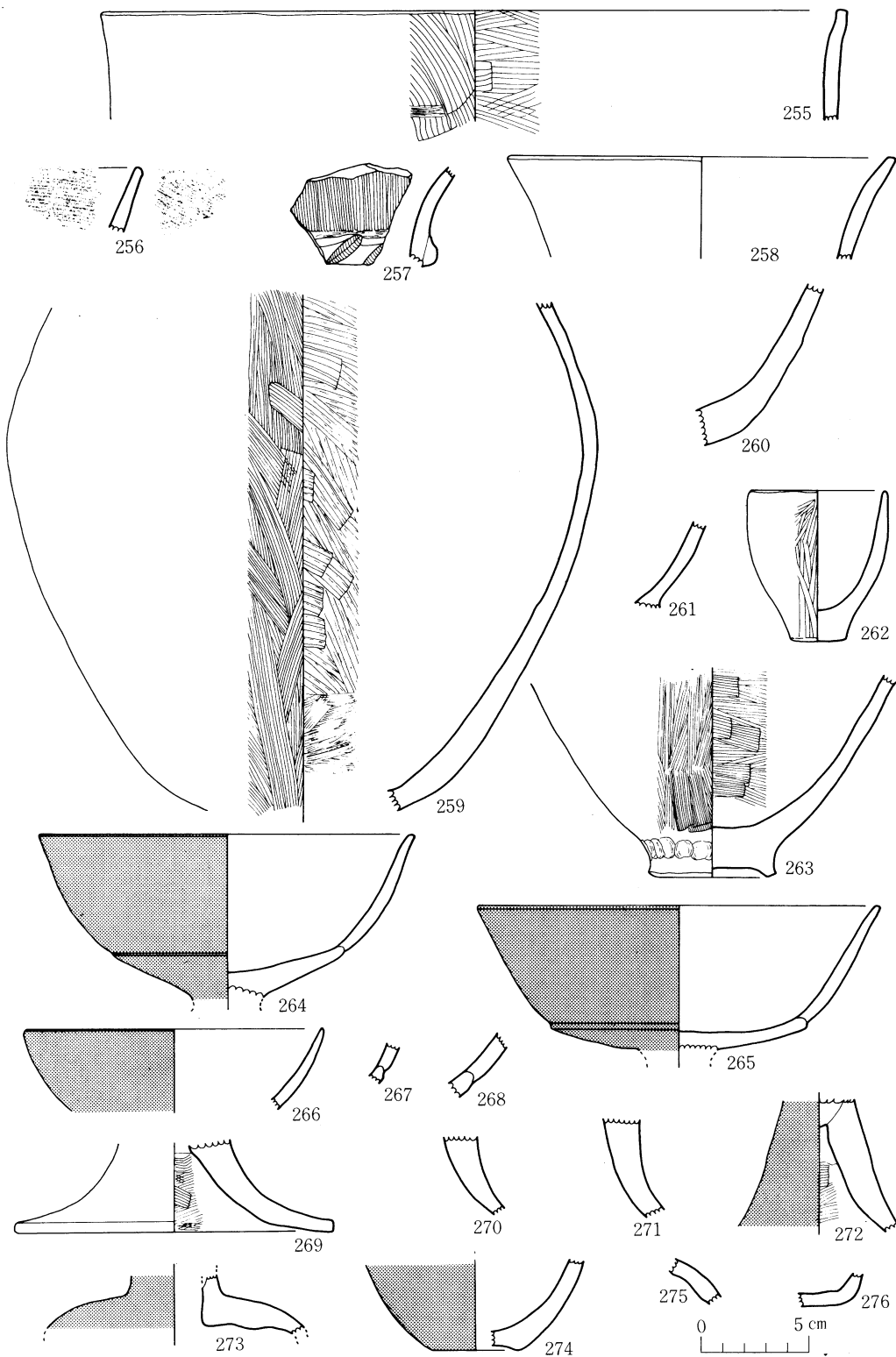
第38図 21号住居跡出土土器

240は、口縁部に右下がり、左下がりの刻みを交互に施した断面半円形の突帯が貼り付けられている。241・242は甕形土器の底部で、平底と深い脚である。242は、外面はハケナデ、内面はヘラナデである。243～245は、安定した平底の壺形土器である。243～254は鉢形土器である。246は口縁内径15cmを測る口縁はまっすぐ立ちあがるものである。外はヘラたてナデ、内はていねいなヘラ横ナデである。247～249は口縁直径が、それぞれ12cm、16cm、14.2cmを測る内湾ぎみの口縁をもつものである。内・外面ともていねいなハケナデである。250は、口縁

直径11cmを測るやや内湾する内赤土器である。内・外面ともいねいなハケナデで、内面には丹が塗られている。251～253は高坏である。251は塊形の器形をした坏部と、裾部と筒部の境がはっきりしない脚部からなる完形品である。坏部の口縁直径20cm、坏部深さ7cm、坏部高さ7.8cm、裾部直径15cm、脚部高さ7.5cm、全体高15.4cmを測る。底部と立ちあがりの境に凹線がめぐる。坏部は脚部を巻くようにして接合される。外面はていねいなヘラ調整を施す。丹塗り土器である。252は脚部で251同様坏部との接合は脚部の上に坏部をのせてくっつけるものである。253は丹塗りの坏部である。254は、手づくね風のもので甕形土器を模倣したものである。底部はやや丸味をおび、胴部に断面三角形の貼り付け突帯をめぐらしている。突帯の下面にはつまみ出しによるくぼみがみられる。



第39図 22号住居跡



第40图 22号住居跡出土土器

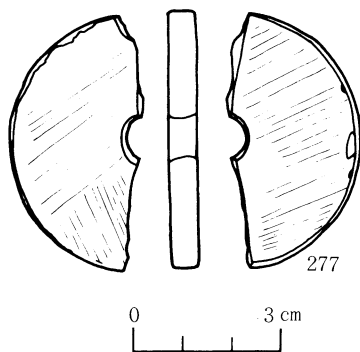


## 22号住居跡

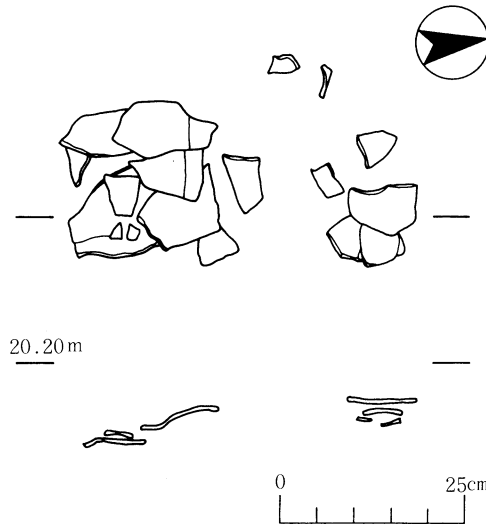
22号住居跡は、29・30-D・E区につくられた3.8m×3.5mのほぼ南北に長い方形住居跡で、検出面からの深さは0～60cmを測る。主軸方向はN39度Wである。ほぼ中央の1.3m×1.2mの範囲に炭・灰などが約10cmの厚さで堆積している。内部に柱穴を2個検出したが、主柱穴は確認できなかった。

出土遺物は、甕形土器・壺形土器・鉢形土器・高坏・紡錘車である。

255～257は甕形土器である。255は口縁直径35cmを測り、やや外反する甕形土器で、内外面ともハケナデで仕上げている。258～260は壺形土器である。258は口縁直径18cmで外反す

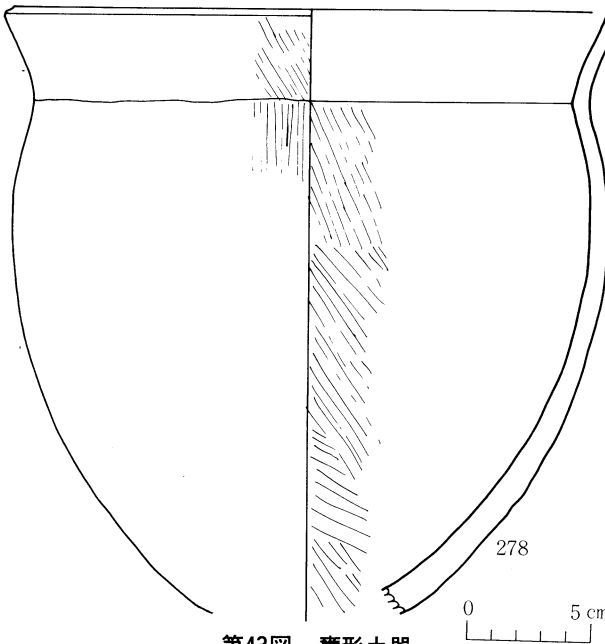


第41図 22号住居跡出土紡錘車

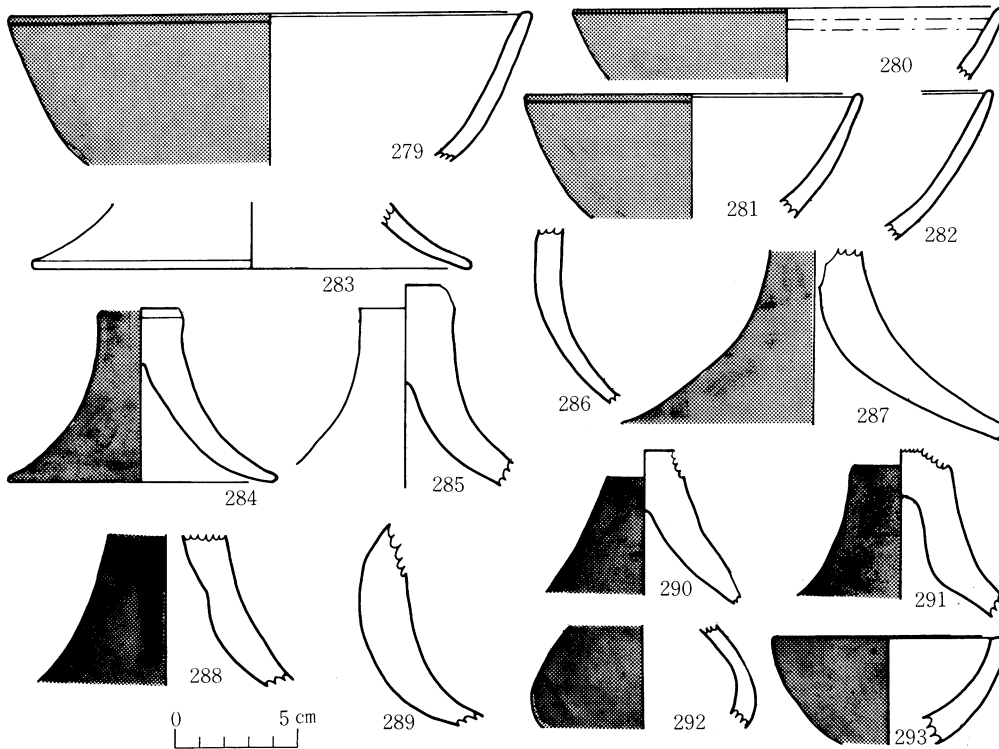


第42図 土器出土状況

る。259は内外面ともハケナデで仕上げた胴部で260は平の底部である。261～263は鉢形土器である。口縁直径6.2cm、高さ7.1cmのまっすぐ立ちあがる口縁をもつ小形鉢形土器の完形品である。263は低い脚台が付く外面はていねいな縦方向ハケナデ、内面は横方向のへラナデの鉢形土器である。264～272は高坏である。口縁直径14～18.5cm、坏部深さ6～6.4cmの丹塗りした塊形の器形をした坏部と、裾部と筒部のはっきりしない脚部からなる高坏である。丹塗り土器(264～269・272)もあ



第43図 甕形土器



第44図 高坏, 埴

る。273～276は埴形土器である。273は頸部が直立している埴形土器で口縁は外へ折れると思われる。外面はヘラミガキのあと丹塗り, 内面はていねいなヘラナデである。277は, 半分欠落しているが紡錘車である。砂岩を石材に用い研磨によって作り出したもので研磨痕がみられる。直径5.2cm, 厚さ0.6cmで中央に約0.9cmの穿孔を有す。

278は, 30B区の溝状遺構横から出土したもので, 口縁直径25cmを測る「く」の字状に外反する口縁部で, 丸みをもつ長胴形を呈する。外面・内面ともななめ方向のハケナデで仕上げ, 器壁がうすい。

高坏(279～291)は, 埴形の器形をした坏部と, 裾部と筒部がはっきりしない脚部からなる。丹塗りのものと, 丹の塗られないものがある。坏部は口縁直径17.5～21cmを測る。坏部の整形は, 内外面ともていねいなヘラミガキである。そのあと外面と内面口縁に丹が塗られている。283～291は脚部である。坏部との接合は脚部の上に坏部をのせてくっつけるものと, 287・288のように芯の部分に棒状のものを押し込むものがある。外面はていねいなヘラ調整を施す。284・287・288・290・291は丹塗り土器である。292・293は埴形土器で, 293は口縁直径9.6cmとやや大きく内弯する口縁である。292は胴部の張り出したもので, ともに丹塗り土器である。

## 第5節 小結

今回の調査によって、竪穴住居跡3基が新たに発見され、成岡遺跡の古墳時代の遺構は、竪穴住居跡19、土壇1となった。

竪穴住居跡は、ほとんど方形プランをし、ほぼ中央部に灰・炭が堆積しており、焼土があることから、中央炉の存在が予想できる。どの住居跡も支柱穴は確認できなかった。床面には完形品などがあり、住居廃棄時のものと思われるが、4号住居跡のように、埋土中に多量の土器が投げこまれた状態で出土していることから、住居埋没までの土器廃棄場として使われたことが予想される。

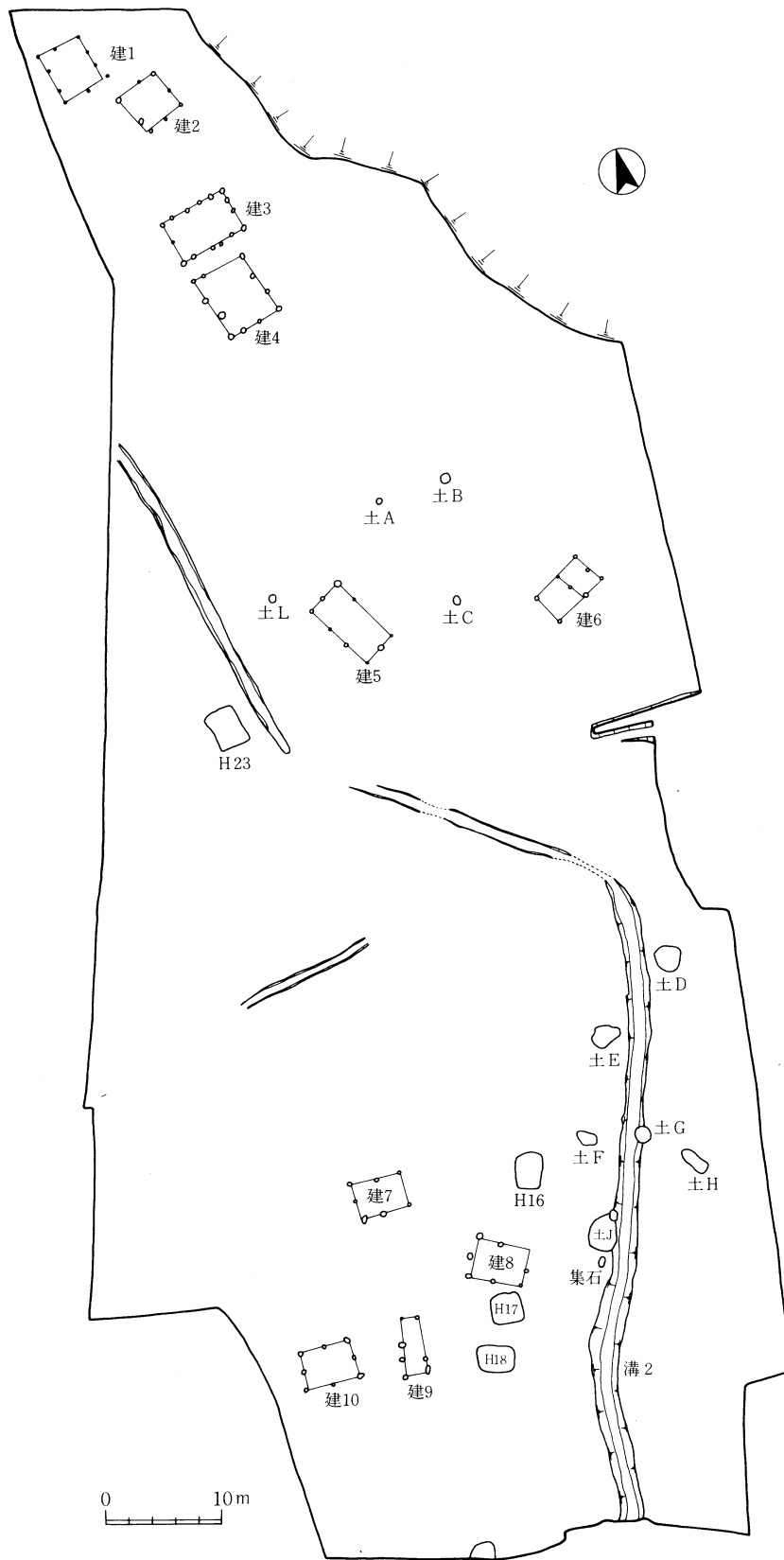
そこで、各竪穴住居跡とそれぞれの遺物出土を、前回分と一緒にまとめると下表のようになる。

住居	形	主軸方向	規 模	出 土 遺 物					
				甕	壺	埴	高 杯	鉢	そ の 他
1	正方形	N 9°W	3.6m×3.6m	I a		IV	II	VIa	須 恵 器
2	長方形	N 7°E	3.9m×4.2m	I a	I bII	II	IIa	IIa Va1 VI	
3	正方形	N 9°E	5.0m×5.0m	IIc		IIIa	II	I a IIb IVb'	砥 石
4	長方形	N 5°E	4.4m×4.3(+a)m	I a I b IIa	I b1	II IV	I II III	I ~ IV	蓋
5	"	N 7°W	4.3m×4.7m	I b	I b I d II	II	II VI		須 恵 器
6	"	N 24°W	3.3m×3.6m	I	I a・III	II	II	○	砥 石
7	方 形	N 10°W	4.0m×5.4m	I a	I c	IIb VI	II	I c IIIa Vb	
8	正方形	N 19°E	4.5m×4.7m	I a I b	I		IIb	VI VIII	
9	"	N 56°E	5.3m×5.3m	○	I d	III IV V	II III	I III IV	匙・鉄器
10	台 形	N	(2.3m+5.3m)×4 m	I b					須 恵 器
11	正方形	N 7°E'	4.3m×4.3m	I b	I b1		II	IIb Va2	
12	長方形	N 71°E	5.0m×5.8m	I a I b III	II	II IV V	II	IVa VII	須恵器・砥石
13	"	N 26°E	2.5(+a)m×2.8(+a)m	I a I c III		IIIc	I II		
14	"	N	4.8(+a)m×6(+a)m	I a I b	II VI	IIb VI	○	IIIb Vc	ふいご石
15	"	N 4°W	3.5m×4.0m	I a I d			IIc		須 恵 器
19	方 形	N 6°E		I a					
20	"	N 17°W	4.9m×4.0m	IIa		IIb	II	Vb	須 恵 器
21	長方形	N 8°W	3.9m×3.5m	I a			II	I a・I b	
22	"	N 39°W	3.8m×3.5m	I a	I b	Vc	II	Vb	紡 錘 車

第18表 竪穴住居跡一覧表

なお、出土遺物の分類は、前回調査報告書のまとめの分類を使用した。

池畑耕一・川畑昭光「成岡遺跡・西ノ平遺跡・上ノ原遺跡」 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(28) 1983。



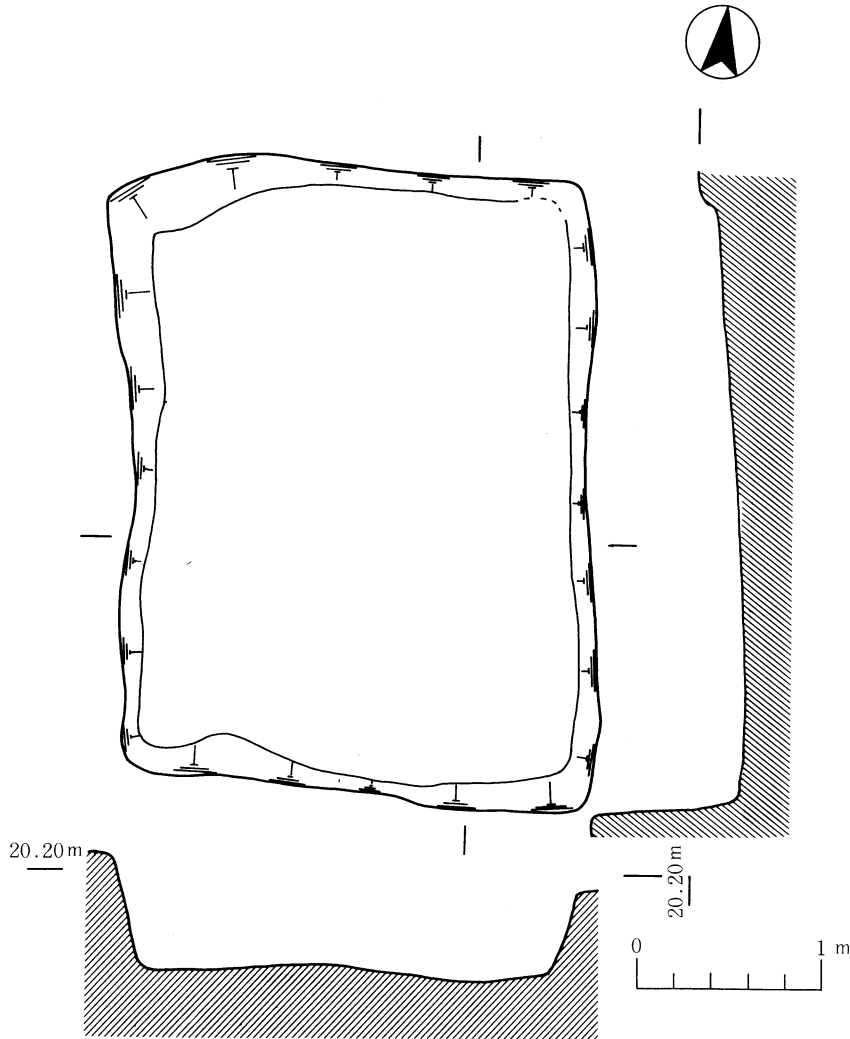
第45図 奈良～鎌倉時代の遺構配置図

## 第8章 奈良～室町時代

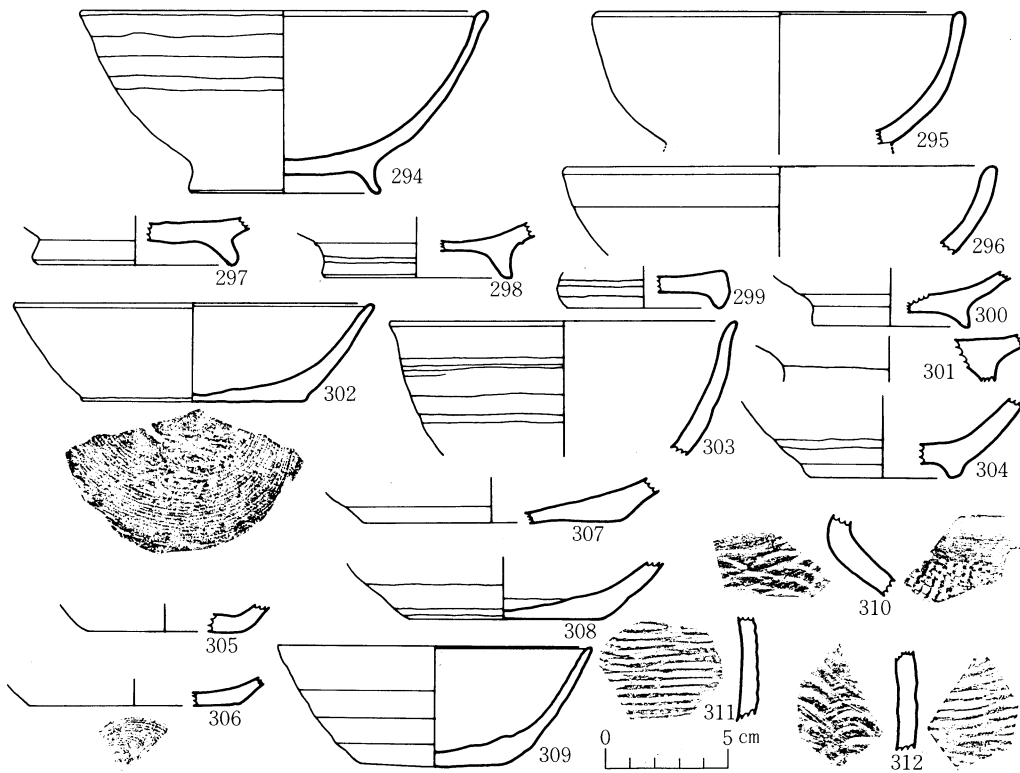
調査区内には多くの柱穴・土壇があり、出土遺物・埋土等からこの多くは平安時代から室町時代頃までのものと思われる。26～31-B～D区に溝状遺構が検出されたが、これは第45図のように溝状遺構2の続きと思われる。やはり平安時代から鎌倉時代のものである。第2次調査で掘立柱建物跡11基が確認されたが、今回は柱穴はみられたが復元出来るものはなかった。

### 23号住居跡

26C区につくられた3.4 m × 2.4 mの南北方向に長い方形住居跡で検出面からの深さは20～70cmを測る。主軸方向はN 7度Wである。内部に柱穴は検出出来なかった。遺物の出土はみられなかったが、以前の平安時代から鎌倉時代の住居跡と類似している。



第46図 23号住居跡

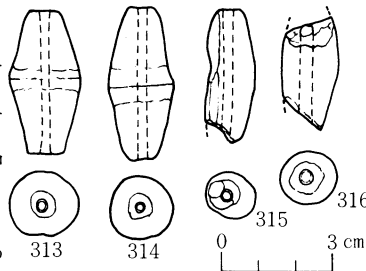


第47図 溝状遺構出土の土器

溝状遺構

26D区から31A区へまっすぐ北上し、調査地域外へ延びていく。25・26区が江戸時代以降の古道等によって削平をうけているが、前回調査の溝状遺構2の続きとみられる。埋土中には、土師器・内黒土師器・須恵器・土錘が含まれている。

294～301は内黒土師器である。すべて高台の付く壺である。294は、口縁直径16.5cm、高さ7.4cm、高台直径7.8cmを測る完形品である。295・296は口縁直径がそれぞれ15cm、17.5cmを測るやや内弯する壺である。297から301は高台で、外へ開くもの、まっすぐ立つものがある。302は坏で、底部切り離しは糸切りである。口縁直径は14.5cm、底部直径9cm、深さ4cmを測る。303は内弯気味に立ちあがり、口縁部でわずかに外反する壺である。内面は横方向のヘラミガキで仕上げられ丹が塗られた内赤土器である。305・306は土師器の皿で、306はていねいにヘラミガキで仕上げられている。307～309は壺で307・308は糸切り底、309はヘラ切り底である。301～312は須恵器の甕胴部である。



第48図 土錘

313～317は、中央部がふくらみ、両端がすぼまる形の土錘で、長軸の中心部に孔を穿つ。長軸は3.4～4.1cmを測り、最大幅の長径は1.4～1.9cmで穿孔は3mm内外である。重量はそれぞれ8.9g、9.3g、6.0g、6.2gを測る。

土 塚

28-D区で検出された。東側部分はゴボウの掘削により攪乱状態であった。そのため全体の形状は不明であるが、楕円形に近いものと予想される。短径は約80cmを測る。ゆるやかな傾斜で底に達しており、検出面からの深さは浅いものであった。中央部北寄り部分に、白磁堦・土師器の大皿及び小皿が、出土した。全て完形品であった。

317は口縁が玉縁となった白磁堦である。磁胎は灰白色で、光沢のある黄色味を帯びた釉は、体部下半には施釉されていない。体部下半には篋削りの痕を残す。内部見込みに沈線状の段を有する。

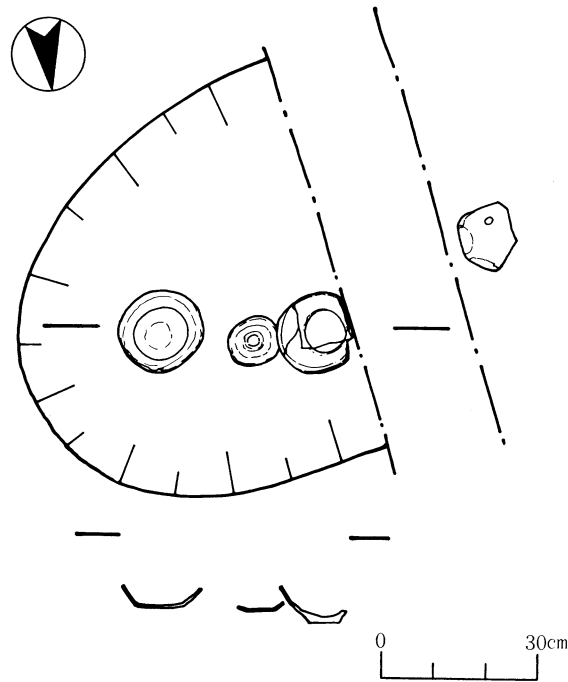
318 大形の皿で、底部は糸切りにより切り離している。内外面ともナデ調整であり、口縁直径は約15cmを測る。器高は約4cmである。

319は口縁直径が約9.5cm、器高が1.5cmの小皿である。底部切り離しは糸切りである。

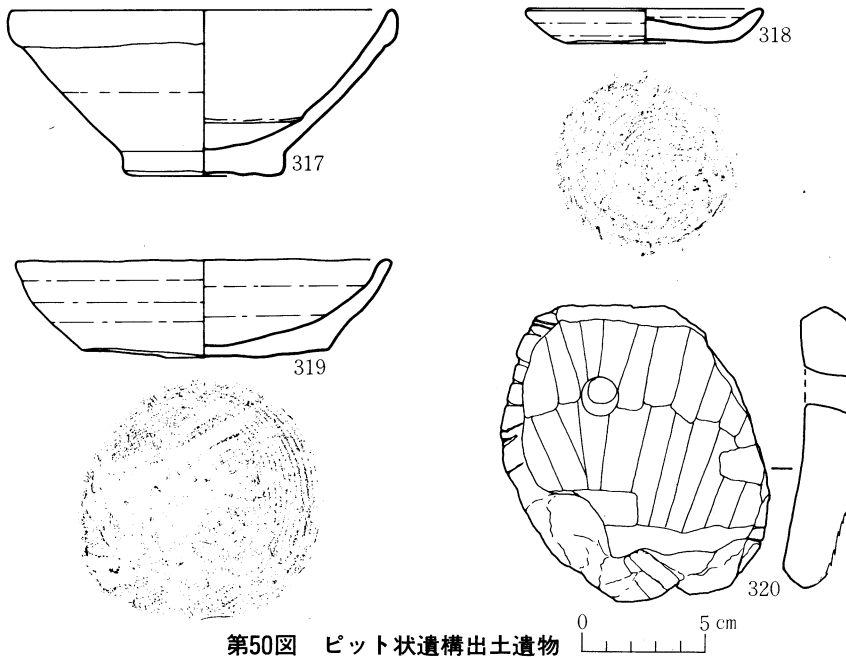
320は滑石製石鍋片であり、器面には縦位のノミ痕が観察されるとともにススが付着する。

また径約1.5cmの穿孔が行われている。

この石鍋片は遺構の西付近で出土したものであるが、ゴボウの掘削による攪乱のため、この遺構に伴うかどうか不明である。



第49図 ピット状遺構

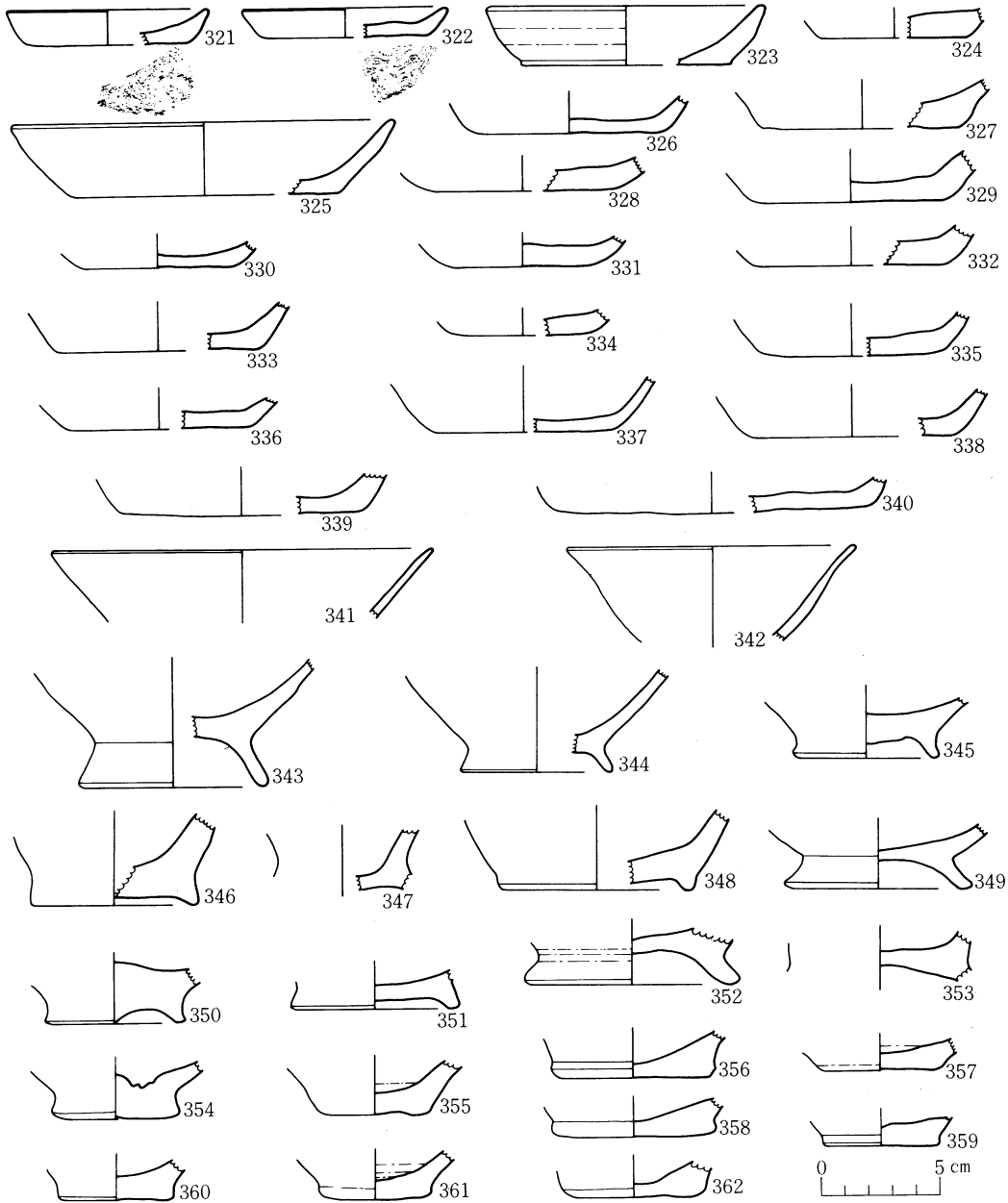


第50図 ピット状遺構出土遺物

**土師器**

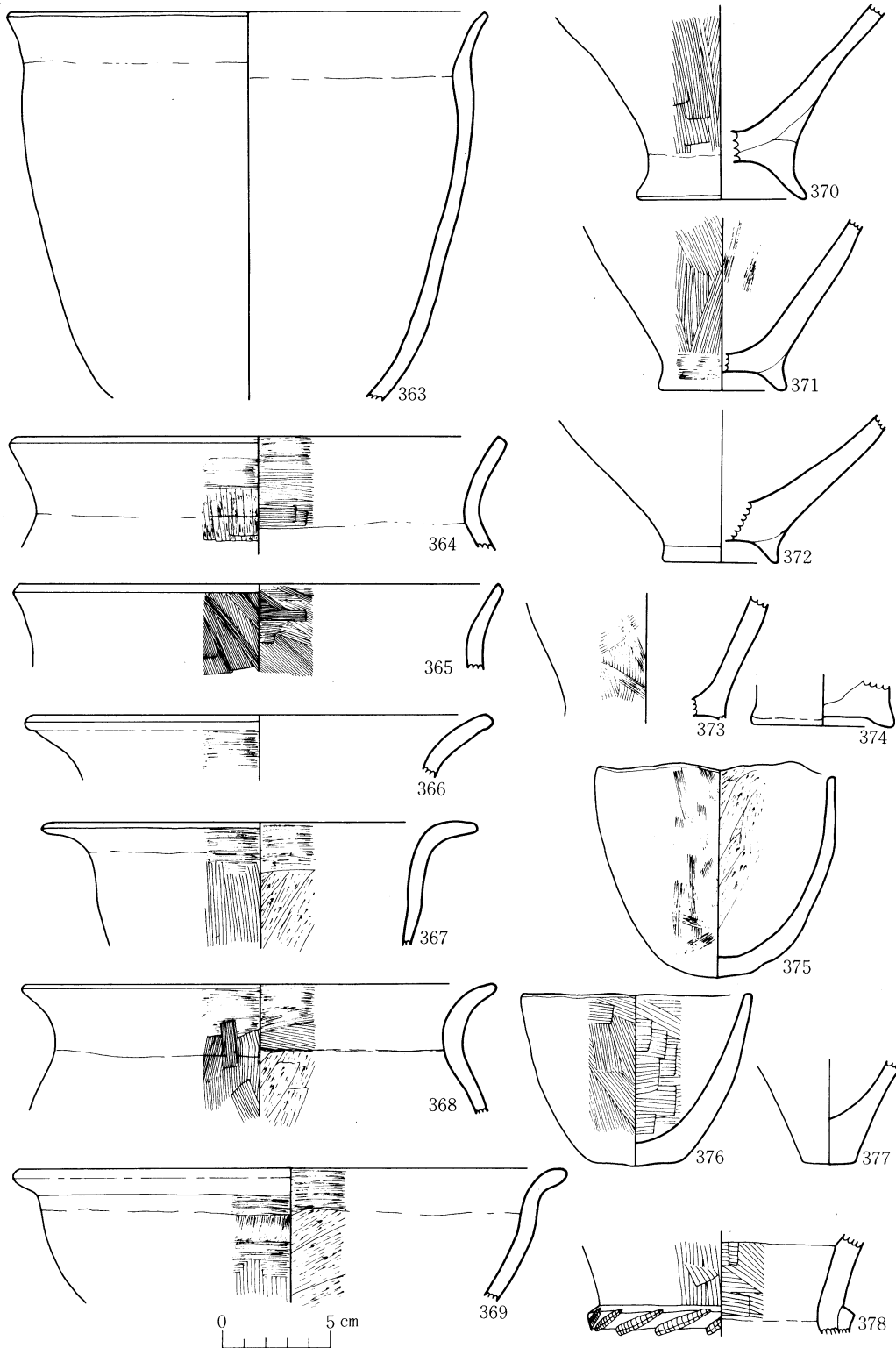
土師器は、皿・坏・埴・甕・壺・鉢が出土している。

皿は小皿と大皿にわかれる。小皿は色調は黄白色がおもで、灰褐色・淡褐色を呈すものもある。胎土に少量砂粒を含み、器面は内外面を横ナデ、内底はナデによって調整される。ヘラ切り底もみられるが糸切り底のものが主である。

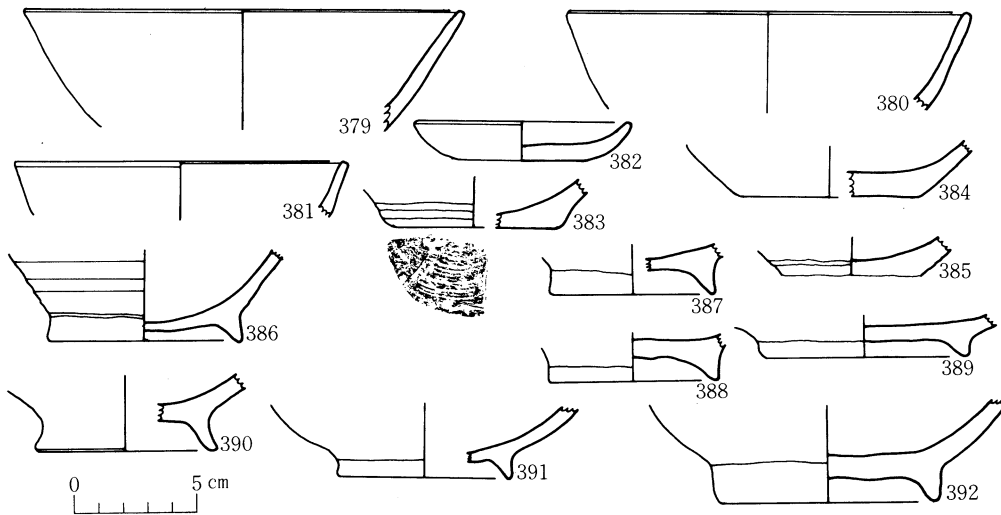


第51図 土師器 (皿、坏、埴)





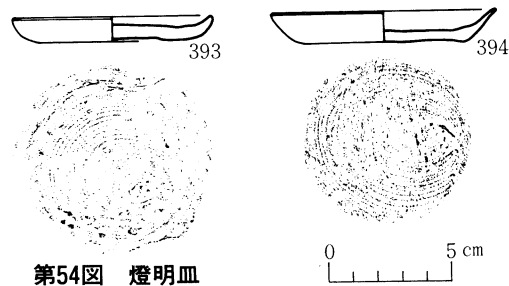
第52图 甕、壺、鉢



第53図 内黒土師器(坏・碗)

大皿は、淡褐色を呈し、胎土に少量の砂粒を含む。器面は横ナデされ、ヘラ切り底である。坏は、黄灰色ないし淡赤褐色を呈し、胎土にわずかに砂粒を含む。器面は横ナデで内底はナデ調整されている。

碗は、高台付碗とヘラ切り底をもつ碗とに大別される。色調は淡褐色ないし黄灰色を呈し、胎土に少量の破粒を含む。器面は横ナデである。



第54図 燈明皿

甕は、淡褐色ないし黄褐色を呈し、胎土に多くの砂粒を含む、また長石・石英も含まれる。内面頸部下はほとんどヘラで下から上へケズリ、D縁部は、内外面とも横ナデされている。長い胴部に、頸部が若干しまり、口縁部がやや肥厚する器形である。

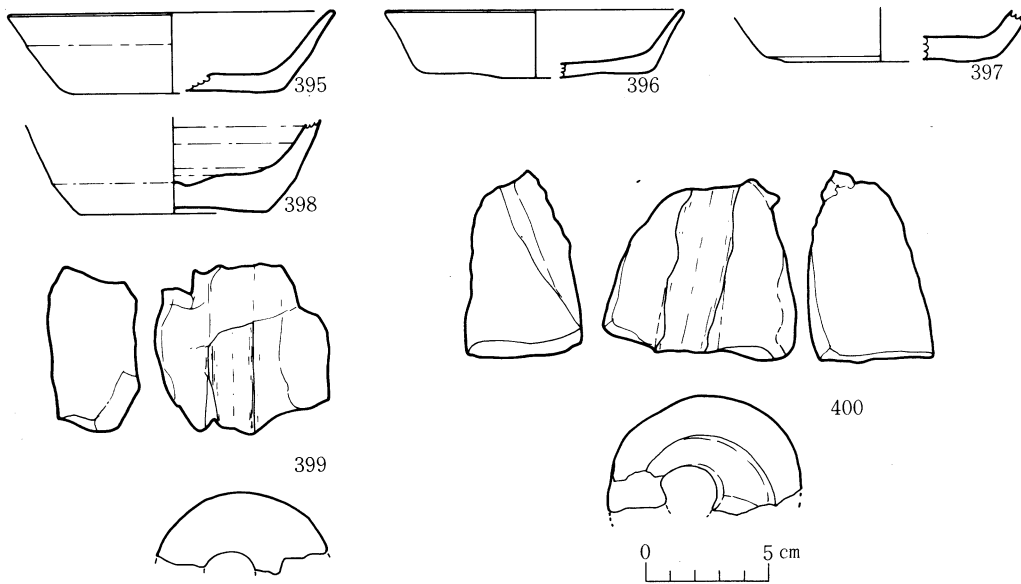
鉢は、色調が淡褐色ないし黄灰色を呈し、胎土は砂粒及び石英砂粒を含む。小型の鉢である。

**内黒土師器(第53図)**

外側の色調は、淡褐色ないし淡赤褐色である。胎土はよく精選されている。内・外面にヘラミガキを施し、高台部は、内・外面とも横ナデされている。底部は一部に糸切り底もあるが、ほとんどナデである。

**燈明皿(第54図)**

小皿の部に入れるべきであったが、完形品を2点別にした。2点とも色調は、淡褐色を呈し胎土に少量砂粒を含み、器面は内外面を横ナデ、内底はナデによる調整である。糸切り底である。



第55図 須恵器・ふいご口

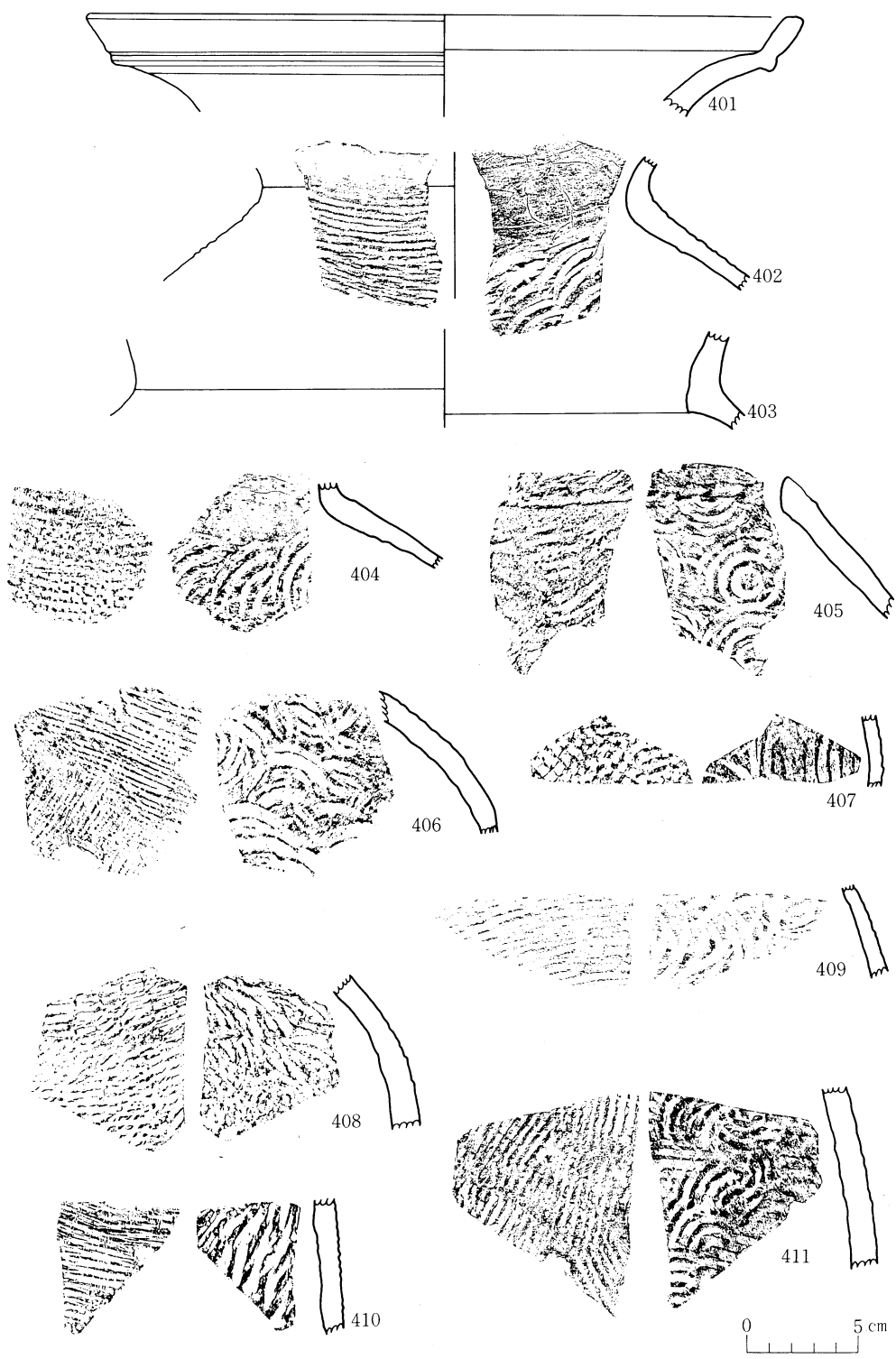
須恵器(第55～57図)

須恵器は、坏・壺・甕・鉢が出土している。

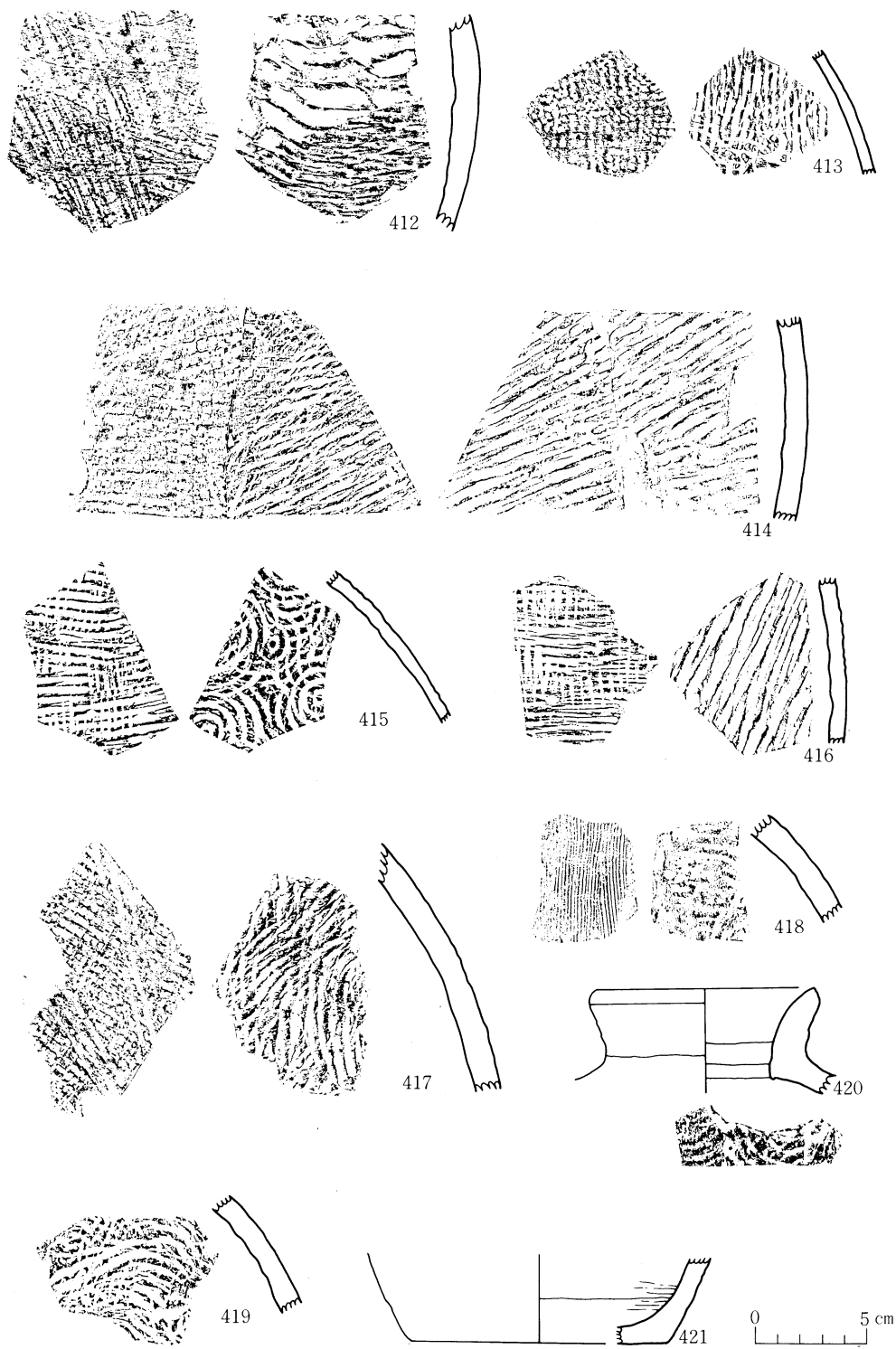
坏身の形態は高台を伴えないもので、色調は暗灰色を呈し、胎土には石英・長石・砂粒を含んでいる。395・396とも高さが低くなっている。底部は平底で、回転ヘラ切り未調整の痕跡が残っている。

壺は小片のため、器形などは定かでない。401は頸部から口縁にかけて大きく外反し、口縁端部は小さく内行し、さらに外反する。402は頸部のくびれる部分である。

甕には長頸と短頸の広口壺がある。外面には格子目叩きと平行線状叩きの二種類がある。内面には同心円叩き、同心円と平行線の組合せ、平行線状叩きがある。



第56図 須恵器 (1)



第57図 須恵器(2)

青・白磁

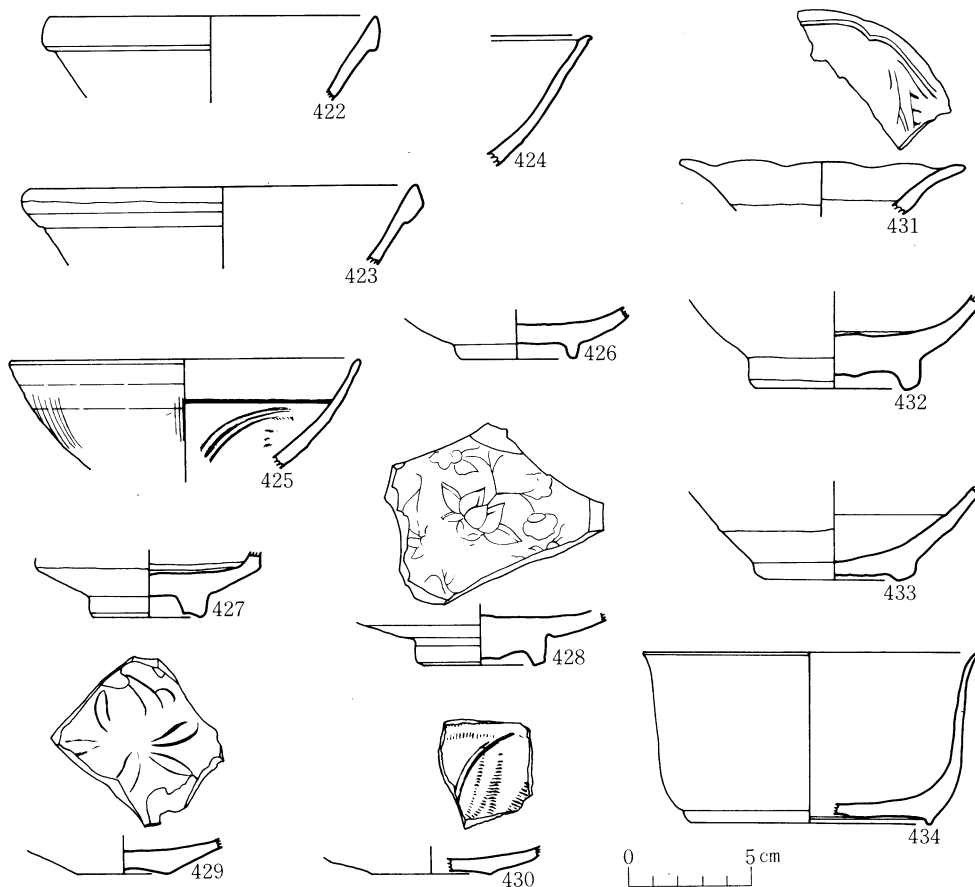
今回の調査でも青磁及び白磁が出土しているが、量的には多いものではなかった。壺が大部分であり、一部皿も見られる。

青磁は425・429・430・431・432であり、他は白磁である。424・430は同安窯系青磁であり、内外面に楡描文を有する。430は皿である。13Cごろのものである。

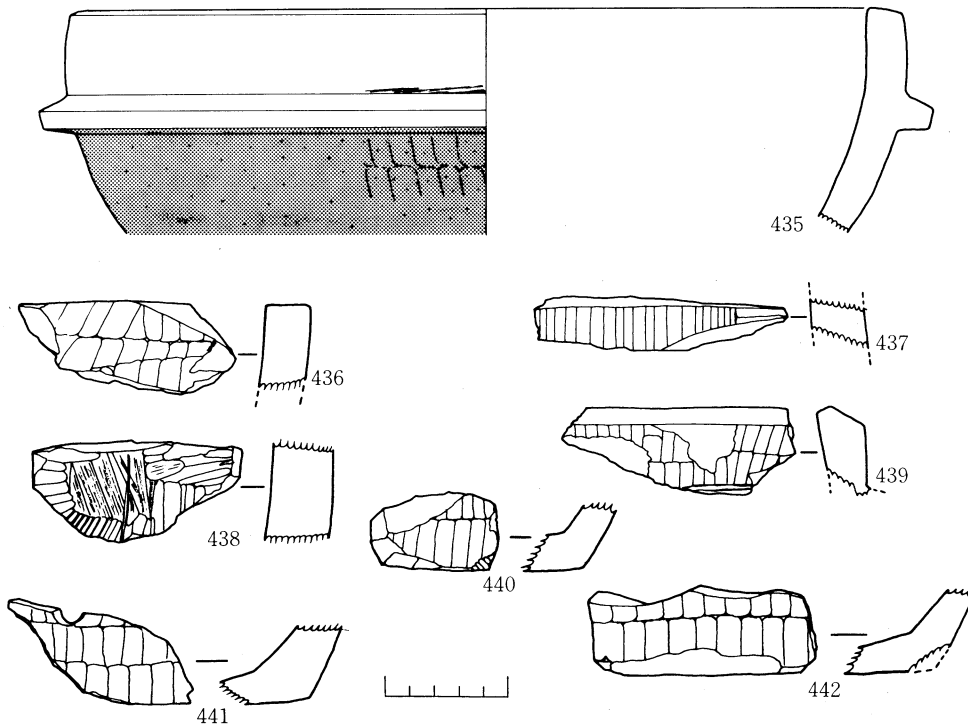
は竜泉窯系青磁である。431は稜花皿で、429の見込みには花文がみられる。

422・423の白磁は口縁部に玉縁をもつものである。復元口径はそれぞれ約13cm・約16cmである。434の口縁は外反するもので、体部外面下半には施釉されない。433はこれらの底部片であり、外面下半は施釉されてない。12Cごろのものである。

前回の調査では多くの青磁及び白磁が出土している。青磁のなかで量的に最も多かったのは竜泉窯系のものであった。次に同安窯系青磁が25点ほど出土している。また、越州系青磁もわずかに8点と量的には少ないが検出されている。



第58図 青・白磁



第59図 石製品（滑石製品）

石製品（第59図）

石製品には石鍋・滑石製品がある。

435 は滑石製石鍋である。復元口縁34cmを測り、肩部に鏝状突帯をもつもので、器面には縦位にノミ痕が



第60図 古銭拓影 (3/8)

観察されるときも煤が付着している。436～442も滑石製の石製品であるが用途は不明である。やはり器面に縦位のノミ痕がみられる。

古銭（第60図）

古銭は「洪武通寶」と「寛永通寶」である。「洪武通寶」は26C区表層から出土したものである。443は外径2.1cm、厚さ0.14cmを測る。無背である。444・445は「寛永通寶」である。445は「寶」の字体が「寛永通寶」と同体である。29A区と28A区の表土から出土し、444は外径1.45cm、厚さ0.12cmを測る。

## 第9章 まとめにかえて

1次調査の結果、成岡遺跡は下層より旧石器時代、縄文時代、古墳時代、奈良時代～江戸時代までの長期にわたって生活が営まれていたことが判明した。今回は未売取部と旧石器時代を主に調査をおこなった。1次調査と合わせ以下、時代ごとに若干まとめておきたい。

### 旧石器時代

第Ⅳ層～Ⅴ層上部にかけて3ヶ所のユニットを検出し、遺物は細石器・尖頭器・ナイフ形石器・削器等が出土した。本県では旧石器時代の遺跡は細石器文化が中心で、ナイフ形石器等を伴う遺跡は、上場遺跡<sup>1)</sup>、小牧3A遺跡<sup>2)</sup>、木場A遺跡<sup>3)</sup>等数える程しか確認されていない。また遺構も上場遺跡の住居跡・集石・土壇、木場A遺跡の集石等少く、当遺跡のユニットによる出土状況等貴重なものである。

細石刃核は今回4つの型式に分類したが、他資料との比較検討を加える必要がある。形態の違いが即、時期差であるのか、また細石器と共伴する石器の組合せも特異な特徴を示しているので今後検討を加えていく必要がある。

剥片尖頭器・ナイフ形石器が細石器と共伴する例では、熊本県水俣市石飛遺跡<sup>4)</sup>が知られている。石飛遺跡では4層からナイフ形石器・台形石器・剥片・細石刃・細石刃核が出土している。また、栗野町木場A-2遺跡<sup>5)</sup>では、断面三角形尖頭器・ナイフ形石器と細石刃・細石刃核がN層から出土している。また九州においては細石刃核・細石刃とナイフ形石器・台形石器が共伴する例として、佐賀県原遺跡<sup>6)</sup>、福岡県野黒坂遺跡<sup>7)</sup>、峠山遺跡<sup>8)</sup>、長崎県百花台遺跡<sup>9)</sup>、堂崎遺跡<sup>10)</sup>、宮崎県船野遺跡<sup>11)</sup>などがある。このことから、細石器文化にもナイフ形石器や台形石器が共伴し、ナイフ形石器・台形石器・尖頭器が新しい時期まで存続することが考えられる。

### 縄文時代

第1次調査では、早期～晩期まで出土遺物は少なかったが出土している。今回は30-C区において晩期の土壇を検出し、またその周辺よりも若干の土器が出土した。晩期の土器は、中葉の晩期Ⅱ式・黒川式土器である。土壇の一括土器は資料的にセット関係がつかめた。甕形土器・浅鉢形土器がセットになり、晩期の編年上基本となるセット関係と考えられる。甕形土器は口縁部が外向し、頸部で段をもちながら「く」字状になる。浅鉢形土器は口縁は丸味をもつ鱗状突起もみられる。

本遺跡の本地区の問題提起としては、晩期のⅡ式・黒川式土器において、元来浅鉢の口縁部が長いものと短いものが上げられていたが、しかし、本遺跡の地区にみるかぎり口縁部の長いものはみられず、短いもののみが出土し、一時期のものと考えられる一端を覗かせたと思われる。

### 古墳時代

今回の調査によって、竪穴住居跡3基が新たに検出され、成岡遺跡は竪穴住居跡19基、土壇1と多くの土器が出土した。



竪穴住居跡はほとんど方形プランをし、ほぼ中央部に灰・炭が堆積しており、焼土のあることから中央炉の存在が予想できる。出土遺物は土師器・須恵器・ふいご羽口などである。土師器は甕形土器・壺形土器・埴形土器・鉢形土器・高坏・手づくね土器である。甕形土器はほとんどがくの字口縁をもつものである。埴形土器は平底で丹塗りが多い。高坏は塊形の器形をした坏部と、裾部と筒部の境がはっきりしない脚部からなる丹塗土器である。手づくね土器は甕形である。

#### 奈良～室町時代

柱穴、竪穴住居跡、溝状遺構等が検出された。柱穴は全域でみられたが、復元できるものはなかった。出土遺物や埋土等からこれらの多くは平安時代から鎌倉時代のもものが中心であったと思われる。3.4m×2.4mの南北方向に長い方形の竪穴住居跡が検出され、この時期の竪穴住居跡は計4基となる。いずれも3m前後しかない小型の方形あるいは隅丸方形の住居である。柱穴の位置・有無等相違もみられるが、ほぼ類似した様相をしており、深いのも共通である。埋土中の遺物から時期は鎌倉時代と推定される。この時期の竪穴住居跡は栗野町山崎B遺跡でも検出されており、形態・規模等が似ている。溝状遺構は、前回調査の延長が検出され、弧状に巡るものと思われていたものがS字状に変化しはじめ、今後未調査部もいれ集落構成をみる好資料となるのではなかろうか。

#### <引用文献>

- 1) 池水寛治「鹿児島県出水市上場遺跡」 考古学集刊3-4 1967
- 2) 長野真一「小牧3A遺跡の紹介」 指宿史談創刊号 1979
- 3) 牛ノ浜修, 出口浩, 池畑耕一「木場A遺跡」 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(21) 1982
- 4) 出水高考古学部「水俣市石飛遺跡の第二次調査」 もぐら9号 1976
- 5) 牛ノ浜修「木場A-2遺跡」 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(21) 1982
- 6) 杉原荘介・戸沢充則「佐賀県原遺跡における細石器文化の様相」 考古学集刊4-4 1971
- 7) 松岡史他「野黒坂遺跡」福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告VI 1970
- 8) 橘昌信『峠山遺跡』 福岡県教育委員会 1973
- 9) 鎌木義昌・間壁忠彦「九州地方の先土器時代, 百花台遺跡」 日本の考古学I 1965
- 10) 長崎県教育委員会「堂崎遺跡調査報告書」 長崎県文化財調査報告10 1971
- 11) 橘昌信「宮崎県船野遺跡における細石器文化」 考古学論叢3 1975

圖

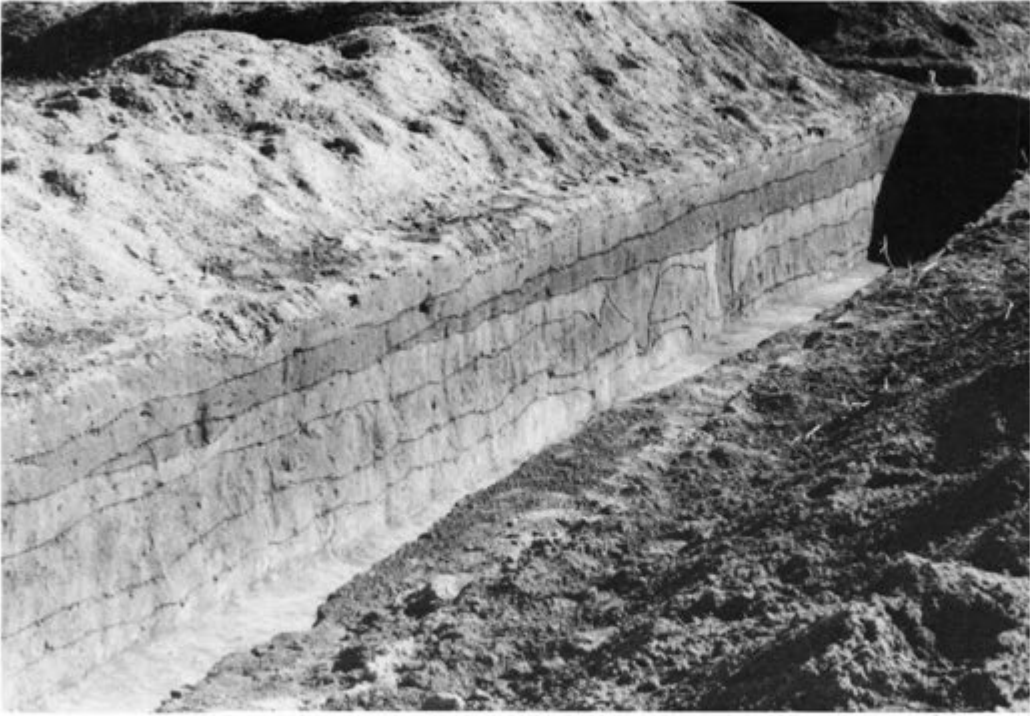
版



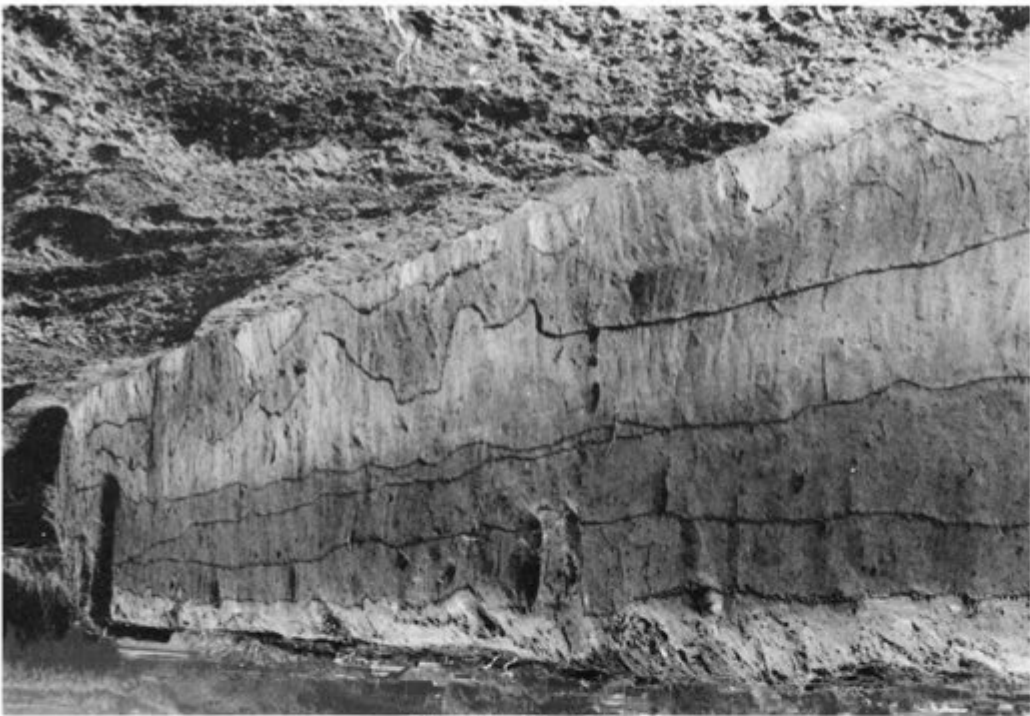
1. 発掘前



2. 成岡遺跡航空図(2次調査)



1. 土 層 图



2. 土 層 图



1. ナイフ形石器出土状況



2. 尖頭器出土状況



1. 発掘風景



2. Cユニット遺物出土状況

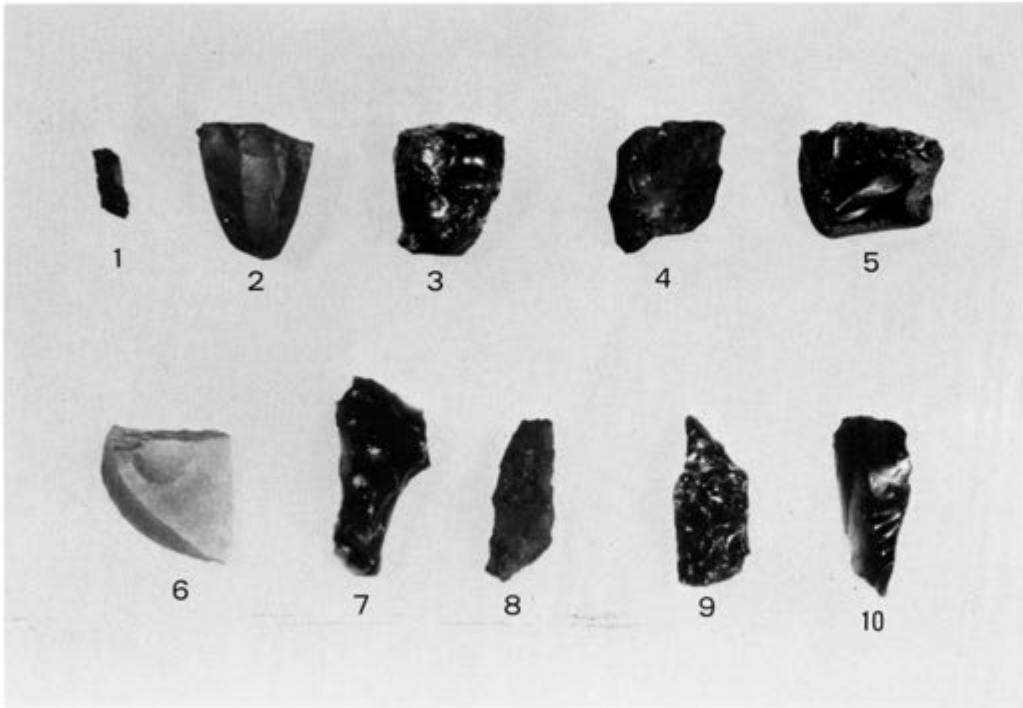




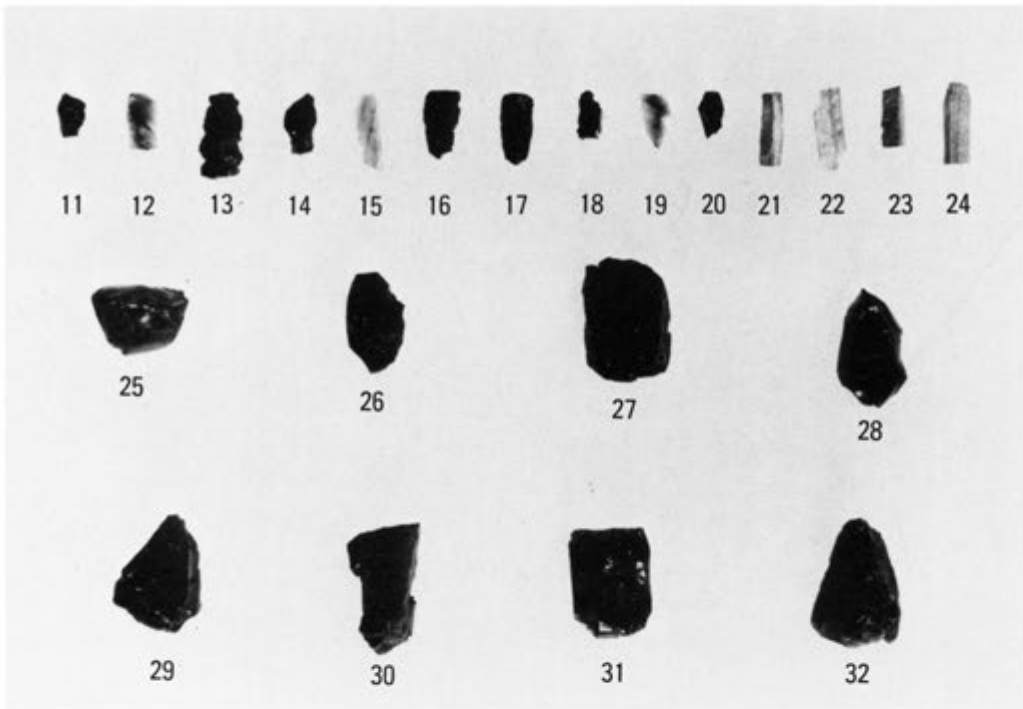
1. 削器出土状況



2. 尖頭器出土状況

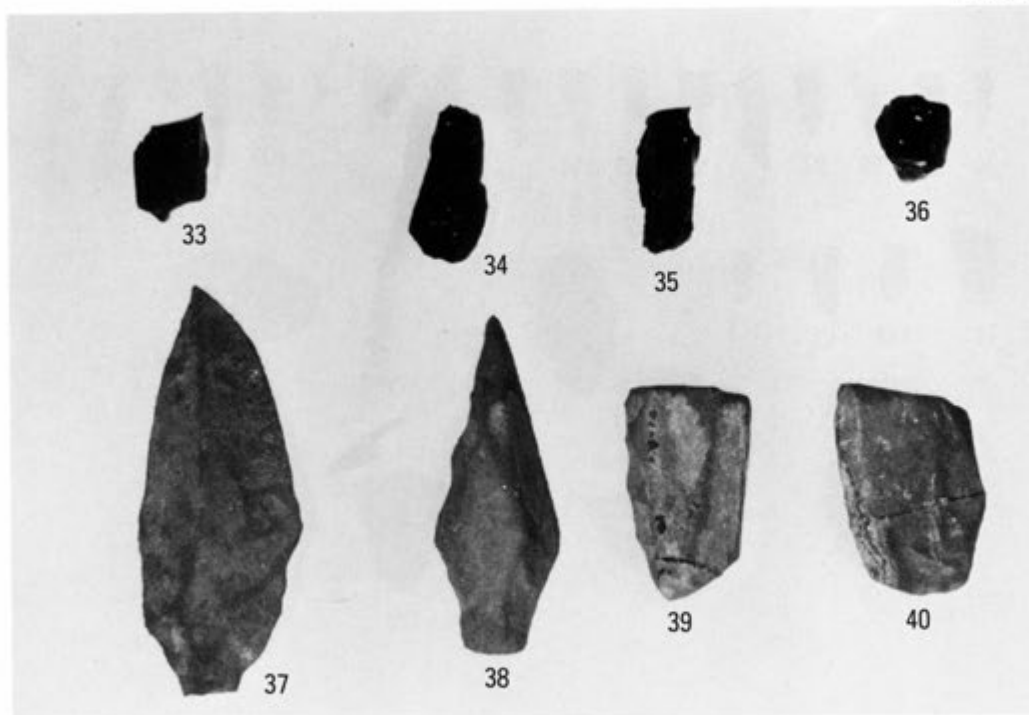


1. Aユニット出土石器

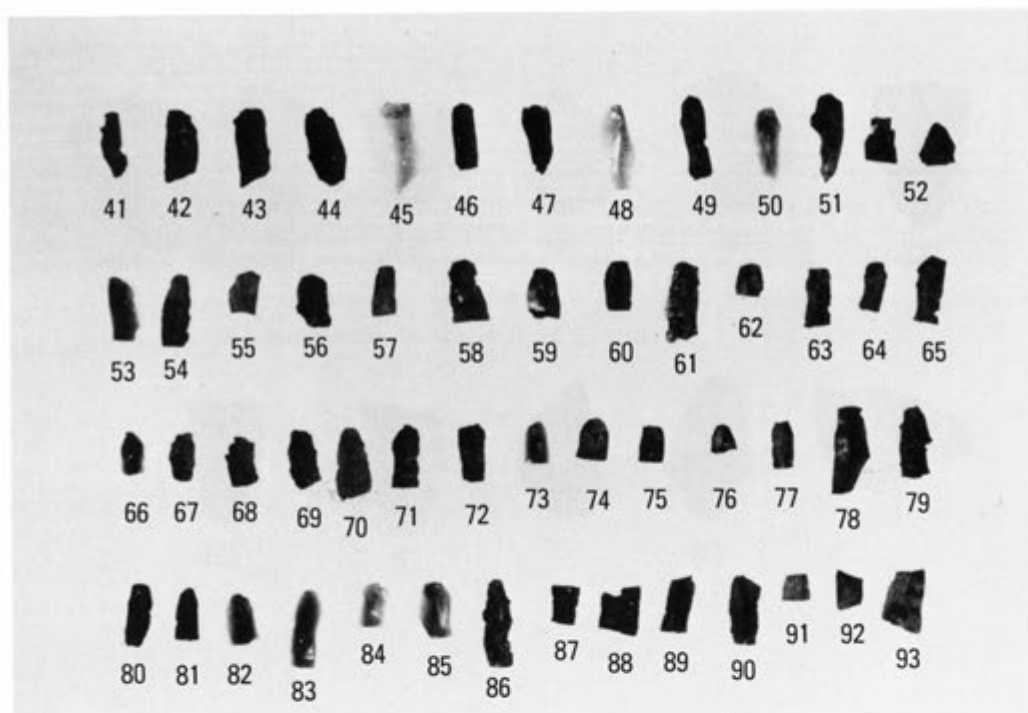


2. Bユニット出土石器

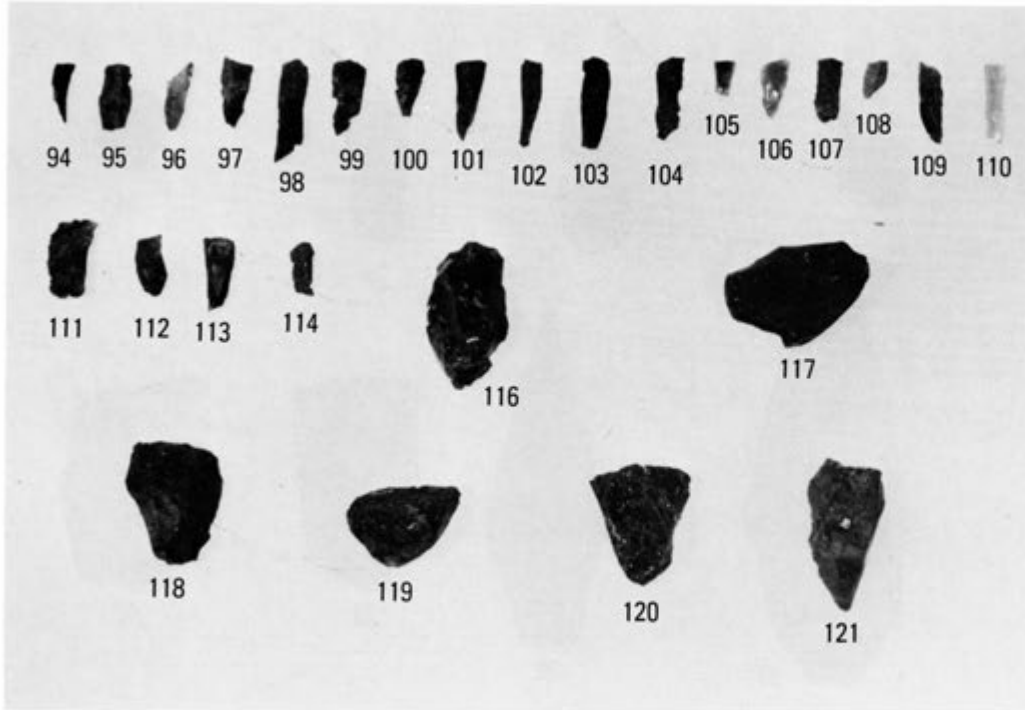




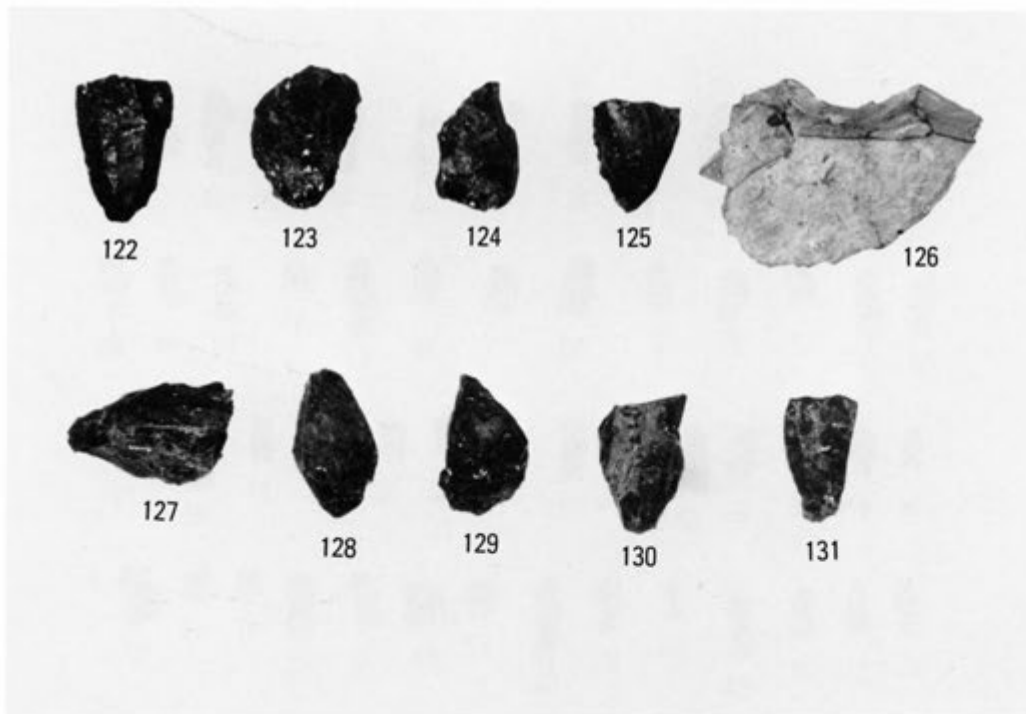
1. Bユニット出土石器



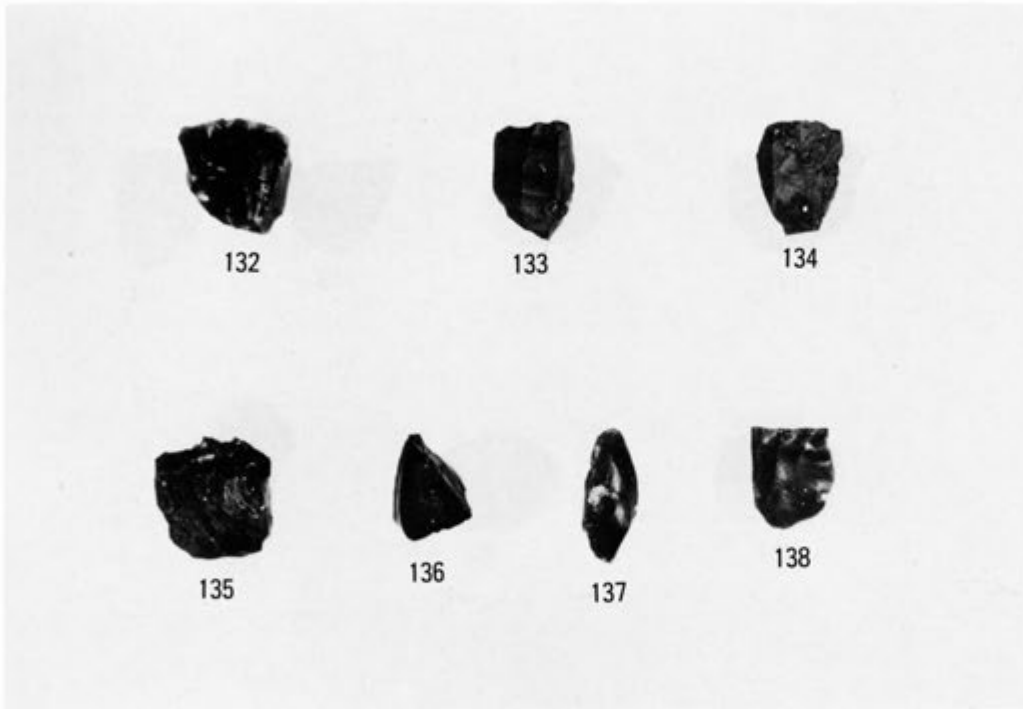
2. Cユニット出土石器(細石刃)



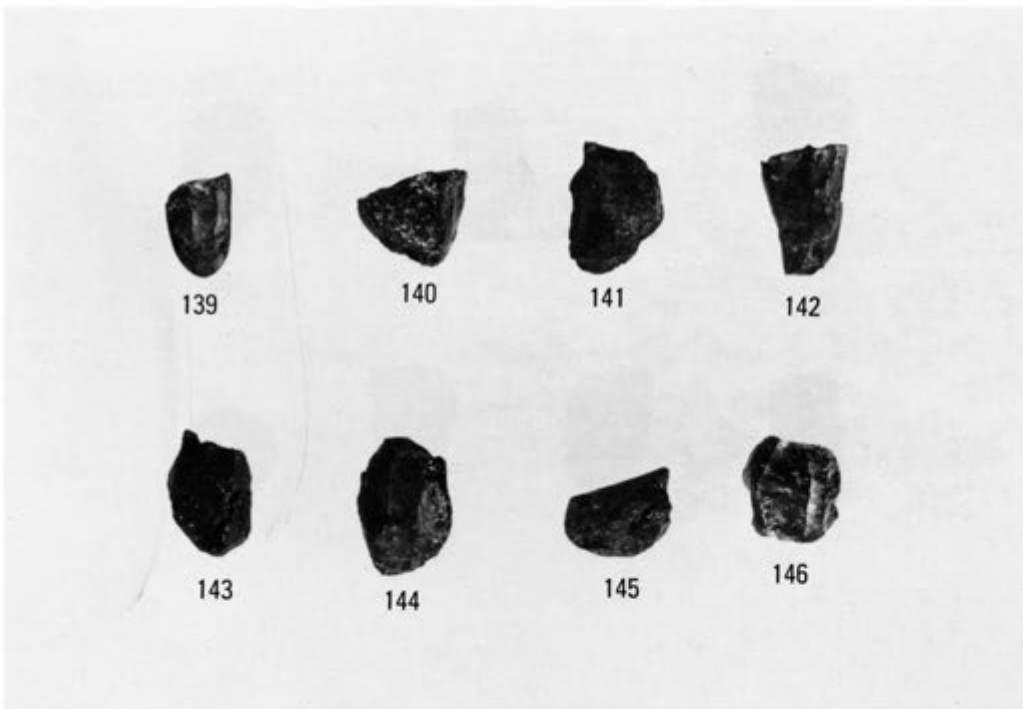
1. Cユニット出土石器(細石刃・細石刃核)



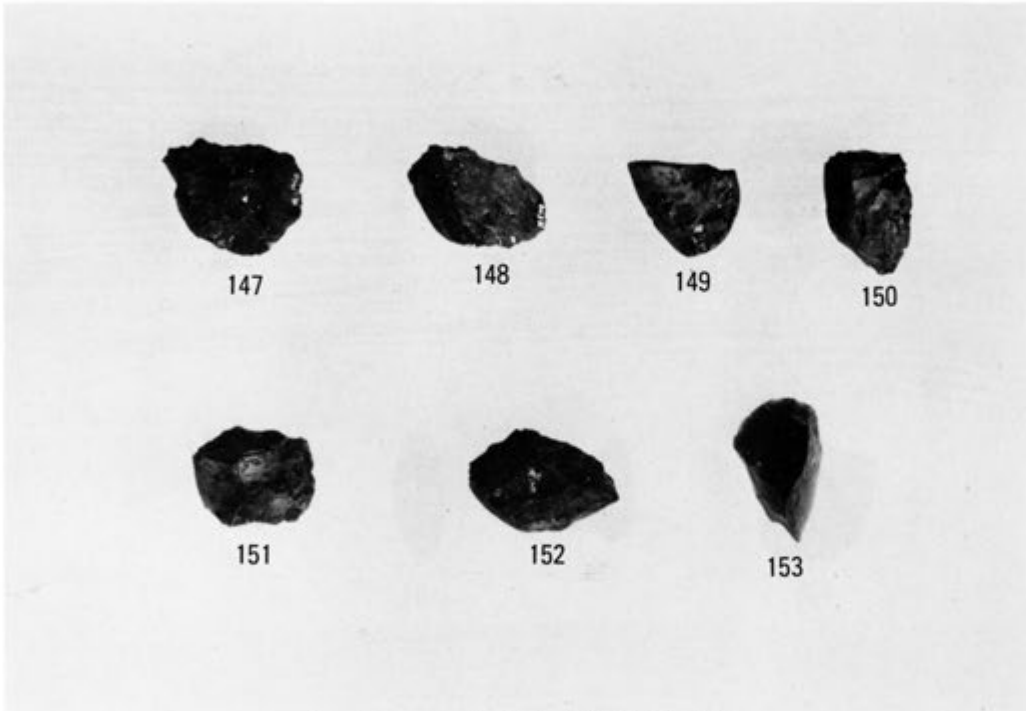
2. Cユニット出土石器(細石刃核)



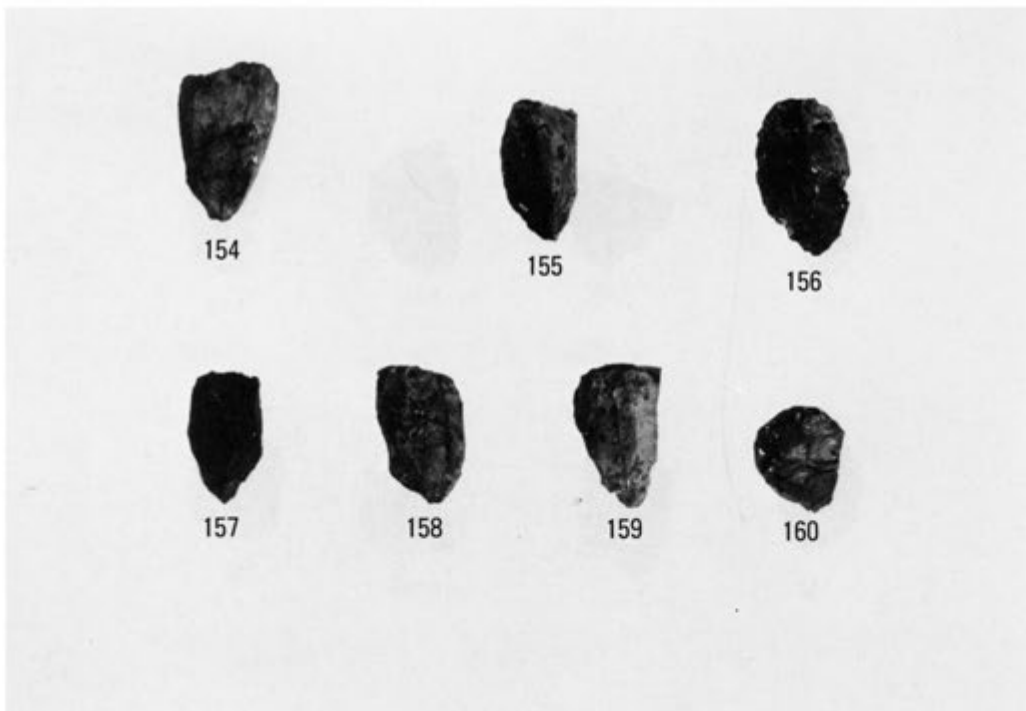
1. Cユニット出土石器(細石刃核)



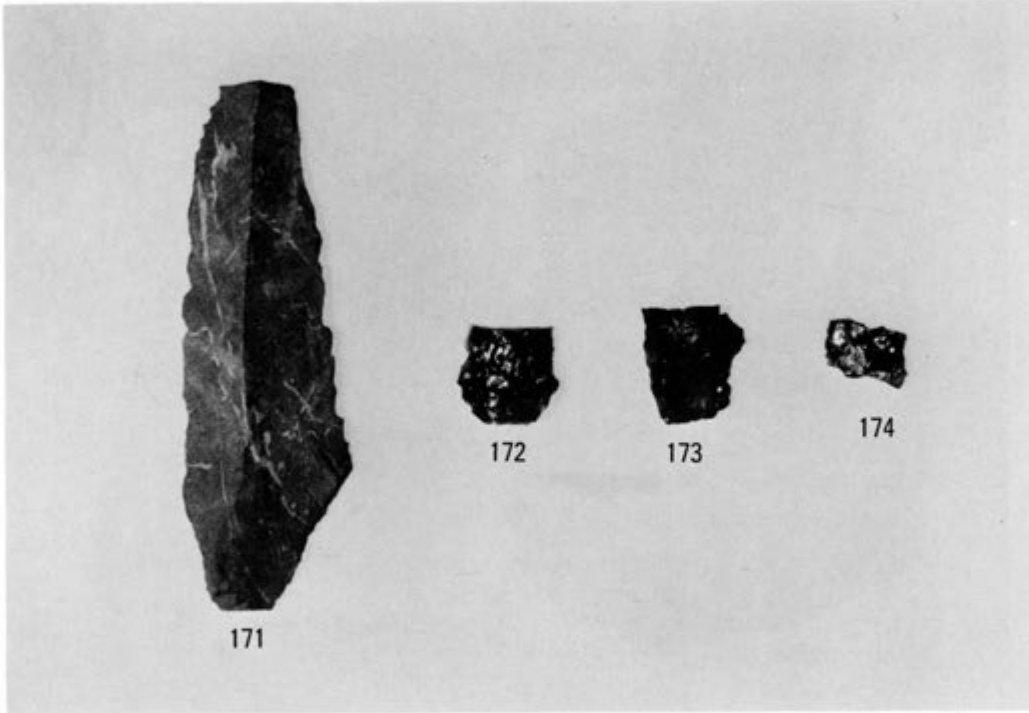
2. Cユニット出土石器(細石刃核)



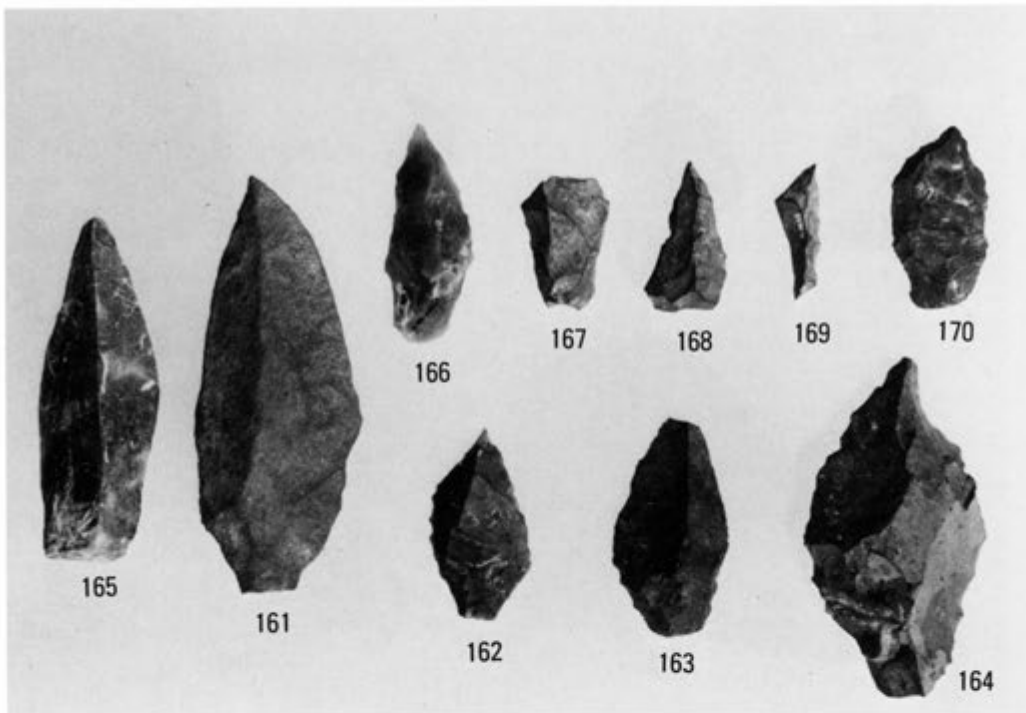
1. Cユニット出土石器(細石刃核)



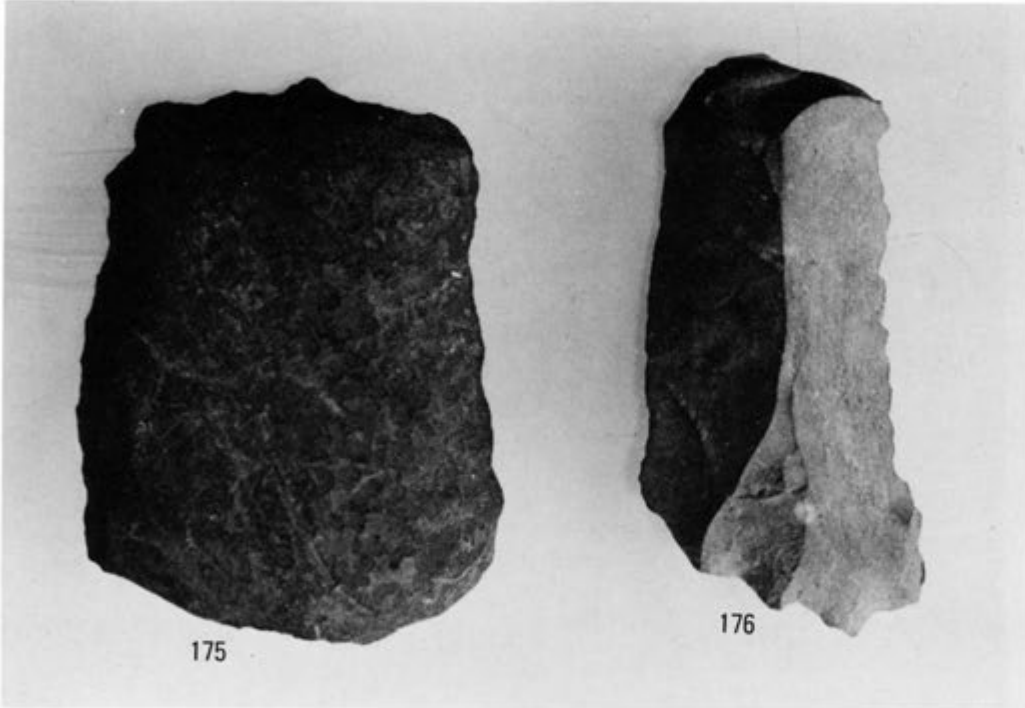
2. Cユニット出土石器(細石刃核)



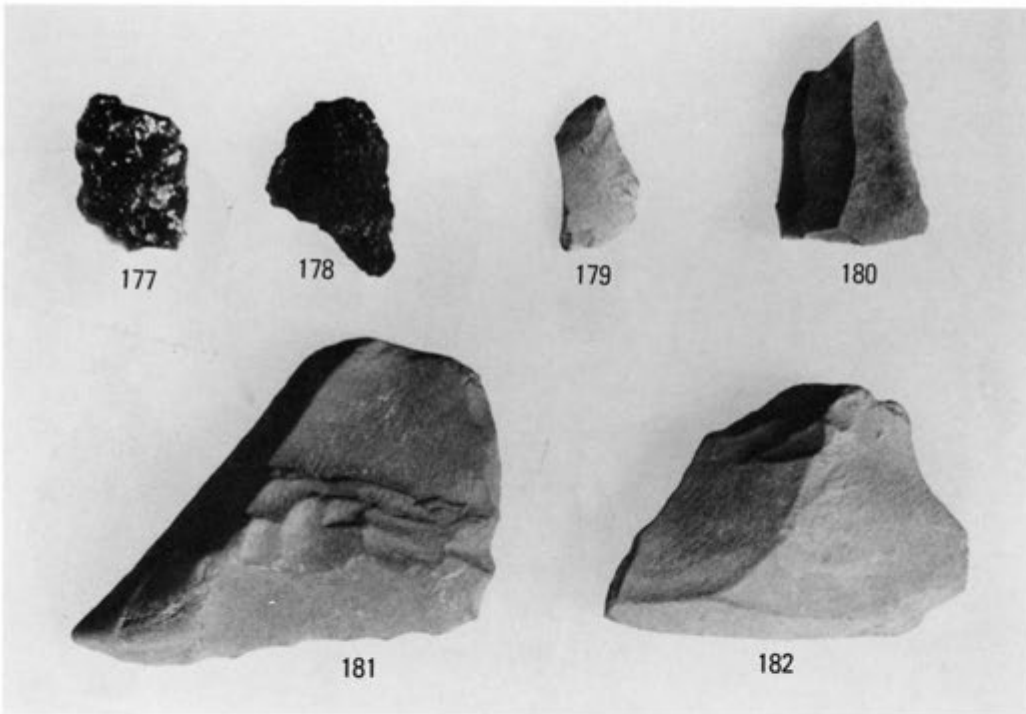
1. Cユニット出土石器(ナイフ形石器)



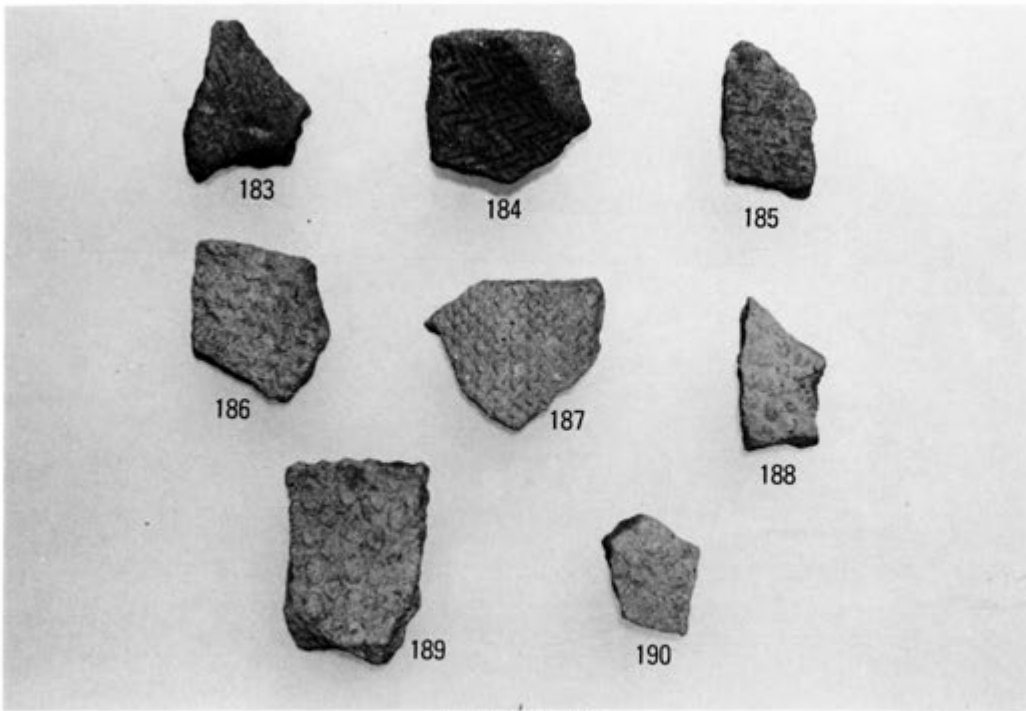
2. Cユニット出土石器(尖頭器)



1. Cユニット出土石器(削器)



1. Cユニット出土石器(削器)



1. 押型文土器



2 土壇内遺物出土狀況



1. 土坑遺物出土狀況



2. 土 坑





1. 土坑内出土土器



2. 土坑内出土土器



1. 20号住居跡



2. 21号住居跡



1. 22号住居跡



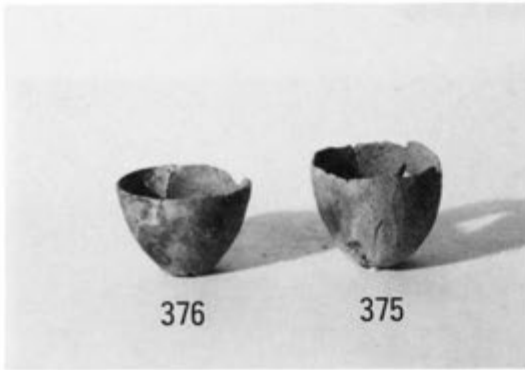
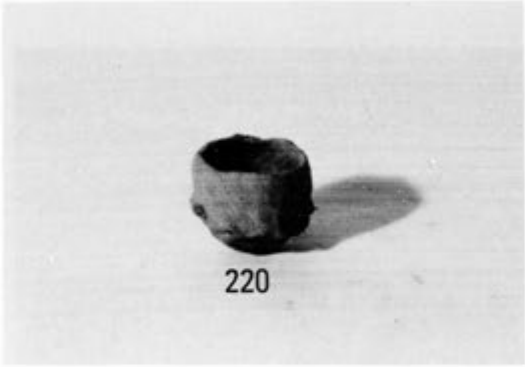
2. 21号住居跡出土土器



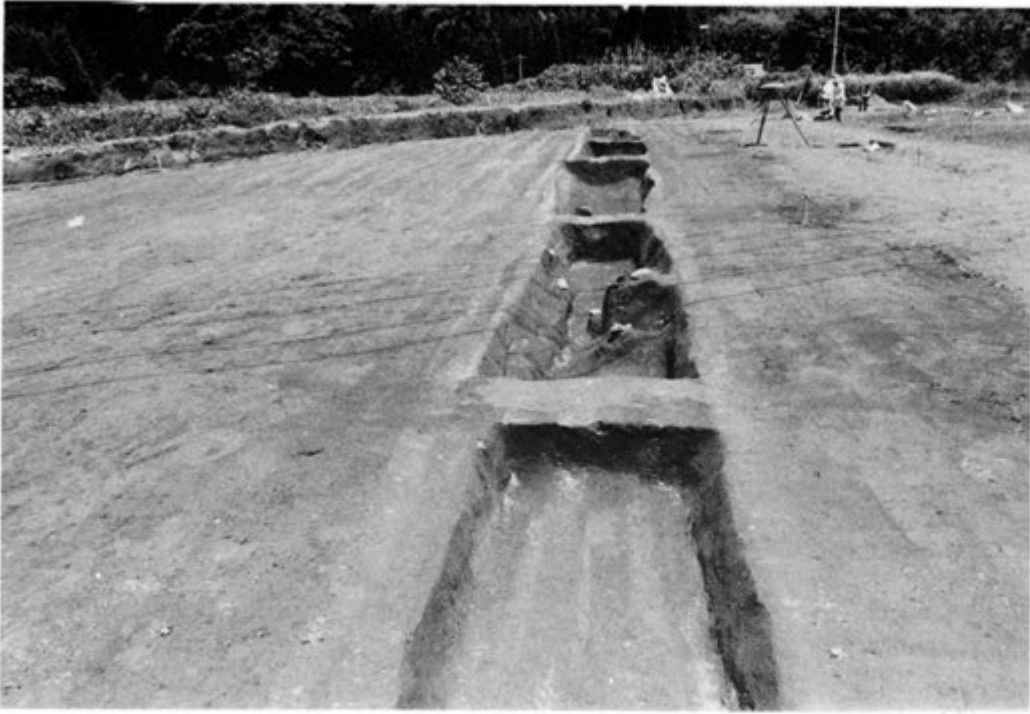
1. 21号住居跡出土土器



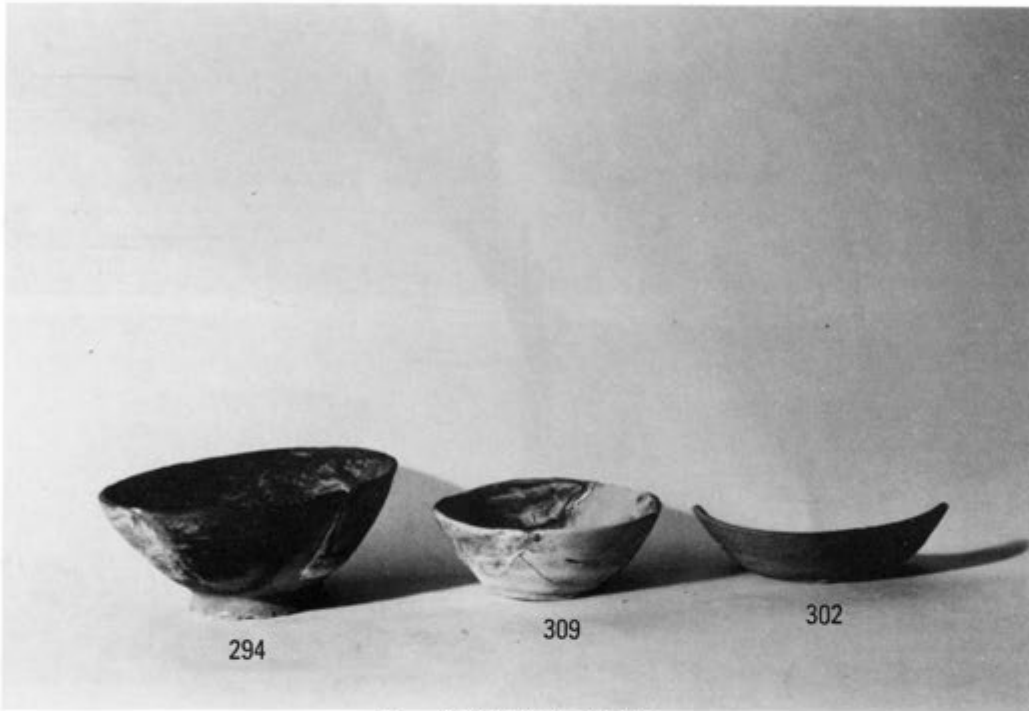
2. 高坏出土状况



土師器

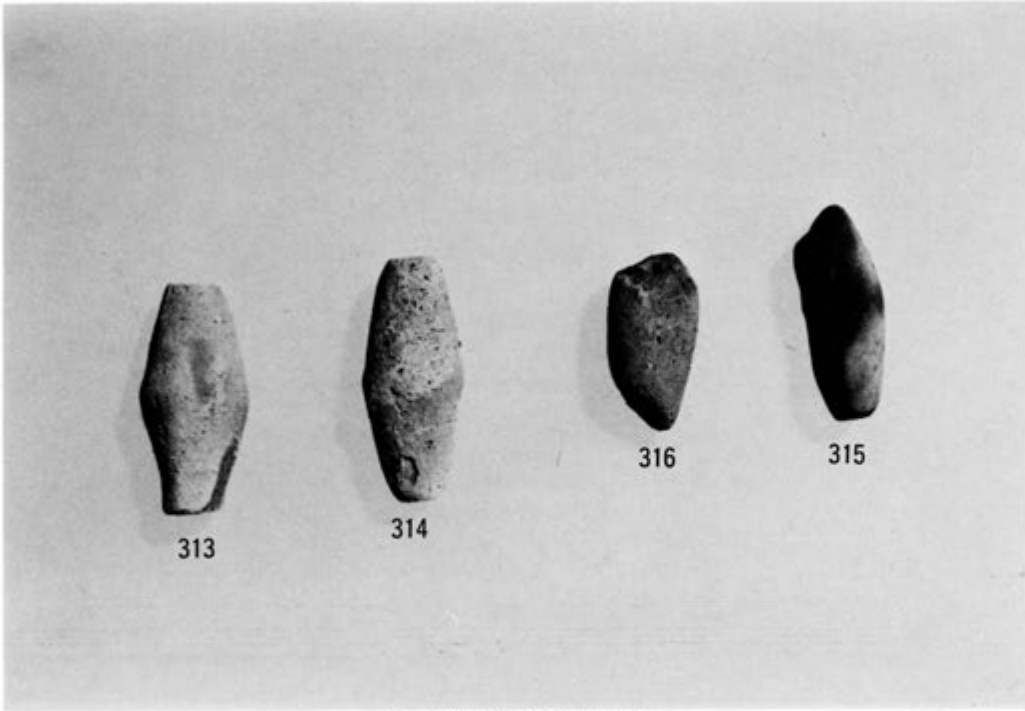


1. 溝状遺構出土土器

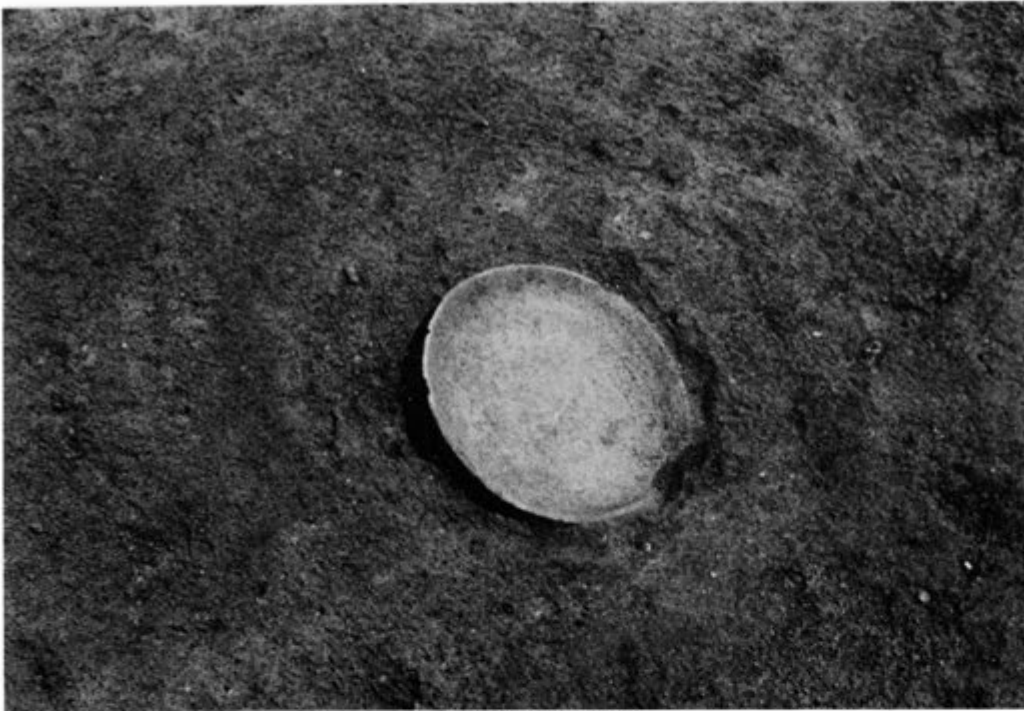


2. 溝状遺構出土土器

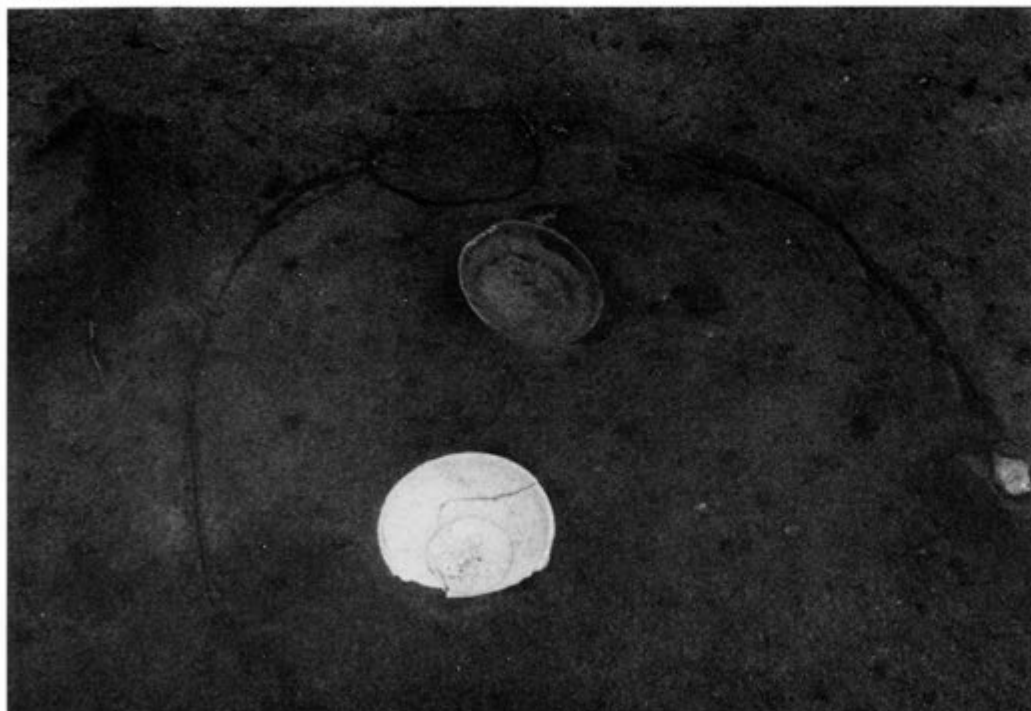




1. 溝状遺構出土土錘



2. 燈明皿出土狀況



1. ピット状遺構



2. 出土遺物





1. 青磁



2. 調査メンバー

## あ と が き

うららかな春光のなかで発掘調査は開始され、そして梅雨に悩まされながら続き、そのあと夏の強い日射しを受けるまでの長い期間の調査であった。

また、調査はごぼう畑の掘削による攪乱に悩まされ、小さい黒曜石の碎片を捜す作業が続いた。作業員の中には、調査終了後も黒いものを見ると黒曜石と間違える日が続いたとも聞く。

作業員の方々は、前回までの調査で慣れた人が多く、今回の発掘調査はスムーズに終わることができた。炎天下では焼けつく背中を氷で冷やしながらがんばってもらった。また、な整理作業をしてもらった重富取蔵庫みなさんや、終始手伝いをいただいた川内市資料館の中島哲郎・長谷川順一の各氏のほか、四本廷宏氏に心から感謝して結びとしたい。

### 調査作業員

松下重信、堀ノ内弘道、村野春次、山内澄子、淵脇昌子、宮内和子、永田サチ、新満シズエ、多田スミ子、永吉ノリ子、出来スミ、福田敏子、徳守キクエ、森木幸子、南照子、南セツ、山本シズ子、石原米子、馬場京子、穂満紀代子、出来シズ子、若宮アキ子、

### 整理作業員

葉畑光博、下山覚（鹿児島大学生）

河野陽子、中川キミ子、後堂悦子、高瀬孝子、中原己美子、是枝佐百合

鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（35）

## 成岡遺跡

発行日 昭和60年3月

発行 鹿児島県教育委員会

〒892 鹿児島市山下町14番50号

印刷 株式会社 秀巧社印刷

〒890 鹿児島市高麗町42番15号